

第五章

通変星の象意



第七章

通変星を陰陽、 実虚で理解する



■通変星の『陰陽・実虚』

今度は、通変星を陰陽、実虚に分けて考える練習をします。

通変星は、1600通りあるというのを学習しました。十干の象意が4×10で40パターンになります。4というのは、陽の実、陽の虚、陰の実、陰の虚、以上の4つで、それが十干分なので、40通りあるということです。

通変星というのは、十干と十干の掛け算なので、1600通りあるということになります。

この1600通りが瞬時に説明できるように、ここまで説明してきましたが、陰と陽、実と虚という発想がなかなかできないので、その練習を含めて、通変星でもう一度説明していこうと思います。

◆比肩

※人と対等でありたい

■特徴

- ・常に他人を意識し、上でも下でもなく、人と対等であるために努力する。
- ・自尊心、独立心が旺盛で、依頼心が無くマイペース。
- ・人の集まるところや、お祭り騒ぎが大好きで、人と一緒にいるだけで楽しい。
- ・言動や態度に裏表がなく、人を疑ったり駆け引きを行うことがなく信用できる。
- ・競い合う相手がいると最高のパワーを出し、記録を更新する。
- ・他人に干渉しない。(他人の事が分からない)
- ・ほどほどや、適度という力加減がわからなくて、とことんやってしまう。
- ・人と楽しく会話をするが、他人の意見や忠告は覚えていない。
- ・とにかく実行してみるが、やりっぱなしで後始末ができない。

■比肩の組み合わせ

甲・甲	乙・乙
丙・丙	丁・丁
戊・戊	己・己
庚・庚	辛・辛
壬・壬	癸・癸

■キーワード

*長所

- ・自主独立・競争・タフ
- ・仲間意識・独断・人脈
- ・熱心・裏表がない
- ・常に前向き・体当たり
- ・パワフル・頑張り屋
- ・疲れ知らず・迷いが無い

・人の物まねばかりで、オリジナリティがない。

◆比肩の陰と陽

陽	陰
<p>言動や態度に裏表がない 駆け引きなし 他人に干渉しない 他人の意見や忠告は覚えていない とにかく実行、やりっぱなし オリジナリティがない タフ</p>	<p>対等でありたい 依頼心がない、 人と一緒にいるだけで楽しい お祭り騒ぎが大好き 人を疑わない 仲間意識 反省しない</p>

*短所

- ・すぐ熱くなる・物まね
- ・反省しない・張り合う
- ・暴走・自分勝手
- ・自己中・欲張り・孤立
- ・やりっぱなし

*人物

友人・同僚・兄弟姉妹

◆比肩の陰陽・実虚

比肩の人は、独立心が旺盛というよりも、同僚や友人などが独立したら「自分もやろう」という気持ちになって独立していくケースが多くあります。このときに、自分にもできるだろうか？といった不安感がないのが特徴で、早く自分もみんなと同じになりたい一心で目標に集中するので、達成するスピードがとても早くなります。

すぐ人と張り合うのですが、裏表がないので他人を疑うことをしません。言動に嘘はなく、ありのまま、思ったまま行動しています。しかし洞察力はないので、人の本心を見抜くことは出来ません。

欲しいモノを手に入れようとする実行力がありますが、手に入れた時点で満足して、そのあとがなく、やりつつ放しになります。

これが『虚』になると、人目を異様に気にするようになり、他

※陽は表に出ている具体的な行動。陰はその動機となる背景。

比肩の場合は、主体性はないがみんなから遅れを取らない行動が特徴で、その背景には、人と対等でありたいという気持ちが潜んでいます。

人のマネばかりして、枠から外れるのを怖がるようになります。実行力もなくなり、誰かがやってうまくいったら自分もやるといった、ズルさが出てきます。

初めから負けを意識して、人と張り合うこともしなくなり、頑張る意欲もパワーもなくなります。

その動機となる陰の部分に目を向けると、自分と周りにいる人は、みんな同類で仲間だという意識があります。ですから、初対面の人でも、相手の地位や年齢など構わず、フラットに接することができません。周りのみんなは、自分と同じことを考えていると思っているので、人を疑いません。

誰もやっていないことをやってやろうといった独創性はありませんが、周りのみんながやっているのなら、迷うことなく自分もトライします。もしスタートで遅れを取っていたら、急いでみんなと同じレベルまで到達できるよう、がむしゃらに頑張ります。それがもし失敗だったとしても、みんなもそうだと、後悔も反省

■比肩の陽

虚（無気力）	実（過剰）
人のことが気になる 競争意識がない 裏表がある 実行力がない 人マネをして手柄を横取り 独立しない 頑張らない	人に合わせられない 誰とでも張り合う 裏表がない 駆け引きはできない 人と同じがいい 実行してやりっぱなし すぐ人のマネをする 頑張りがすぎる

もしません。

大変困難な状況でも、他人に対する依頼心がなく、黙々と一人で作業するタイプです。そのかわり、困難な状況の人を助けようとか、手伝うという意識も持っていません。持っていないというよりも、気づかないタイプです。

これが『虚』になると、相手の立場や地位などを気にして、疑い深くなったり、人の顔をうかがって、態度を変えようになります。実行力がなく、人の言いなりで依頼心が強くなります。

孤立しても、孤独になっても、自分は悪くないと考えているので、反省しません。

物事を前向きに考えることができず、新しいことには、挑戦できません。

■比肩の陰

虚 (無気力)	実 (過剰)
自尊心がない 相手の力を利用したがる 人の言いなり 依頼心が強い 一人でも平気 人を疑う 前向きに考えられない 迷いが多い	対等意識が強い 自尊心が強い 依頼心がまったくない 孤独に耐えられない 人を疑わない 常に前向き 迷いが無い 反省しない

◆劫財

※すごいことやりたい!

■特徴

- ・勝つための努力を惜しまず、旺盛な競争心で何が何でも目標を達成するパワー。
- ・人当たりが良く表面柔和だが、内面には強い闘志を秘めている。
- ・物事の要点をつかむのがうまく、お金儲けに強い関心を持つ。
- ・チームプレイよりも個人プレイで才能を存分に発揮できる。
- ・成功も失敗も大きく、浮き沈みの激しい波乱の人生だが、立ち直りが早い。
- ・雑用や裏方の仕事などは、直接利益につながらないのでやりたくない。

■劫財の組み合わせ

甲・乙	乙・甲
丙・丁	丁・丙
戊・己	己・戊
庚・辛	辛・庚
壬・癸	癸・壬

■キーワード

*長所

- ・大胆・熱心・競争・型破り
- ・人懐っこい・体当たり
- ・度胸一発・強烈なパワー
- ・ポジティブ思考
- ・積極的・くじけない

- ・損得勘定は発達しているが、自分のことばかりで犠牲的精神に欠ける。
- ・ギャンブルに凝り出すと、はまってしまう可能性が高く危険。
- ・金銭管理が苦手で、どんぶり勘定、金遣いが荒い。
- ・我を押し通すことしかできず、うまくいかないと投げやりで刹那的になる。

***短所**

- ・うぬぼれ・物まね
- ・世をすねる・破産
- ・投げやり
- ・ものを粗末に扱う
- ・怪我が多い・衝動的
- ・怒りっぽい
- ・我慢ができない
- ・浪費家・守銭奴・超自己中

***人物**

友人・同僚・兄弟姉妹

◆劫財の陰と陽

陰	陽
<p>内面には強い闘志を秘めている 自分にはできる お金儲けに強い関心 ポジティブ思考 直接利益につながらないことはやりたくない 一攫千金を狙う野望 犠牲的精神に欠ける 投げやりで刹那的</p>	<p>目標を達成するパワー 人当たりが良い チームプレイよりも個人プレイ 成功も失敗も大胆 どんぶり勘定 ものを粗末に扱う</p>

※陽は表に出ている具体的な行動。陰はその動機となる背景。

劫財の場合は、豪快で大胆な行動が特徴で、その背景には、大富豪になりたい野望が潜んでいます。

◆劫財の陰陽・実虚

『陽の実』は、競争心が旺盛で、何が何でも目標を達成するパワーがあり、それに集中します。特にお金が儲かることに関しては貪欲で、コツコツとかチマチマしたことができない野心家です。

飾らず、人目を気にしないので率直で、人当たりがソフトなのに、することは大胆不敵なことをやってのけます。

金銭感覚が大雑把で、どんぶり勘定なので、あつという間に大金を使い果たしても、本人はケロッとしています。

自分を信頼する力が強く、クヨクヨ悩みを抱えている人の気持ちに関心がありません。

これが『虚』になると、人生目標が定まらず、自分の力を出し惜しみして、人に頼ろうとします。

隣人の成功に影響されて、野望を抱くのですが、壁に突き当たると、すぐに挫折して、失敗もしなければ成功もしません。気力

■劫財の陽

虚 (無気力)	実 (過剰)
競争心が旺盛 何が何でも目標を達成 成功も失敗も大胆 スケールが大きい どんぶり勘定 豪華趣味 自己信頼が強い 野心家	人生の目標がない 自分の力を出し惜しむ すぐ挫折する 失敗も成功もしない 浪費家で経済観念がない 平気で借金 金に苦労する、

がなく、投げやりな人生を送るようになります。経済観念に欠けるので、お金もないのに節約することができず、いつもお金に苦勞します。

陰となる背景の方に目を向けてみると、かなり大胆なことを考えていて、周りの人に羨ましがられるような大富豪になりたいという野望を抱いています。儲け話にアンテナを張りめぐらし、コレと思ったらすぐに実行する行動力もあり、たとえ失敗しても、すぐに立ち直るなど、グズグズ引きずることをしません。

これが『虚』になると、大金を手にする夢ばかり追い、実際実行する気力がないので、ありえない儲け話に乗って、騙されることがあります。

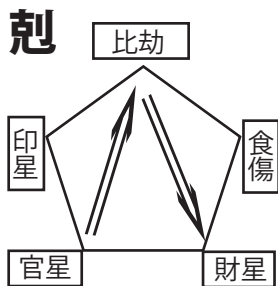
格好悪いところを見られたくないという気持ちが強く、人目を気にして、がむしゃらになることがあります。人生がうまくいかないのは、自分のせいではなく誰かのせいで、どうせ頑張った

■劫財の陰

虚（無気力）	実（過剰）
儲け話に弱く騙される 大金を手にする夢ばかり 考えてばかりで行動しない 人目を気にする 誰かが悪い	ぶつちぎりで勝ちたい 大金を儲けたい 失敗しても落ち込まない コケてもタダじゃ起きない 大富豪になりたい野望 犠牲になるのは嫌

て・・・と、初めから諦めるクセがついてしまいます。

※比肩・劫財が『虚』になると、比肩・劫財を剋してくる官星のマイナス面が現れ、人目を気にしたり、人の言いなりになつてしまいます。また、比肩・劫財が剋す財星のマイナス象意も現れ、したたかに人の顔色をうかがうようになります。



◆食神

※才能発揮

■特徴

- ・物覚えが早く、技術の習得には情熱を燃やす。
- ・芸達者で愛嬌があるので、人から好かれ人気がある。
- ・趣味が豊富で、あくせくせず、寛容で大らかなタイプ。
- ・オープンマインドで、自己アピールがうまい。
- ・向上心や野心に欠けるけるが、のんびりしていて人を和ませる癒しの才能。
- ・食べることに關しては情熱を持っているが、食べ過ぎて太りやすい傾向。
- ・自分勝手なサービス精神で、相手が望んでいないことを押し付け
けがありがた迷惑。

■食神の組み合わせ

甲・丙	乙・丁
丙・戊	丁・己
戊・庚	己・辛
庚・壬	辛・癸
壬・甲	癸・乙

■食神キーワード

*長所

- ・温和・表現力・才能
- ・人気・サービス精神
- ・芸達者
- ・コミュニケーション能力
- ・要領がよい・平和主義
- ・宴会部長・物覚えがよい

- ・自分の才能を発揮するのは得意だが、人に合わせたり、人を育てるのは苦手。
- ・ダラダラしていて、締まりがなくなったらしない人もいる。
- ・その場その場のしのぎの人生で、生きる目的や方針が定まらない。

***短所**

- ・でしゃばり・おせっかい
- ・遊び人・我慢がきかない
- ・無頓着・意志薄弱
- ・お調子者・幼い・利己的
- ・怠ける・技術にこだる
- ・大局を見失う

***人物**

食傷は女性にとっての子供

◆食神の陰と陽

陰	陽
<p> 物覚えが早い 豊かな表現力 人を楽しませる 早とちり、 食べ過ぎて太りやすい 親切、時に押し付け 自己アピール力 あくせくせず寛容で大らか オープンマインド サービス精神旺盛 気が利く 遊び好き 自分を見てほしい 向上心や野心に欠ける 怠ける </p>	<p> 物覚えが早い 豊かな表現力 人を楽しませる 早とちり、 食べ過ぎて太りやすい 親切、時に押し付け 自己アピール力 </p>

※陽は表に出ている具体的な行動。陰はその動機となる背景。

食神の場合は、とにかく目立っていれば陽、その背景には楽しませたいというサービス精神が潜んでいます。

◆食神の陰陽・実虚

『陽で実』は、とても物覚えの早いタイプになります。教えたことをすぐに表現する能力があり、特に技術の習得には強い関心を持っています。

豊かな表現力と自己アピール能力で人を引きつけ、人気者になります。宴会部長などをやらせるとピカ一です。

食べるのが大好きで、楽しい雰囲気作りが上手ですが、意外に計算高い面があり、お金の計算などはきっちりやります。

これが『虚』になると、飲み込みが遅く、教えられたことを表現することがなかなか出来ません。ですから、わかっているのかいないのか、相手に伝わりにくくなります。

おとなしく無口で、目立たず、人にも不親切で、何かしてあげたいという気持ちがおきなくなりです。自分から何かをするのではなく、周囲の人に合わせたり、言いなりになったりします。

見なおすことが嫌いなので、チェックが甘くなり、ミスも多く

■食神の陽

虚 (無気力)	実 (いき過ぎ)
物覚えが悪い 表現力に乏しい 暗い雰囲気 おとなしい 笑顔がない 不親切 ブヨッと太っている 目立たない	技術の習得が早い すぐ表現できる 人気者 楽しい雰囲気 宴会部長 おせっかい 自分を売り込む よくしゃべる

なります。

『陰の実』は、気持ちが大らかで、物質的にも精神的にも豊かな雰囲気を持つ人です。サービスピ精神が旺盛で、おせっかいなほど世話を焼いてくれます。

子供っぽい無邪気な面があり、失敗しても笑って許せるような、得なキャラクターの持ち主です。場の雰囲気を盛り上げるのが上手で、人の集まるところに積極的に顔を出します。

これが『虚』になると、細かいことをチクチクとチェックする神経質な性質になります。人に気づかひがなく、サービスピ精神に欠け、ぼけつと誰かが何かをしてくれるのを待つようになります。何をするにもダラダラとして時間がかかり、やらされているような気持ちを持ちやすく、自分から何かをしようといった自主性がありません。

■食神の陰

虚 (無気力)	実 (過剰)
大らか 豊かな雰囲気 サービスピ精神旺盛 気づかひの人 遊びどころ 子供っぽい無邪気さ 何でも楽しむ	細かくて神経質 サービスピ精神に欠ける 怠け者 依頼心が強い 遊び心がない、 楽しくない、

◆傷官

※才気あふれるロマンチスト

■特徴

- ・物事の白黒をはつきりつけないと気分がわるい。
- ・しゃべることや書くことが得意で、描写が精密。
- ・聡明でカンが良いので、物覚えが良いが、できない人の気持ちかわからない。
- ・とにかく観察力が普通ではなく批判精神にも富むので、評論家などに多い。
- ・技術職に適性があり現実的だが、ロマンチストで靈感の強い人もいる。
- ・言動が鋭く、言葉を選ばないので、毒舌になる場合がある。
- ・相手の気持ちを汲む心の余裕がなく、正論を押し付ける。

■食神の組み合わせ

甲・丙	乙・丁
丙・戊	丁・己
戊・庚	己・辛
庚・壬	辛・癸
壬・甲	癸・乙

■傷官のキーワード

*長所

- ・鋭い感性・鋭い観察力
- ・緻密・雄弁・聡明
- ・粘り強い・文才・敏感
- ・ロマンチスト
- ・きれい好き・知識欲
- ・完璧主義・正論

- ・上司や先輩に反抗的態度をとり、組織やグループ活動は向かない。
- ・粘着質で物事を深く掘り下げ、自分勝手な人生観に囚われることもある。
- ・物事の細部にこだわりすぎたり、思いつめる癖があり、全体的にとらえられない。

*短所

- ・毒舌・過敏・一言多い
- ・出過ぎる・不満
- ・おせっかい・人を見下す
- ・白黒はつきり
- ・批判精神旺盛
- ・潔癖・ヒステリック

*人物

食傷は女性にとっての子供

◆傷官の陰と陽

陰	陽
<p>アニメ好き ロマンチスト 全体より細部が気になる 神経過敏 黙っていられない</p>	<p>ズバツと言っ グサツとくることを言っ 話すことや書くことが得意 正論を押し付ける 描写が精密 カンが良い 技術職に適性、 目上に歯向かう 白黒をはつきりつけたい できない人の気持ちかわからない ミスを許せない</p>

※陽は表に出ている具体的な行動。陰はその動機となる背景。

傷官の場合は、細かくて一言多いのが特徴で、その背景には、白黒はつきりしないと気持ち悪いという心が潜んでいます。

◆ 傷官の陰陽・実虚

傷官の陽的な面が過剰に發揮されると、シャープすぎる頭脳で、グサツと来ることを、ところかまわず言うようになってきます。とにかく頭の回転がとても早く、一瞬で、目に入る風景を正確に細部まで記憶しています。そのため、出来事や環境の描写が細かく、話しを聞いているだけで映像が見えてくるような語り方をします。情景描写がとても上手で表現力に富んでいます。

傷官の細かさは、普通の人の肉眼では瞬時にとらえられないような微細なものも感じ取るところから来ているので、その細かさが見逃されるところ、重箱の隅を突つつくようになります。ちよつとしたミスも見逃すことができず、他人のアラが気になり、特に上司に対して厳しく批判していきまます。

これが『虚』になると、なにか言いたそうなのに、奥歯に物の挟まったような喋り方で、はっきりしません。一から十まで説明

虚 (無気力)	実 (いき過ぎ)	■ 傷官の陽
遠まわしに言う はっきりしない カンが鈍い 細かい作業が苦手 ミスが多い 上に合わせる あいまい 言葉が足りない	ズバリ言う 鋭いカン 細かい よく見ている 評論家タイプ 毒舌でよくしゃべる 目上に歯向かう 一言多い	

しないと分ならず、観察力もカンも鈍くなります。

細かい作業をやらせるとミスが多く、見直す作業も面倒臭がるので、一つのことを仕上げるのに時間ばかりかかります。言わなくてもいいようなことは一言多く、言わなければいけないことは言葉が足りないなど、判断の焦点がずれています。

陰的な内面に目を向けると、頭の中をいつもクリーンにさせておきたいため、白黒はつきりつけたいがります。瞬時に細部まで見抜く観察力に優れている分、それに気が付かない人の気持ちが変わらず、頭の悪い人だと批判的になります。

許容範囲が狭く、他人のミスを黙って見過ごすことができません。他人を傷つけないと思いつつ、論すような物の言い方ができないので、ついつい相手を責めるような形で一言多くなってしまう。言ったあとに後悔するタイプです。

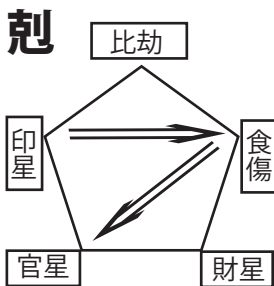
■傷官の陰

虚（無気力）	実（過剰）
あいまいでいい お茶を濁す 不平不満が多い 些細な事が気になる 他人のミスも見えて見ぬふり すべてに無関心	白黒はつきりつけたい 人の気持ちはわからない 些細な事が気になる 他人のミスを許せない 黙っていられない 細密に表現したい

これが『陰の虚』になると、白黒つけても自分が損するだけだと消極的になり、曖昧なものの方でお茶を濁すようになりま
す。しかし些細な事は気になっているので、それを発言できない
分、内面に不満がたまって、かえって意地の悪いモノの言い方に
なることもあります。

他人のミスに気づいていても、見て見ぬふりをして無関心にな
っていきます。

※**食神・傷官が『虚』**の状態になると、官星の人の言いなりにな
る面や、印星の適當さや、依頼心が出てくるようになります。



◆偏財

※人、モノ、お金を動かす

■特徴

- ・フットワークが軽く、世の中の情報を得るために活発に動き回る。
- ・必要であれば、どんな場所にも顔を出し、駆け引きも得意。
- ・人に関心があり、交際上手で世話好き。
- ・ムダを嫌い合理的で、効率よく目的を達成するためにお金や人を使う。
- ・相手や市場の心を読んで、それにふさわしい物を提供することに快感をおぼえる。
- ・頭の中は常に現実的で、遊び心や創造性に乏しい。

■偏財の組み合わせ

甲・戊	乙・己
丙・庚	丁・辛
戊・壬	己・癸
庚・甲	辛・乙
壬・丙	癸・丁

■キーワード

*長所

- ・処理能力・軽快・明るい
- ・多忙・人を操る・人を読む
- ・外出好き・世話焼き・人脈
- ・社交的・積極性がある
- ・合理的・サービス精神
- ・商人・気がいい

- ・ 社交的だが八方美人で、異性に対して節操がなくなることがある。
- ・ 人を無理やり力でねじ伏せようと支配したがる場合、実力がない。
- ・ 目上に対する審判が厳しく、命令されるとつい反抗的態度をとってしまう。
- ・ 自分が指示を出すのはいいが、他人に指図されるとヘソを曲げる。

* 短所

- ・ 多情・派手・浪費家
- ・ お金が貯まらない
- ・ 見栄っ張り
- ・ 周りを振り回す
- ・ すぐ指図する・支配的
- ・ 現実的で夢がない
- ・ 傲慢・大風呂敷

* 人物

財星は父親・男性にとっての女性を表す

◆偏財の陰と陽

陰	陽
<p>世の中の情報を得たい 人に関心がある 駆け引きを楽しむ 夢物語やムダを嫌う 本心が知りたい 相手を支配したい 洞察力を商売につなげたい</p>	<p>フットワークが軽い 駆け引き上手 八方美人、 合理的 相手の反応をよく観察している 仕切りたがる、 多忙</p>

※陽は表に出ている具体的な行動。陰はその動機となる背景。

偏財の場合は、八方美人で面倒見の良さが特徴ですが、その背景には、人の心を掌握したいという支配欲があります。

◆偏財の陰陽・実虚

偏財は、身のこなしが軽く、必要であれば、どこにでも積極的
に出かけていくタイプです。行動力があり、時間もお金も体力も、
惜しまず使って動きます。行動範囲も広く、相談を持ちかけられ
ると、じつとしていられません。

考え方は常に現実的で、夢見がちな理想論には左右されません。
気前が良く、八方美人で、相手の心を読んで相手の喜びそうなこ
とを言うので、人気が出ます。相手の欲しいものが何かをよく観
察して、商売につなげようと考えていますが、これが過剰で『実』
になつていくと、バタバタと忙しくのんびりできる時がありません。
相手を深読みしすぎて的を外したり、準備がまだ整っていないの
に先回りしすぎて、強引になりすぎて失敗します。

この陽の面が『虚』になると、自分から積極的に行動しようと
はせず、時間やお金を自分のためだけに使おうとします。先を読

■偏財の陽

虚 (無気力)	実 (過剰)
フットワークが軽い 駆け引き上手 相手の反応を確かめたい 気前がいい 合理的 理想論より現実 社交的 仕切り屋	腰が重い ケチ 社交性がない 積極性がなく人任せ 自分勝手 商売つげがない 適材適所を見抜けない 相手の要望に無関心

んで、計画的に実行することはせず、ロマンチックな理想論ばかり語って、ひとつも夢を実現できません。相手の立場にたつて物事を考えようとしないので、人とのコミュニケーションもとれず、交際下手になっていきます。

偏財の陰的な内面は、世の中の動向や、人の心理の動きなどに関心があり、それを読み取るために積極的に相手に働きかけて反応を見ます。

より大きな財を得るために、先行投資は惜しまず、見込みがありそうなものには積極的にお金を投資します。劫財のような通変星だと、一発大儲けを狙って、あり金ガネすべてはたいて大博打にでますが、偏財の場合は周囲の様子をよく読み取りながらの投資となります。これが人の場合もあり、将来何かの役にたつてくれそうだと感じた人には、気前よく投資します。それが当たって商売繁盛につながると、とてもうれしく、快感に感じます。

■偏財の陰

虚（無気力）	実（過剰）
疑い深い 理屈っぽい 傲慢 見栄っ張り 非現実的 積極性がない 人の望みは無関心 自分のことだけ関心	世情や相手の心を読む 役立ちそうな人におごる 相手の心をつかみたい 反応を見るために色々実験 何事も商売につなげたい 喜ばせて報酬を得る 奉仕の心 先読みする

これが『虚』になると、相手の心を読むという財星の意識が、自分の中に閉じ込められて、自分のやりたいことを優先するようになります。「なんでそういう行動を取るのだろう？」という他人のことを知りたいといった興味がなくなります。

積極性もなく、相手のほうから話しかけてもらうのを待つようになり、自分から話しかけようとしないので、自然と交際範囲もせまくなり、新しい出会いもなくなります。毎日同じことを繰り返して、発展性がありません。

◆正財

※堅実に積み重ね、やがて大成する

■正財の組み合わせ

甲・己	乙・戊
丙・辛	丁・庚
戊・癸	己・壬
庚・乙	辛・甲
壬・丁	癸・丙

■特徴

- ・几帳面で細かいところによく気がつきまじめなので、周囲の信頼が厚い。
- ・焦らずあわてず、着実な努力で実績を積み重ね、信用と財を手に入れる。
- ・計画性があり安定した人生を送り、大きな失敗は少ない。
- ・義理人情的な親分肌気質で、目下の面倒見は非常に良い。
- ・商売や、事業意欲は旺盛。
- ・損得に敏感で、自分の利益を上げるために他人を利用しようとする。
- ・地味が目立たなく、着実だが面白みがない。
- ・慎重すぎて大きなチャンスを逃すことがある。
- ・自分のことを棚に上げてやたら人に指図したがるので、実力がないと疎まれる。
- ・ムダを嫌い、しまり屋で自分だけは損をしない。

■キーワード

*長所

- 細心・正直・実直・堅実
- ・ 儉約・コツコツ・貯蓄心
- ・ 金銭管理能力
- ・ 石橋をたたいて渡る
- ・ 忍耐強い
- ・ きちんとしている
- ・ 温和・合理的・信用

*短所

- しまりや
- ・ 真面目すぎて面白みがない
- ・ 吝嗇・意固地
- ・ 理屈屋・命令口調
- ・ 威張る

◆正財の陰と陽

陰	陽
<p>秘めた野望</p> <p>慎重</p> <p>親分肌</p> <p>商売や事業意欲は旺盛</p> <p>損得に敏感</p> <p>貯蓄心</p> <p>義理人情に厚い</p> <p>正直</p> <p>まじめ</p>	<p>周囲の信頼が厚い</p> <p>信用と財を手に入れる</p> <p>目下の面倒見は非常に良い</p> <p>地味で目立たないが必ず実績を上げる</p> <p>しまり屋、</p> <p>石橋をたたいて渡る</p> <p>コツコツ積み上げる</p>

- ・指図する・上から目線
- ・人を利用する

*人物

財星は父親・男性にとっての女性を表す

※陽は表に出ている具体的な行動。陰はその動機となる背景。

正財の場合は、着実に実績を積み上げる特徴があり、物質的豊かさを求める心があります。

◆正財の陰陽・実虚

正財の陽的な行動面には、特有の堅実さが顕著に現れます。コツコツと着実に目標を達成して、描いた人生の設計図通りに歩みを進めます。

ビックチャンスが訪れたとしても、大博打を打つようなことはせず、確実性を重視するので、失敗が少なく、そこに信用が集まり、最終的には大きな資産として形に残していきます。

日々の生活も、道を踏み外すようなことはないので、地味で、他人から見ると面白くないように見えますが、額に汗して働き、お金を得ることの楽しさを知っています。

これが『虚』になると、人生の計画は立てても、それを着実に実行する忍耐力がありません。行き当たりばったりの、目先の財を追いかけて、資産運用もうまくいきません。

人生の目標が定まらず、石橋を叩いても渡らない人になるか、

■正財の陽

虚（無気力）	実（過剰）
人生の計画性がない 行き当たりばったり 地味な活動ができない お調子者 人と信頼関係を結べない 目下の面倒をみない 財を独り占め	着実な人生設計 実績を積み重ねる 信用と財を手に入れる 目下の面倒をよくみる 締めり屋 予定外の出費はしない 石橋を叩いて渡る

一攫千金を狙って財産を作ろうとします。

親分肌で、人の面倒見も良かったのが、頼ってくる人を利用するようなことを考えるようになり、信頼を失っていきます。

正財の陰的な心理面には、受けた恩は一生忘れないなどの律儀さがあり、義理人情に厚く、頼ってくる人はとことん面倒を見る親分気質を持っています。

お金を手元に引き寄せるためにはどうしたらいいのかを常に考えていて、資産を増やして確実な運用をすることが、ひとつの楽しみとなっていますし、部下や後輩にもそういった資産運用の指導をしたがります。

商売や事業意欲も旺盛ですが、ムダなコストをかけずに、あくまでも堅実なスタイルを維持するので、従業員が路頭に迷うことなく安心して働ける会社を作ることが理想としています。

自分の力量を心得ているので、大事に至る前の小さな失敗で軌道修正ができる人です。

■正財の陰

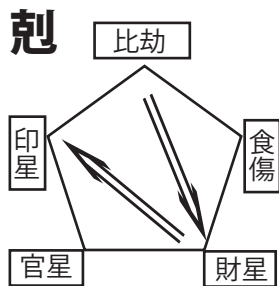
虚 (無気力)	実 (過剰)
ケチ だらしがない 自己管理能力もなし 金銭管理能力なし 頑固で融通がきかない	クソ真面目 義理人情に厚い 親分気質 お金の動きに敏感 資産運用が楽しい 自分の力量を心得ている 金銭管理と自己管理能力
約束を守らず不真面目 損することをひどく恐れる 自分のお金だけは守る	

これが『虚』になると、地道に生きるだけで、自分で資産運用の勉強をしたり、考えたりしないので、世の中の流れに身を任せただけになります。

国を頼って、組織を頼って、上司や部下を頼って、文句を言うだけで、本人は何もせずに額に汗して働く快感も忘れてしまいます。自分の持ち物だけは、がっちり守ろうとして今あるお金が減るのを極端に恐れるようになります。なので、運用どころか、近づいてくる人みんなが自分のお金を狙っていると疑って、誰も信用できなくなります。お金を使うことも増やすこともできず、ただ握ったまま孤独になっていきます。

※財星が『虚』になるとどうなるか？

財星を剋してくる比肩・劫財的な自分勝手な面と、財星が剋す印星の被害妄想や非現実性がマイナスの形で現れてきます。



◆ 偏官

※自分がやらねば誰がやる！

■特徴

- ・責任感が強く、実力で地位を得る、警察官や教員に多い。
- ・武将の星と言われ、改革や戦いとなるとパワフルでエネルギーに活躍する。
- ・頼まれたことは、自分を犠牲にしてもやり遂げる。
- ・義理人情に厚く、慕ってくる人はとことん面倒をみる親分肌。
- ・意志が強く、目標が定まると統率力を発揮して、リーダーシップをとる。
- ・いつも「ねばならぬ」という義務感にとらわれているので余裕がない。

■偏官の組み合わせ

甲・庚	乙・辛
丙・壬	丁・癸
戊・甲	己・乙
庚・丙	辛・丁
壬・戊	癸・己

■キーワード

*長所

- ・統率力・改革心
- ・管理能力
- ・義理人情・親分肌
- ・曲がったことが嫌い
- ・社会の裏表に精通
- ・根性・勝負師・リーダー

- ・短気で怒りっぽく、常に内面に迷いを抱えている。
- ・権力をほしがり、トップに立つとワンマンになることもある。
- ・過去の苦勞を自慢することが多く、他人に対しても苦勞や厳しさを強制する。
- ・一つの考えに囚われやすく、ひたすら頑張るが要領が悪い。

***短所**

- ・威ふる・抑圧・短気・迷い
- ・激情・他人と衝突が多い
- ・実は甘えたい・せっかち
- ・強情・喧嘩っ早い
- ・背負い込みすぎる
- ・要領が悪い

***人物**

官星は女性にとって男性を表す

◆ 偏官の陰と陽

陰	陽
<p>責任感が強い 自分を犠牲にしてもやり遂げたい、 義理人情に厚い 「ねばならぬ」という義務感 余裕がない、 短気で怒りっぽい 権力をほしがる 苦勞を自慢</p>	<p>よく働く せっかち 改革や戦いとなるとパワフル 親分肌、 トップに立つとワンマン 喧嘩っ早い 動きが粗い</p>

※陽は表に出ている具体的な行動。陰はその動機となる背景。

偏官の場合は、先頭に立つて改革的な活動をしているのが特徴で、その背景には、他人に任せてられないといった責任感が潜んでいます。

◆偏官の陰陽・実虚

偏官の陽的な面での『実』は、自分がやらねば誰がやるという意識が強すぎて、いつも怒っているような話しかけにくい印象を持たれます。思い立ったことはすぐ実行しないと気がすまないの
で、誰かに頼んでなかなかやらないと、イライラしながら自分でやっ
てしまいます。せっかちで、決断力と行動力は抜群にありますが、粗
っぽいとところが欠点です。

自分が先頭に立って改革していくパワーがあり、リーダー気質から、組織を統率をする立場に立たされます。

親分肌で部下の面倒見はとていいのですが、ともするとワンマンになって、自分と同じように四六時中働くことを、周囲に強要することもあります。「ねばならぬ」の義務感に駆り立てられて行動しているの
で、自主的に、楽しく、マイペースで、といった気楽な気分にはなれない苦
労性なところがあります。

■偏官の陽

虚 (無気力)	実 (過剰)
人の半分も働かない やってくれるまで待つ 改革より現状維持 楽したい 責任を負いたくない 要領よく立ちまわりたい	とにかくよく働く せっかち 待てずに自分でやる 改革する 統率力がある 親分肌 ワンマンになりやすい

そのため偏官の内面である陰的な部分では、苦勞話が好きて、どれだけ大変な思いをしたか、どれだけ自己犠牲を払ったか、そういう話題には目を輝かせてきます。

これが『虚』になると、人の倍は働く偏官の作用が弱ってきますので、人の半分も働かないようになってきます。すぐやらなければ気が済まないはずなのに、誰かがやってくれるまでじっと待つようになります。

人任せで、地位や権力を欲しがりはするのですが、その目標に向かつてがむしゃらに努力することができないので、逆に地位や権力を欲しがる人を非難するようになります。平々凡々と波風立てずに生きていければいいと、人生をあきらめるようになります。何かのために自分が犠牲になるなんてまっぴらゴメンで、組織よりも、自分の楽しみや技術を磨くことに気持ちに向かい、懸命に働く人を、要領が悪いと茶化すようになります。

偏官の人は、とくかく頑張り屋なところが特徴なので、頑張ら

■偏官の陰

虚 (無気力)	実 (過剰)
強い責任感 義侠心 「ねばならぬ」で動く 「自分が」の意識が強すぎ 苦勞自慢が好き 短気で怒りっぽい 自己犠牲を厭わない	何で自分が犠牲に？思っている、 人任せ 権力は欲しい 責任は負いたくない 誰かがやれば自分もやる 約束を守らない

ない偏官がいたら、それは星が完全に死んでいます。

たとえ方向が間違っていようと、がむしやらに頑張っていれば偏官の星が生かされて運が開けてくるのです。せっかちで短気でもいいから、「自分がやらねば！」という義務感を持ってやっていけば、運が開けるのです。

『実』であれば、間違っているでも開運するのですが、『虚』の人はどうにもなりません。

◆正官

※出世して立派な人になりたい!

■特徴

- ・官僚の星で、忠誠心と高い服務能力で地位を獲得する。
- ・社会の常識や世間体を重んじ、優等生のお坊ちゃん、お嬢ちゃんタイプが多い。
- ・まじめで礼儀正しく、目上を敬い、目下には慕われる。
- ・与えられた仕事は完璧にこなそうと懸命に努力し、自己評価も高い。
- ・人との摩擦を起こさないよう我慢強く、犠牲的精神を発揮して組織に仕える。
- ・位を重視するので、人の頭につきたがり、人に頭を下げるのを好まない。

正官の組み合わせ

甲・辛	乙・庚
丙・癸	丁・壬
戊・乙	己・甲
庚・丁	辛・丙
壬・己	癸・戊

■キーワード

*長所

- ・品位・育ちのよさ・几帳面
- ・自制心・保守的・名誉
- ・高い地位・律義・品行方正
- ・奥ゆかしい・折り目正しい
- ・出世・正攻法・人徳者
- ・敵を作らない

- ・ 臨機応変な対応が苦手なので、指示がないと何をしていいのかわからない。
- ・ 地位が危うくなると自己保身に走る。
- ・ 名刺の肩書きで人を判断し、相手によってへつらったり高飛車になる。
- ・ 世間体や他人の評価が気になり、いつもピリピリと気が張っている。

***短所**

- ・ 肩書きや形式に囚われる
- ・ 緊張体質・潔癖・杓子定規
- ・ 見栄っ張り・四角四面
- ・ 融通が利かない
- ・ 受け身・イエスマン
- ・ 消極的

***人物**

官星は女性にとって男性を表す

◆正官の陰と陽

陰	陽
<p>強い忠誠心 社会の常識や世間体を重んじる 目上を敬う 品位あるものを好む 高い地位につきたい 几帳面 保守的、 人との摩擦を起こさないよう我慢できる</p>	<p>官僚の星 与えられた仕事を一生懸命こなす 高い地位を獲得 優等生 品行方正 イエスマン 敵を作らない、</p>

※陽は表に出ている具体的な行動。陰はその動機となる背景。

正官の場合は、地位や名誉、立派な肩書きがあるのが特徴で、その背景に出世欲と忠誠心が潜んでいます。

◆正官の陰陽・実虚

正官は、与えられた仕事を完璧にこなし、上司に認められ、組織の中で出世して高い地位につくことが人生の目標となります。仕事熱心で、目上の指示に忠実に従い、仕事のためには自己犠牲を厭わない強い意志を秘めています。

これが過剰になって『実』になると 忠誠心が強いあまり、その場その場の状況に合わせた臨機応変な対応は、どこかの電力会社の社員ように、できなくなります。決められた方針を頑固に守り抜くことが義務だと思っているので、自分の意見は押さえこみ、ただひたすら上司の指示を待つ人となります。

礼儀正しく、常識人で、品のある態度に信頼が寄せられますが、真面目すぎて堅苦しい印象を与えることもあります。

これが『虚』になると、出世願望は持っているのですが、そのために自分が犠牲になったり、やりたくない仕事をやらされるのは我慢ができません、ずるく立ち回ろうとします。それがうまくいか

■正官の陽

虚 (無気力)	実 (過剰)
出世願望だけある ずるく立ちまわる 品がない へつらう 高飛車 自己保身に忙しい 他人の評価ばかり	組織の中で出世 地位獲得が人生目標 品行方正 イエスマン 自分の考えは抑える 敵を作らない

ないと、今度は上司を批判して、部下に責任をなすりつけるなど、自分の身を守るために周囲を巻き込み、摩擦を起こします。

出世することをあきらめ、与えられた仕事も満足にこなさないなど、投げやりな態度になってきます。

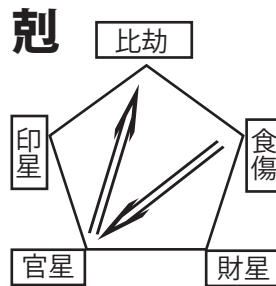
仕事を一生懸命頑張るところが、官星の長所なのに、働くことが馬鹿らしくなってきたり、一攫千金を夢見るなど、強い物質欲が出てきます。自分を自制する力がなく、ダラダラと楽な方に流れて怠惰になっていきます。

偏官は名誉より権力を欲しがりますが、正官は、強い名誉欲を持っていきます。官星の共通点は、どちらも統率力や組織力を持っているということです。社会的に名誉ある組織に仕えて、そのトップに付き従って、栄誉を得たいと思っているのが、正官の心で、陰の部分です。これが『虚』になると、組織よりも自己主張をするほうが優先して、グループの結束など二の次三の次となります。人との約束を始め、重要な契約なども、平気で反故してきます。

■正官の陰

虚（無気力）	実（過剰）
自分を犠牲にしたくない 目上を批判 目下をいじめる 身を守るので精一杯 なんでも受け身 自分に責任はない	高い自己コントロール能力 組織に仕える 目上を敬う 目下に慕われる 社会的に立派な人になる 強い忠誠心

※**官星が『虚』**になつてくると、**官星を剋す食傷の子供**っぽさや、**官星が剋す比肩劫財の、人を出し抜こう**といった**欠点**がでてくるようになります。



◆ 偏印

※好きなことだけやっていたい!

■特徴

- ・自由な環境であれば、奇抜な発想力が発揮され、ユニークな分野で活躍できる。
- ・面白いことには、時間もお金も人も使って、いつまでも没頭する。
- ・個性的で絵やデザイン音楽など、芸術的分野が得意。
- ・好奇心が旺盛で、常に変化や新しい刺激を求めクリエイティブ。
- ・頭の回転が早く、とにかく楽しい人。
- ・楽しんで儲ける事を考え出すと、常識を逸脱してしまう。
- ・立派な構想を発表するが、口だけ達者で一向に実行しない。
- ・失敗しても、面倒な後片付けや責任を負うのを避けようとする。

■偏印の組み合わせ

甲・壬	乙・癸
丙・甲	丁・乙
戊・丙	己・丁
庚・戊	辛・己
壬・庚	癸・辛

■キーワード

*長所

- 自由・発想・好奇心
- クリエイティブ
- ユニークな個性
- 美的センス・ウイット
- ひょうきん者
- 芸術家肌

- ・後悔や反省心が少なく、過ぎたことは気にしない。
- ・放浪癖があり、職業や住所が安定しない人もいる。

- ・奇抜なアイデア
- ・自由業向き・多趣味

***短所**

- 妄想・迷い・気まぐれ
- ・人を振り回す・無責任
- ・変わり者・持続性がない
- ・非常識・依存・錯覚
- ・混乱・智謀知略
- ・移り気・投げやり
- ・波乱の人生

***人物**

印星は母親をあらわす

◆偏印の陰と陽

陰	陽
<p>責任を負いたくない</p> <p>楽しんで儲けたい</p> <p>頭の回転が悪い人は嫌い</p> <p>常に変化や新しい刺激を求め</p> <p>好奇心が旺盛</p> <p>面白いことだけやっていたい</p> <p>自由な環境にいたい</p>	<p>奇抜な発想力</p> <p>芸術家肌、クリエイティブな分野</p> <p>頭の回転が早い</p> <p>口だけ達者で一向に実行しない</p> <p>放浪癖</p> <p>職業や住所が安定しない</p> <p>ウイットな会話</p>

※陽は表に出ている具体的な行動。陰はその動機となる背景。

偏印の場合は、人と違う奇抜なことをひとりだけでやっているのが特徴で、その背景には人生を楽しみつくしたいという心が潜んでいます。

◆偏印の陰陽・実虚

偏印は、誰も考えつかないような奇抜な発想が魅力で、クリエイティブな分野で活躍するようになります。芸術家肌で、常識に欠ける分、ユニークさが生かせれば、発展していきます。

しかし、『実』となると努力や義務を嫌うので、自分で自分を売り込むことができず、自分の才能を認めてくれるパトロンのようなものを求めて放浪することもあります。

頭の回転が早く、ウイットに富んだ会話ができるので、おもしろい人ということになり人気者になります。妄想癖があり、自分の都合のいいようになんでも解釈してしまうので、事実と違うことを平気で言っ、周囲を混乱させることもあります。

陰的な内面では、好きなことに夢中になっているときが一番幸せで、納期や期限を決められ束縛されるのを最も嫌います。

誰もまだやっていないことの研究に取り憑かれ、全財産をなげうってでも、命がけて夢中になるので、周囲がこの人の情熱につ

■偏印の陽

虚（無気力）	実（過剰）
発想が貧困 面白くない、 芸術的感性が低い 誰かの受け売りで話す 組織に束縛されて頭が固い	奇抜な発想 あつと言わせる 芸術家肌で常識がない クリエイティブな分野 口だけで実行力なし 住所や職業がコロコロ変わる、 自由業、

いていけないと、離れていってしまうこともあります。それでもあきらめずに続けると、大きな発見につながるがあります。

これが『虚』になると、発想が貧困で、もうすでに誰かがやっていることを二番煎じでやったりします。芸術的感性も磨かれておらず、楽しいことに熱中する意欲ももっていません。

自分は特別な存在だという自意識だけは異様に強くなり、周囲を自分の思い通りに動かすことに頭をつかうようになります。

人から何か援助を受けても、当たり前のように振る舞い、実力も実績もないのに、横柄な態度で人をアゴで使おうとして、嫌われます。

自分の才能が認められないのは、周りのレベルが低くて頭が悪せいせいで勝手に思い込み、誰も助けてくれなくなりますが、それでも反省することはありません。

■偏印の陰

虚（無気力）	実（過剰）
<p>楽しめない 楽しいことがわからない ワクワクすることがない 怠けグセが抜けない 面倒な事はやってほしい 幻想ばかり</p>	<p>楽しいことだけやりたい 束縛されない自由人 反省心がない 楽天的 つまらないことは忘れる 都合のいい解釈をする</p>

◆印綬

※学問、研究を極めたい！

■特徴

- ・知恵と学問と名誉の星。
- ・話好きで、自分の研究を熱心に語る。
- ・知的好奇心が旺盛で、自分の研究が世に認められ高い評価を得る事を望む。
- ・人柄が穏やかでユーモアがあり、夢のような語り口にカリスマ的人気を得る。
- ・一を聞いて十を理解する能力。
- ・教育的立場、指導的立場、頭を使う仕事、人に尊敬される仕事を好む。

■印綬の組み合わせ

甲・癸	乙・壬
丙・乙	丁・甲
戊・丁	己・丙
庚・己	辛・戊
壬・辛	癸・庚

■キーワード

*長所

学問・名誉・宗教性・自尊心・
 頭脳明晰・アカデミック・研
 究好き・向上心・知的好奇心・
 完璧主義・泣き言を言わない・
 学者肌・文才・弁舌・引き立
 て

- ・自分好きで自己評価が高く、他人にあまり関心がない。
- ・インテリぶる人は、実力、能力はない。
- ・プライドが高く、自分の欠点や失敗は必死に隠す。
- ・忍耐力に欠け、他人を頼ってばかりで、甘い考えから脱出できない。

***短所**

自意識過剰・ホンネを見せない・ほめられたい・依存心・甘え・うぬぼれ・傲慢・理屈っぽい・楽して儲けたい・野心家・

***人物**

印星は母親をあらわす

◆印綬の陰と陽

陰	陽
<p> 知恵者 名譽ある賞 自分の研究を熱心に語る 指導的立場 頭を使う仕事 宗教性が高い 学者肌 自惚れ屋 学問や研究をを極めたい 自分の研究が高い評価を得る事を望む 自分は天才だと思つ 人に尊敬されたい 自分好きで自己評価が高い 他人に関心がない 面倒な事は自分の仕事じゃない 依頼心 </p>	<p> 知恵者 名譽ある賞 自分の研究を熱心に語る 指導的立場 頭を使う仕事 宗教性が高い 学者肌 自惚れ屋 学問や研究をを極めたい 自分の研究が高い評価を得る事を望む 自分は天才だと思つ 人に尊敬されたい 自分好きで自己評価が高い 他人に関心がない 面倒な事は自分の仕事じゃない 依頼心 </p>

※陽は表に出ている具体的な行動。陰はその動機となる背景。

印綬の場合は、人から指図されるのを嫌い指導者的な立場を好む人が多く、その心には、命令するのは自分だという自尊心があります。

◆印綬の陰陽・実虚

陽的な面は、学問好きで、好きなことの研究をしていられれば幸せというぐらい、三度のメシより研究といったタイプです。その研究の題材は、何も崇高な学問に限らず、映画や音楽、絵画、芸術関係から、プロスポーツやアニメなどもあります。考えること、頭を使うことが大好きで、知恵の輪やなぞなぞ、クイズなどに熱中して一日の大半が終わってしまう人もいます。

問題を聞いただけで、答えがすぐにわかってしまうので、その答えに至るまでの途中経過をはぶきたがります。本人だけがわかっていて、周りは誰も理解していないかったといったことがけっこうあり、そこにカリスマ性が生まれ、教祖のような人気を博すこともあります。

陰の心理面は、人に指図されるのを最も嫌い、指令を出すのは自分だといった強烈なプライドを持っています。自分を低く見られたくないので、失敗談は決して誰にも話しません。

■印綬の陽

虚 (無気力)	実 (過剰)
学問や研究が続かない 人がほしだけ 深く考えることをしない 夢のある話ができない 依頼心が旺盛 苦勞が大嫌い	知恵がある 頭を使う仕事に向く 学問研究を好む カリスマ性 夢のある語り口調 人をトークでひきつける

自分のことが大好きで、人からちやほやされたがつていますが、本人が他人をちやほやするとか、他人に興味を示すことはありません。

これが『虚』になると、自分のことが好きじゃなくなっていくます。何かの研究をしても、周りにそれを認めてもらえなかったり、夢物語を語って聞かせるような話し方もできないので、欲しい名誉も人気も得られません。

天才的な才能があると自分では思っているので、周囲に受け入れてもらえなければ、研究題材を変えたりしますが、結局何をやっても長続きせずに、極めることができません。

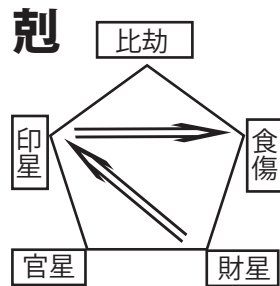
何かをお願いしても、約束や期限を守ることができず、できなかったとは、口が裂けても言えないプライドだけはあるので、問い詰められると、行方不明になつて居場所がつかめなくなります。印星は、楽しいことを優先する星なので、楽しくなさそうだと感じたら、逃げてしまうのです。

■印綬の陰

虚 (無気力)	実 (過剰)
研究材料が見当たらない だらだらと過ごす 自分は評価されるべき 自意識過剰 世間がばか 善人に見られたい	名誉を得たい 人気者になりたい 自分が大好き 他人に関心がない 汚いことはやりたくない 面倒くさがり プライド

他人を頼ってばかりで、甘ったれで、何かをしてあげても感謝の気持ちを示さず、当然だという顔をしています。

※印星が『虚』になると、楽しい生き方ができなくなり、印星を剋してくる財星のように超現実的で合理的な硬い頭になっていきます。また、印星が剋す食傷のように、細かいことばかり批判して、全体をみて要点を把握する視点の高さがなくなります。



第六章

十干を陰陽、 実虚で理解する

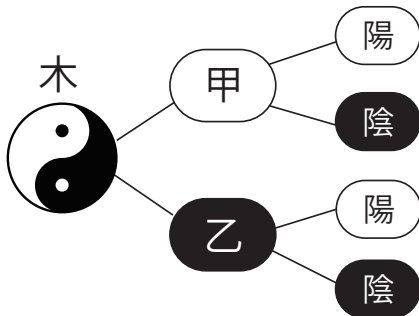


■十干を『陰と陽』『実と虚』 で理解する

これから十干の説明に入ります。ここでも今までの古典的な吉凶判断の考え方を捨てて、『実と虚』、そして『陰と陽』で考えていきます。

十干は、もともと五行が陰と陽に分かれたものですが、その分かれた陰と陽のなかに、またさらに陰と陽があります。つまり、陽の中に陰と陽があり、陰の中にも陰と陽があるというものなのです。

例えば昼の中にも陰と陽があり、夜の中にも陰と陽があります。夜明けから太陽が頂点に来るまでは陽、太陽が頂点に来て日が落ちるまでは陰、というように陰と陽があります。甲は陽ですが、この中に陽的な部分と陰的な部分があり、乙は陰なのですが、その



中にも陽的な部分と陰的な部分があると考えます。

また、『実』と『虚』については、『実』はエネルギーが満ち溢れている状態、ちよつと満ち溢れすぎているのが『実』。『虚』というのは逆にエネルギーがほとんどない状態です。身体で言ったら、『実』が便秘の状態、『虚』が下痢の状態といったところでしょうか。

そしてどちらかと言うと、

『実』は急性的です。

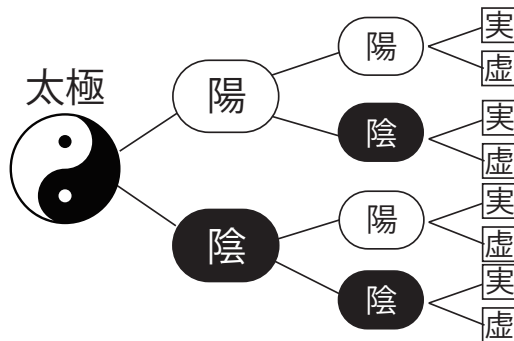
『虚』は慢性的になります。

『実』のほうが、荒っぽいです。

『虚』のほうが弱々しいです。

感情面では、『実』の方は、他人に対する恨みとか嫉妬とか怒りとか、あるいはやる気満々。

エネルギーのない『虚』の状態は、無気力、無感動、決断できない、何もしない、迷い、グチグチ言っているだけ、といった慢性的な状態になります。



■甲と乙を『陰陽・実虚』で理解する

◆甲

原書には、次のように記載されています。

甲は大木になる木で、水をコントロールする能力があり、火を生じる薪となり、岩を砕く力があります。

大木だから、根っこは水を吸収するので水をコントロールする力があると書いてあるのです。そして木だから、伐採して薪にしたら火の燃料になります。そして根っこが岩を砕く、だから戊を砕くということです。

どうでしょうか？どうみても、人間の性情を説明している文章じゃないでしょう。こんな物質的な説明で、人間の運命が分かるはずがありません。

***星平会海占いスクールテキストからの引用**

※甲は思考がエネルギー源

■性格

- ・エネルギーを思考によって分散する
- ・頭が良く理解力があり、人の話を良く聞く
- ・言葉による連想が早い
- ・どこに行くにも本を手放せない人が多い
- ・大儀正邪の観念が強く、書物に書いてあるものを重く見る傾向
- ・言葉によって真理を求め、真理に従って行動することを欲する
- ・シミュレーション能力が高い

■キーワード 長所

プライド・凛然・勇敢・自尊心・曲がったことが嫌い・妥協しない・地位や名誉・社会的成功願望・知的欲求・誇り・ステイタス性・邪を正す・責任感・リーダー・統率

◆甲の陰陽

陰	陽
思考 本にとらわれる 尊敬されたい 哲学・宗教 真理の探求 会話好き 理解力 シミュレーション能力	権威 責任感 誇り高い 堅苦しい リーダー 姿勢がいい 討論・議論に強い 社会活動

■キーワード 短所

短気・地位、権力に弱い・言いだしっぺ・堅苦しい・人を見下す・打たれ弱い・頭でっかち・計画倒れ

これが甲の特徴なのですが、このまま全部覚えろつたつてムリですね、そこで陰陽実虚に分けるといいのです。陽的なポジティブな面と、陰的な穏やかな部分、それが過剰であれば『実』、無気力であれば『虚』、として分けていきます。

※陰と陽は一体ですので、どちらも持っています。表と裏です。『実』の場合、陽的な面がその人の特徴として出ているとしても、必ず裏側には陰が隠れています。そこまで深く人を洞察することです。

◆甲が陽実・陽虚の状態

甲の『陽の実』は、堂々としていて、社会的地位や権力などの権威があり、上に立って人を指導す

る立場、指令を出す立場の人になります。

書物からの言葉の引用がうまく、説得力があります。議論で相手を打ち負かすだけの思考力もありますが、討論になると相手が折れるまで引きません。上から目線になりすぎる傾向もあり、人から命令されるのをひどく嫌がります。

これが『虚』になると、社会的な公の場での活躍を目指さず、上に立って人を指導するような立場をあきらめ、責任を回避します。決断力もありません。

ねこ背で姿勢が悪く、服装もだらしない格好で平気になります。無駄口が多くなり、言い訳や、愚痴ばかりになります。視線が定まらず、オドオドしたような態度で、言うことがコロコロ変わり、問い詰められると黙り込みます。

■甲の陽

虚（無気力）	実（過剰）
勇気がない 権威に無関心 責任をとらない 愚痴が多い 上に立とうとしない 姿勢が悪い 議論できない 社会活動に無関心	勇気がありすぎる 権威を求めすぎる プライドがありすぎる 堅苦しい 胸を張り過ぎる 朝まで討論 社会活動しかしない

◆甲が陰実・陰虚の状態

『陰の実』は、気になることがあると深く考えすぎる傾向があり、神経がとても張りつめて、眠れなくなるなどの睡眠障害がおきます。言葉による連想が早く、人の話をよく聞き理解力もあります。実際の現実にかけていることより、書物に書かれていることを信じる傾向があり、活字を通じて真理を見つけようとします。計画を頭の中で練ることが得意で、シミュレーション能力はあるのですが、実行は誰かにやらせようとする傾向があります。

これが『虚』になると、深く考えずに、簡単に善悪を決めつけて、結論を出すようになります。人の話に興味がなく、一生懸命聞くとしなくて理解力も弱くなります。

書面に書いてあることの真意を読み取るうとせず、活字を鵜呑みにするので、騙されやすく、同じ失敗を何度も繰り返すようになります。目の前の現実にかけていることよりも、活字を信じる傾向が強くなり、妄想が多くなることもあります。

■甲の陰

虚 (無気力)	実 (過剰)
深く考えない 本を読まない 宗教・哲学的じゃない 真理などどうでもいい 人の話に興味がない シミュレーションをしない	考えすぎる 知に走り過ぎる 事実より活字を信じる 活字中毒 抽象的すぎる 話が長い シミュレーションばかり

精神性の高い本や、哲学書などに無関心なので、言葉に重みがなく、受け売りでモノを言うようになり、誰からも尊敬されなくなります。

原書の乙は「乙は甲と同じ植物ですが、水をコントロールする能力がなく、岩を砕く力もなく、火を生じる力ありませんが、美しい花を咲かせ人を幸せにします。」とあります。

実際には、人を幸せにする、人が気持ちよくなるように合わせることもできるというのが、正確な言い方で、それが乙の協調性になるのです。

また原書には、乙は草花だから、岩石の戊や己をコントロールできない、乙は草花だから火の燃料にならない、あるいは水をコントロールできない、草花は水をあまり吸えない、と書いてあります。草花は大樹に比べて、水を吸い取る力が弱いです、だから水生木というような流れがスムーズにいかず、印星が弱いという理屈です。

また草花は、大きな石がゴロゴロしているような岩を砕く力がない、木剋土の作用がなせない、だから財につながらない。草花が枯れると火の燃料になるけれど、それは一瞬にして燃え尽きてしまうので、火も生じることができない、なので食傷も生じにくくて頼りにならないと言いたいのです。つまり、まったく役に立たないと書いてあるのです。

*星平会海占いスクールのテキストからの引用

※乙は和合と協調の精神

■性格

- ・与えられた仕事を一生懸命こなす。
- ・他人を傷つけるような言動はしない。
- ・断定的な言葉に対して懐疑的だが、押されてしまう。
- ・自分の考えに執着せず、物わがりの良い人が多い。
- ・単独では力を発揮しにくい。
- ・グループの結束を固めるために重要な役割を果たす。
- ・長時間の緊張には弱く、食欲をなくす。
- ・決断力はないが、夢はダイナミックで大きい。

◆乙の陰陽

陰	陽
協調性 グループのまとめ役 気配り上手 会話好き 補佐役で出世 縁の下の力持ち 決断しない ダイナミックな夢 物分りがいい 理解力がある 安定志向 他人を傷つけない言動 聞き上手 人から認められたい ロマンチスト 自分の意見を持たない	協調性 グループのまとめ役 気配り上手 会話好き 補佐役で出世 縁の下の力持ち 決断しない ダイナミックな夢 物分りがいい 理解力がある 安定志向 他人を傷つけない言動 聞き上手 人から認められたい ロマンチスト 自分の意見を持たない

■キーワード 長所

柔和・柔軟性・協調性・安定・二番手で活躍・秘書タイプ・ロマ
ンチスト・冒険したい心・話し好き・縁の下の力持ち・しなやかさ・
人当たりの良さ・気配りの天才

■キーワード 短所

迷い・不安・依頼心・他人の目が気になる・意志が弱い・認めら
れない・臆病

◆乙が陽実・陽虚の状態

乙の『陽で実』は、周囲に気を配ることにプライドを持ってい
るかのよう、周りの様子をよく見ています。話好きで、話題も
豊富で、とても楽しい雰囲気を作ります。ただ、自分の意見を言
わなければならなくなると、「誰々さんも言っていた」と、誰か

■乙の陽の実虚

虚（無気力）	実（過剰）
協調性がない 人に合わせないで反抗 気を配らない 話題が乏しい 人の集まりを避ける 組織に無関心 決断できない 夢がない	自分の意見は言わない 周囲に気を配る おせっかい 話上・手聞き上手 指示されたほうが動ける 受け身

の意見を言います。姿勢は受け身で、何かを頼まれると、忠実にそれをこなそうと頑張ります。決断力はないので、トップに立つより、補佐役のほうが俄然、光ります。

これが『虚』になると、協調性がなく、人に合わせるどころか反抗的な態度になってきます。人の集まるところが苦手になり、集団の中に入るとひどい疲労感に襲われます。話題性に乏しく、人の話も言葉つ面だけを追っているので、理解に至りません。懐疑的になることもあり、わけも分からず漠然とした不安感にいつも悩まされるようになります。

◆乙が陰実・陰虚の状態

乙の『陰の実』は、人の話しをよく聞き、自分の考えに固執することなく、とても物分りの良いタイプになります。志を高く持とうという意識があり、分かち合うことに喜びを見出します。討論に弱く、反論されるとたんに不安になり、相手の意見に飲み込まれてしまいます。尊敬する人の意見をいつも参考にします。矢面に立つよりも、人を傷つけないように気を使い、縁の下の力持ちとして重要な役割を担います。

これが『虚』になると、人の話をよく聞かず、その場その場で、場当たりの意見を言い、一貫性がなくなります。もともと自分の考えがない上に、志を高く持とうという気持ちも薄いので、他人の評価ばかりを気にして、疑い深くなります。尊敬できる人が見つからず、迷いが解消されません。

その人を見て、甲乙があると『実』なのか『虚』なのかを、問診で見ぬいてください。さらに陰なのか陽なのかを、見ぬいて欲しいのです。陽的な部分が出ています、必ず陰的な部分が背景にあります。陰陽は一体なので、必ず裏側にそれがあります。

このように一つの十干で4パターンができます。十干すべてで40パターンができるのです。

そうすると通変星で、例えば甲乙の劫財の場合、何通りあると思いますか？、十干がそれぞれ4通りですね、4×4で16通り

■この陰の実虚

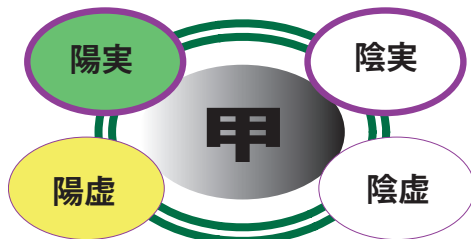
虚 (無気力)	実 (過剰)
臆病 不安感が消えない 迷いが消えない 人に合わせる気がない 他人を疑う 理解力もない 物分りが悪い	物分りがよすぎる 分かち合いの精神 人の意見が自分の意見 反論に弱い 縁の下の力持ち 理論的な話しに惹かれる

の、甲乙の劫財があるわけです。市販の本を読むときに、劫財だけを理解するのではなく、『陰陽・実虚』も考慮してください。

例えば、甲・乙の劫財の場合、勇敢で怒りっぽくて権威を目指して力の入っている人が、協調性もある、まとめることがうまい、コミュニケーション上手、トップもできるし2番手もできて、夢が大きいとなるのが、『甲の実と乙の実』を組み合わせた場合です。勇気がなくて、愚痴ばかり言い、権威を目指さず、けなし、力がない、しかも協調性がなく、まとめる力もない、反抗ばかりしていて、夢もない、これが『甲の虚、乙の虚』を組み合わせた場合です。

一方で、甲が実で乙が虚という場合もあります。甲が虚で乙が実という場合もあります。

思考が深い、本にとらわれる、活字ばかり読んで知る、真理にとらわれる、宗教にのめり込む、といった人が、物分りがいい、



十干とは
40パターン

$$\begin{aligned} & \text{十干 (40)} \times \text{十干 (40)} \\ & = 1600 \text{通り} \end{aligned}$$

理解力がある、人の意見を尊重するとなった場合、実と実で陰の組み合わせです。

しかし、甲が実で、乙が虚の場合は、思考が深くて本にとらわれ、真理を求めすぎますが、迷いが多く、臆病なだけとなります。これは甲が『実』で乙が『虚』の陰の場合です。

もうおわかりかと思いますが、10個の十干の象意は、40通りあるのだから、十干と十干の組み合わせは、 40×40 の、1600通りの通変星ができることになるのです。

私は今から20年ぐらい前に、関東にいるある占い師さんのところに、お客さんから紹介されて行ったことがあるのです。その家には、何万人という手書きの鑑定書が積んであって、それを見せてくれました。

その占い師さんとの会話で、

「天野さん、通変星は何通りあるか知っていますか？」

「本によると、比肩、劫財、食神、傷官などの10通りですね」

「いや、話しにならない」

「じゃあ、100通りでしょう、甲甲、甲乙と十干同士全てを見たら、100パターンです」

「いやー、まだまだだね」

と言うのです。

「実は1600通りあるんだよ、その1600通りを瞬時に判断できたら、天野さんも一人前だね」、
こう言われたのが最後で、それが私にとつての遺言になりました。その方はもう他界されています。

その1600通りの内容というのは、誰にも教えていないということで、私にも教えてくれませんでした。おそらくそれはこういうことだろうと思います。

その人は、当たるといふことで有名な人でした。おそらく、日本の占い師で、この1600通りを使いこなせる人はほとんどいないでしょう。私の知っている限り、この人だったらという人が、一人だけです。

なので、みなさんも、これを勉強して1600通りを使いこなして欲しいと思います。はっきり言って、これだけで新しい占いビジネスができる位です。

■丙と丁を陰陽・実虚で理解する

◆丙

原書では丙は太陽です。太陽だから熱と光を持ち、何ごとも明らかにし、寒気をとき温める力を持ちます。熱と光を持ちと書いてありますが、それを人間の性情と考えると、一体何なんだ、という感じですね。

原書によると、丙が2つあると、「天無両日」といって、家に夫が二人いる、国に君子が二人いる、だからうまくいかない、やりたいことが分散するからうまくいかない、悪い命だと書いてあるのです。

*星平会海テキストからの引用

※丙は強い集中力と粘りを持つ

■性格

- ・エネルギーの集中が速い。
- ・粘り強く緻密で長時間、集中を持続できる。
- ・納得できないことは譲らない。
- ・ものごとを深く細かく考え、独自の世界観を持つが、周りに関心がない。
- ・気に入った人だけかわいがり、えこひいきをする。
- ・無か有か、やるか、やらないかのどちらか。
- ・凝り性で、特に食べ物に対して強いこだわりを持っている。
- ・性に関心が深く、性的エネルギーを他の集中でできる事柄に転化する。

◆丙の陰陽

陰	陽
凝り性 独自の世界観 執念深い 性への関心 自己中 細かい 隠しごとができない 緻密 直感力	素早い動き えこ ^{ヒイキ} 最 ^{ヒイキ} 戻 ^{ヒイキ} する 熱中する 無か有か 粘り強い 名声 カリスマ性 能動的

・非常に自己中心的なので、集団生活に向かない。

■キーワード 長所

・公明正大・カリスマ性・非戦略・能動的・強烈な集中力・凝り性・粘り強い・性欲が強い・素早い動き・自己表現・有名になる・直感力・収集癖・いつも何かに熱中・プラス思考。

■キーワード 短所

・非継続・執着心・自己中心的・しつこい・細かいことにこだわりすぎる・注目を浴びたがる・執念深い・他人に厳しい・強情・オタク。

◆丙が陽実・陽虚の状態

丙の陽の面が過剰になりすぎると、異常な集中力を発揮するようになります。一度何かのにめり込

むと、寝食を忘れて没頭するので、気がついたら飲まず食わずで次の日になつていたとか、睡眠時間は2〜3時間しかとつていないとかで、肉体の限界を考えないようになります。

人の好みの基準がはつきりしているので、あからさまにえこ鼻^{ヒイキ}屑をします。たとえ自分の家族や子供であろうとも、一度気に入らないことがあるとそれを根に持ち、態度が冷たくなります。逆に気に入ると、猫つかわいがりするようになります。しつこいを通り越して鬱陶^{ウツトウ}しがられることもあります。

有名になりたがる人もいますが、それは自分ほどその分野で研究し尽くしている人はいない、自分しかいない、そういった自負心の現れでもあります。それほど丙の実になると、やると決めたことに関しての探求の深さは普通じゃありません。名声を得ても当然だという思いが背景にあつて、名声を得るといったことになりません。

※鬼才とか天才とか言われる人に、丙の人は多くいます。

■丙の陽

虚（無気力）	実（過剰）
能動的ではなく受動的 注意力が散漫 誰も可愛がらない 動きがトロい とことん追求しない ただの凡人	能動的すぎる 集中しすぎる 熱中しすぎる 目立ちたがる あからさまにえこ鼻屑 動きが素早い 身のこなしが軽い

これが『虚』になると、自発的に何かをすることがなく、受け身で、反応が鈍くなってきました。没頭するものが見つからず、集中力も散漫で、簡単にできることしかやらなくなります。それでも自分に注目してもらいたい気持ちだけはあるので、わざと人の気を引くような派手なパフォーマンスをしますが、中身が伴わないので、すぐに飽きられてしまいます。

◆丙が陰実・陰虚の状態

丙の陰の面は、直感力が鋭く、それを微細に感じ取る能力が優れているところです。それが過剰になると、余りにも細かすぎて、小うるさくなり、誰もついていけないようになります。細部にとらわれすぎて、丁寧なのはいいのですが、ていねいすぎて物事の進展が遅く、期限や約束などを守れないようになってきます。

■丙の陰

虚 (無気力)	実 (過剰)
直感が鋭すぎる 顔に書いてある 細かすぎる 自分好き オタク 精密・細密	直感が弱い 大雑把 隠しごとがいっぱい 自己中 魂に沿っていない 性に無関心

凝り性がいき過ぎて、オタクっぽくなる人もいます。

細かいことにこだわらない大らかな人を、大雑把で無神経だとバカにするようになってきます。自分好きで隠しごとがでず、思っていることが、顔や態度に出るのですぐわかります。

これが『虚』になると、あけっぴろげな大らかさがなくなり、おとなしくて、印象の薄い根暗な感じになってきます。もう何日も笑っていない、楽しくなさそうな毎日を送っていて、話す言葉のトーンも低く濁っています。インスピレーションも、変なところから拾ってくるようになり、呪術などに関心を持ち始める人もいます。

◆ 丁

原書では、丁は人工の火なので、やはり熱と灯りを持ちますが、燃え続けるためには燃料が必要だと書いてあります。

*星平会海テキストより

※丁は正義感と秘めた情熱

■性格

- ・自分が頼られているという感覚が、心の支えになっている。
- ・好き嫌いは態度には出さないが、かなり激しい。
- ・羽目はずすことがめったにない。

◆ 丁の陰陽

陰	陽
<p>義理人情 善悪に敏感 正義感 知恵がある 頼られたい こだわり いざこざを避けたい 善人でありたい</p>	<p>世話好き 情熱的 文才 丁寧 羽目を外さない 穏やかな口調 人当たりの良さ 人に合わせる</p>

- ・一度決めたことでも、何度も悩んでしまう。
- ・下品なものを極端に嫌う。
- ・本来に信頼する人にだけ、心の奥を開く。
- ・嫌なことは自分の中で分散し、人間関係のいざこざを起こさない。

■キーワード 長所

奥ゆかしい・溫柔・義理人情・善悪に敏感・情熱的・正義感・丁寧・癒し系・穏やかな口調・頼りたい・知的・知恵がある・文化的・世話好き

■キーワード 短所

考えすぎる・勇気がない・決断できない・嫌われないように振る舞う・好き嫌い激しい・面食い・自分の世界観にこだわり孤立

◆丁が陽実・陽虚の状態

丁の陽的な行動には、品行方正で奥ゆかしく、相手に不快感を与えないように振る舞い、人の世話をせつせと焼くといった面があります。

これがいき過ぎて『実』になると、相手のことを思つて世話を焼くのですが、そのやり方が自分本意のやり方を押し付けるようになってきます。

もともと丁というのは、自分の意見は言わずに、人に合わせて人付き合いをしますが、内心では「もつとこうしたほうがいいのに」という意見をしっかりと持っています。

それは丁特有の正義感がもたれているのですが、『実』が高まつてくると、その自分のやり方を、相手やタイミングや環境などを考えずに「これが一番いいんだ」とガンコに言い張り、自分の意見が通らないと癩癪を起こし始めます。こうなると、かなり『陽・実』の状態とみえます。丁の頑固さと情熱に周りがついて

虚（無気力）	実（過剰）
人の面倒を見ない 大雑把 小賢しい 人に無関心 自分のことで精一杯 迷ってばかり 下品 野蠻	世話をやきすぎる 丁寧すぎる 人に合わせすぎる 品行方正 上品なものを好む なんでも受け入れる

いけなくなるといった様になります。

特に、丁寧といった特徴が、丁寧過ぎるようになると、その場の状況に応じて臨機応変に変更することができずに、ひとつひとつ順番にやらないと次のことができなくなります。結果、折角のチャンスやタイミングを逃してしまいます。

これが『虚』になると、人に無関心になっていきます。丁の場合、人の世話を焼くことでエネルギーが活性化されるのですが、『虚』になると自分のやりたいことしか関心がなくなつて、周囲との距離ができてしまいます。

丁寧に根を詰めることもできなくなり、大雑把で手抜きが多くなります。下品な言動、野蛮な行爲が目立ち、正義といったことは全く考えなくなります。自分の罪を人にかぶせて、のうのうとしている人もいます。

◆丁が陰実・陰虚の状態

丁の内面である陰の部分は、義理人情に厚く、世界中の人類、すべてが幸福に暮らせる世の中になればいいと願う気持ちを、強く持っています。原発反対運動などに関心のある人も丁には多くいますが、その背景には、人々の幸福を願う善なる思いがあります。

そういった運動に参加しているのは、丁の陽的行動となりますが、いき過ぎると、正義正義と、一言目には正義を振りかざして、その思いに賛同しない人を蔑んだり憎んだりするようになりま

す。
また頼られているといった感覚が生きがいになり、頼られたいためにやらなくてもいいようなことをやって、気を回し過ぎる面も出てきます。

丁の場合、自分の意見や考えは頑固なほどしつかりと持っています。しかし意見がぶつかったり、言い争いになるのを避けるため、自分の考えはその場では表に出さず、信頼している人を通じ

■丁の陰

虚（無気力）	実（過剰）
義理も人情もない 依頼心が強い こだわりが強くて孤立 知恵がない 正義感が薄れる 人目を気にする 自分は悪くない	義理人情にとらわれる 頼られたい やらなくていいことをやる 知恵をまわし過ぎる 自分の意見は言わない

てそれを実現させようと知恵を回します。

これが『虚』になってくると、人の評価、他人の目ばかりを気にして、自分がどう見られるかだけが人生上の重要問題となってきました。自分では何もできないと思いつみ、人を利用することばかり考えて、依頼心が強くなります。

しかし人に頼る割には、頑固でこだわりが強く、やりたくないことはどんなに本人のためだと勧められても、決してやりません。どんどん自分の殻に閉じこもり、思い通りにならないのは誰かのせいだと、周囲に対する不平不満から、愚痴ばかり言うようになってきます。

■戊と己を陰陽・実虚で理解する

◆戊

原書には、戊は、岩石で水を制して正しい道に戻す能力を持っているとあります。たとえば旺水にあつて戊が弱くても、溶けることはなく沈むだけだと書いてあります。岩石だから水をせき止める、水と
いうのは壬、癸ですが、岩石というのは、手のひらぐらいのものであつても、ちやぽんと水に沈むだけ、粉々になることはない・・・。これつて人を診断しているの？と思つたら、その人は脳が正常です。

*星平会海テキストからの引用

※戊は、情と信頼に生きる

■性格

- ・何があっても驚かず飄々としており、面の皮が厚い。
- ・どっしりと構えているが、機転が利かない。
- ・情に厚く親分感覚を持つ。
- ・人当たりが柔らかく、社交的。
- ・行動の元は好き嫌いで、利害損得、権威を好まない。
- ・意外に見栄っ張りで、対面を気にしている。
- ・人の話を言語で聞かず、トーンで聞いている。

■キーワード 長所

面倒みがいい・信用・こだわりが少ない・潤滑油的存在・実用性を好む・情で動く・どっしりしている・安心感がある・根気・人脈・

◆戊の陰陽

陰	陽
細かい事はわからない 好き嫌いが激しい 言葉より腹をみる 地位より人柄をみる	社会的 面の皮が厚い どっしりしている 潤滑油的存在 幅広い人脈 よく食べる こだわりがない 実用的 見栄っ張り 情に厚い 信用を重んじる 情で動く 義侠心

食べることが好き・抑制力・人情家・タフ

■キーワード 短所

鈍い・臨機応変さが無い・頑固・言葉が通じない・片づけが下手・不器用・遅い・融通がきかない・好き嫌いで判断する・いい格好したがる

◆戌が陽実・陽虚の状態

戌の面^{ツツ}の皮が厚いというのは、こだわりが少ないために、細かいことに反応しないからです。人当たりがよく、社交性があり、組織の中の潤滑油的役割をやらせると上手にこなします。これといった個性がない分、人と人をつなげるために、いろいろな顔

■戌の陽

虚 (無気力)	実 (過剰)
社交性がない 根暗 面の皮が薄い 人の気持ちを考えない 潤滑油になれない 友達欲が欲しくない 片付けない ゴミ屋敷	社交的すぎる 面の皮が厚い 調子がいい 友だちが多いのが自慢 食へることに貪欲 こだわりがなさすぎる 物を元の位置に戻さない

を作れます。人をその気にさせたり、仲を取り持ったり、時にはスパイのようなこともやつてのけます。人脈の広さが戊の特徴のひとつで、情で人を支配していきます。

ところがこれが『虚』になると、面の皮が薄く、いろんな顔を作れない、どつしりしていない、オドオドしている、社交的でない、人間関係がうまく結べない、となつて孤立していきます。戊で人間関係を作れない人というのは、戊じゃないです。

◆戊が陰実・陰虚の状態

陰の面が充実していると、「あの人はいい人だよ」という、心のチェックポイントがあり、いい人だからという理由だけで、面倒を見たり、行動してしまう面があります。なので、冷静で知的な判断力が鈍くなります。「いい人」というのは、情のある人の

■戊の陰

虚（無気力）	実（過剰）
誰も信用していない 情がない 嫌いな人ばかり 損得で人を判断 損か得かだけで行動 恨み言を言う 孤立していく、	信用がなくなるのを恐れる 情だけで動く 頑固 好きか嫌いかで動機 情に縛られる 冷静に現実を見ていない 人が好き

ことを指しています。鈍いようで意外に人目を気にしていて、見栄っ張りで、かっこついたりします。ただし、それも人と信頼関係を結ぶことにつながるかと考えている面があります。

これが『虚』になると、人の信頼に応えようという気持ちがなくなり、人からどう見られるか、あの人はいい人だろうか、といったことに無関心になっていきます。人の面倒を見るのが億劫で、人の集まる場所に顔を出したとしても、人のことを悪く言うだけで、場の雰囲気壊すので、孤立します。ますます人が嫌いになって、恨み言を言うようになります。

◆己

原書には、己はモノを育てる徳を備え、乙木（草花）にもよく従います、とあります。しかし弱々しくて崩れやすく、溶けやすく、他の星を汚す可能性があるので注意を要します。田んぼの土は泥だから、素で汚してしまうということです。植物を育成することもできるといつているのですが、人間

の性情の診断には役に立ちませんね。

*星平会海テキストからの引用

※己は、愛情豊かに育む心を持つ

■性格

- ・理屈よりも感情が優先。
- ・感情的だが、その感情の発散は屈折している場合がある。
- ・家族思いで、家庭的な雰囲気を変好む。
- ・情緒が豊かで、周りを明るい気分にするができる。
- ・感情の整理がつかず、ヒステリーになることがある。
- ・好きな人に叱られると、頭の中と感情の整理がつく。
- ・些細なことでやきもちを焼いたり、妬んだりしてしまう。

■キーワード 長所

情緒性・愛情深い・庶民的・家族思い・面倒見がよい・親分肌・育む心・表情豊か・義理人情・柔軟・楽しい人・和む・食べるこ
とが好き・料理上手

■キーワード 短所

感情的・嫉妬深い・不安定・好き嫌いが激しい・愛されたい・ヒ
ステリー・すぐ泣く・すねる・いじける・他人を当てにする

◆己が陽実・陽虚の状態

己が陽で実になってくると、まず、感情的すぎるところが、特

◆己の陰陽

陰	陽
劣等感 反省心 成長を楽しむ心 愛したい 愛されたい 人情家 感情の整理ができない	家庭的 理屈は苦手 ヒステリー やきもち焼き 庶民的 感情表現が豊か 親分肌 育成能力 家族思い 感情優先

徴です。好きな人の言うことは何でも一生懸命やるのですが、気に障ることを言うと、「生懸命やっているのに何なのよ！そんなこと言わないでよ！」とヒステリーを起します。

でも、感情が発散されているのは、まだいいのです。これがいじけたら、『虚』になります。

やきもちを焼きすぎて、モノに八つ当たりしたり、わめき散らしたり、大泣きしたり、忙しく発散されているのが『陽の実』です。楽しみを追いかけて、飲み過ぎ、食べ過ぎ、遊び過ぎも、『陽の実』です。

しかし、それが『虚』になると、いじけて、感情を閉じ込め、楽しいのか、楽しくないのか、怒っているのか、悲しいのか、何と、本人がどう感じているのかが、わからなくなってしまうのです。

異常なほど儉約してケチになったり、逆に快楽を求めるのを否定して、変な禁欲主義になっていく人もいます。

■己の陽

虚（無気力）	実（過剰）
感情がなく理屈っぽい 感表現ができない いじける 禁欲主義 まずそうに食べる 家族がいない 人を妬む 生き物に無関心	理屈より感情 愛情表現が豊か ヒステリック八つ当たり すぐ泣く やきもち焼き 食べ過ぎる 育てるのがうまい 生き物が大好き

◆己が陰実・陰虚の状態

人情的すぎて、情がベタベタと絡みつくようなふれあいを求めてきます。愛すること、愛されることにこだわり、常に愛の確認をしたがりです。そのため、何かあると自分がいけなかつたかもしれない、と反省するクセがあります。

家庭的雰囲気を好み、庶民感覚が行き過ぎると、下町風になります。生き物が大好きですぐに触りたがり、とても可愛がります。捨てネコなどみつけると、可哀想だからと、つい拾ってきてしまうこともあります。

これが『虚』になると、愛することに無関心になります。恋愛も、家族愛も、友情もあきらめて、心の感動がなくなります。平気で人を傷つけたり、人を疑ったりします。劣等感が強く、人も自分もきらいになつていきます。動物や植物をかわいい、触りたいと思わなくなります。

■10の陰

虚（無気力）	実（いき過ぎ）
家族に無関心 愛に無関心 感動がない 人とふれあおうとしない ペットを飼いたくない 動物や植物がきらい 劣等感のかたまり 反省しない	家族第一 情のふれあいを求める ベタベタしてくる 愛し愛されたい ペットを飼う 常に反省している 人と比べるクセ 叱りたい

■庚辛を陰陽・実虚で理解する

◆庚

庚は大きな金、粗雑な金、山から掘り出された未鍛錬の金属、鋼鉄、くず鉄と、原書には書いてあります。しかし、いったん火に鍛錬されると、貴金属にまさる価値のある星に変化します、とも書いてあります。

人間の性情を、ことなくず鉄なんてよく言うなと思いますが、くず鉄でも火によつて精錬されると良くなると書いてあります。実際の人を見てみると、たしかに庚の人は、人の言うことを聞かないです。自分勝手にやります。優秀な人だと成功します。誰もやっていないことを冷静に、損得を考えてやっていくので成功します。

しかし成功しない人も人の言うことを聞かないです。だから自己破産まで行っちゃいます。そういう人は、火で精錬されたほうがいい、火というのは丁なので、火剋金で官星となったら、人の言うことと聞くでしょう。人の言うこと聞かないから、官星のような従順さが隣にあったほうがいい、そういうことです。

*星平会海テキストからの引用

※庚はアクティブな行動家

■性格

- ・ピンと来てしまったら誰の意見も耳に入らない。
- ・損得勘定が発達しており、感情で動くことはない。
- ・頭の切り替えが早く、行動力があり、経験によって学ぶタイプ。
- ・流行に敏感で、美的センスがよい。
- ・多くのことを同時並行で処理できる。
- ・騒々しいところでも平然と集中できる。
- ・エネルギーがあまると無駄遣いをする。

■キーワード 長所

直感力・素早い実行力・軽快・敏捷・仕事人間・冒険心・アクティブ・感情に左右されない・疲れ知らず・美形・楽観的・使命感・実利的・

◆庚の陰陽

陰	陽
待てずに焦る 頭の切り替えが早い 流行に乗る キレイでいたい 見た目が大事 引きずらない 感情と現実を別 アクティブ ひらめき	損得実利 合理的な行動 流行に敏感 美容に関心 結果を出す 決断力 じっとしてられない 無駄遣い

結果を出す・決断力・鋭敏・客観性・合理的

■キーワード 短所

強引・短気・攻撃的・根拠のない自信・焦り・自己主張・打算的・じつとしていられない・他人に無関心・人の意見を聞かない・冷淡・欲深い

◆庚が陽実・陽虚の状態

何があっても、損か得かを考える冷静な判断力があり、すぐに行動に移します。行動は合理的でムダがありません。

流行っているものをいち早く取り入れる柔軟性があり、流行に乗って華やかな舞台上で活躍したが

ます。決断力があり、一度決めると、早く結果を出したくて、集中的に攻めていきます。

これが、行動しない場合は『虚』の状態です。損得勘定の判断も、目先の利益のみにとらわれて、打算的になります。合理的判断力もなくありません。

楽して儲かる方法を考えるようになり、人のふんどしで相撲を取ろうとします。豪勢できらびやかな生活に憧れを抱き、お金がないのに、高級志向がやめられなくなつて、簡単にお金が借りられるサラ金に手を出して借金がかさむなど、自分で自分の首をしめていきます。

■庚の陽

虚（無気力）	実（過剰）
損得は見極める 直線的行動 流行を追う 悩んでいる暇がない 多忙 即断即決 結果を出すために努力 金遣いが荒い	損得は考えるが行動しない 決断できず迷う 人を利用する うじうじ悩んでいる 暇がある 人のふんどしで相撲 借金しても生活落とせない 打算的

◆庚が陰実・陰虚の状態

庚に感情がないわけではないのですが、仕事となるとスイッチが切り替えられ、感情に流されるのコントロールできるのです。そんな庚の『陰の実』は、直感を行動に移すのが早く、ピンときたら誰の意見もまったく耳に入りません。静かなところより、街中とか騒々しいところのほうが集中できるので、人混みや騒音は苦になりません。この合理的行動の裏には、焦りがあり、それが原動力になっています。

これが『虚』になると、考えるのは目先の損得計算だけで、直感が働かなくなります。どうしようどうしようと迷うだけで、世の中の流れに鈍感になります。

一つのこと集中できず、人を色眼鏡で見て利用することばかりを考えます。飾り物の人生で、行動と中身が伴いません。

■庚の陰

虚（無気力）	実（過剰）
直感で動く 損得に耳を傾ける 常に焦りがある 失恋しても仕事はできる 美しいと得ををすると思う 貧乏は許せない 流行ものに関心 アクティブ	直感が働かない 誰の意見も聞かない 自信がない 虚飾 流行に無関心 自分をよく見せることだけ 他人に無関心

◆辛

原書には、辛は傷つきやすい貴金属、ガラス、鍛錬されることを嫌い壬水で清めるだけとあります。甲木は倒しにくく、乙木なら簡単に倒せます。辛は、ガラスとか貴金属なので、大木の甲とかは当然剋せません。五行的には金剋木なのですが、辛にはできないと書いてあります。

壬があると水できれいに洗ってくれるのでいいと書いてありますが、人間の性情に置きかえて、考え直してください。古典的な四柱推命を学んで、自然現象に置きかえている人は、みんな頭が変ですから。

*星平会海テキストからの引用

※辛は繊細な芸術家

■性格

- ・内向的で感情を抑圧するタイプ。
- ・十干中、一番弱い干なので、自分を守るために対人関係に敏感。
- ・芸術的才能があり、美的センスに優れる。
- ・呼吸器を休ませるために静寂を好む。
- ・夢想的で、空想の中で行動し、実際はあまり活発ではない。
- ・精神的損得に敏感で、ボランティア精神が発達している。
- ・困難があってもあきらめない忍耐強さがある。

■キーワード 長所

美意識が高い・道を究める・我慢強い・清潔・清楚・繊細・
職人氣質・匠の人・伝統・努力家・手先が器用・色白で肌がきれい・
一途・人の気持ちに敏感・長期戦に強い・芸術家肌

◆辛の陰陽

陰	陽
アート感覚 こだわりの職人氣質 伝統を重んじる 理想主義 犠牲的精神 取り越し苦労 一途な美意識 繊細な神経	我慢強い 道を極める 努力家 芸術家肌 美意識 対人関係が苦手 言葉がきつい 手先が器用 職人技 精神的鍛錬を欲する

■キーワード 短所

妄想にふける・取り越し苦勞・言葉がきつい・こだわりが強い・柔軟性に欠ける・肺を痛めやすい・毒舌・神経質・思いつめる・いつも体調が悪い

◆辛が陽実・陽虚の状態

辛は辛抱の辛シなので、それが行き過ぎると、我慢せずに、体調を崩すことがよくあります。また、道を極めることにこだわりすぎるあまり、視野が狭くなります。最高の技術、最高の職人技といった自分を磨くことに憧れます。そのため人付き合いは器用じゃないですが、辛の、一途に道を求めるところに、サポートするような形で人が集まってきます。

■辛の陽

虚（無気力）	実（過剰）
忍耐力がない 道を極めることを諦める 努力しない 怠け者 芸を磨こうとしない いつも体調が悪い	我慢すぎて体調を崩す 道を極める 匠の人を目指す 職人芸を身につける 芸術に携わる 人付き合いは不器用

これが『虚』になると、忍耐力がなく、努力することを嫌い、美意識が低くなります。こだわりがない割には、柔軟性に欠け、キツイ言葉で人を攻撃するようになります。毒舌で、不満が多く、何をやっても長続きしません。

◆辛が陰実・陰虚の状態

『陰の実』になると、精神的な修練をすることに、本人の美学がもちこまれ、滝に打たれるなど、修行僧のようなことに興味を持つ人もいます。耐えぬくことに価値をおき、そこに現実感覚はありません。繊細な感性をアートの生かし、歳を重ねるごとに芸術に磨きがかかります。理想・空想を追い求めるロマンチックな少年少女のようなどころがあります。

■辛の陰

虚（無気力）	実（過剰）
精神的鍛錬を怠る 人の気持ちに鈍感 アートに無関心 大雑把 理想がない 美意識が低い 簡単なことだけやる 伝統を無視する	精神的鍛錬をしすぎる 繊細すぎる 一途すぎて他が見えない 理想を追い求め過ぎる 伝統にこだわる 自分を磨きたい 美意識にこだわる

これが『陰の虚』になると、眼に見えない精神面に無関心で、心の鍛錬とは無縁になります。人の気持ちにも鈍感になり、アートの感性も大雑把です。美意識が低く、忍耐もないので、簡単にモノに出来ることしか着手しない、インスタントな芸術感覚になります。伝統を愛する心もありません。

古典の文献には、金に貴命なし、という言葉があるのですが、こんなのは今の時代通用しないです。庚・辛があると、良くない命だと書いてあるのですが、ナンセンスです。まったく気にすることはありません。

■壬と癸を陰陽・実虚で理解する

◆壬

原書には、次のように記載されています。壬は、大海の水、氾濫したり濁水に変化することを恐れます。旺じれば、常軌を逸脱し、甲か戊で、制する以外、ありません。

これは、壬は小川のきれいな水なので、田んぼが横にあると田んぼの土で汚されて濁るとか、寒い冬にたくさん水があつて、もう水が要らないという場合は、横に戊があつて、堤防を作つてダムにしてもらう、あるいは、甲に水を吸ってもらうという自然現象を古典では言っています。

もともと壬は勝ちに行く、という性質を持っていますが、勝ちたい勝ちたいばかりではバランスが良くないので、戊の情的に人を支配するような社交性も欲しい、また、ただ勝つばかりではなく権力とか地位獲得のために戦略的思考をすべきと理解し直さないといけません。

*星平会海テキストからの引用

※壬は真つ向勝負の勝負師

■性格

- ・勝ち負けにいつもこだわっている。
- ・知的で戦略思考が得意で勝つための情報を求めている。
- ・勝ち急ぐので、短慮に走る。また敵を作りやすい。
- ・臨機応変に言動や行動が変化する。
- ・苦行して向上しようとするのでかなりの努力家
- ・休んでいられない。
- ・話し方は断定的で、威圧感を与える。
- ・反抗されると、すぐムキになる。

◆壬の陰陽

陰	陽
勝利急ぐ心 やられたらやり返せ 弱者とは対立しない 新しい改革で勝ちたい 強烈な信念	勝負に出る 先見性 臨機応変 威圧 戦略を練る 苦行 敵を作る 突撃型 人の喧嘩も請け負う

■キーワード 長所

戦略・勝負・知性・先見性・変化に富む・流動的・信賞必罰・臨機応変・威厳・修行好き・大きな音量・音楽的才能・威勢が良い・目下思い・父性的・根性・度胸・熱い人・度量が大きい・聡明

■キーワード 短所

敵を作りやすい・キレル・やられたらやり返せ・逃げ足が速い・威圧的・デリカシーがない・勝つために手段を選ばない・衝動的・攻撃的・逆らう・冷淡

◆壬が陽実・陽虚の状態

『陽の実』として現れやすいのが、とにかく勝負の土俵に上がりたがるところでしょう。争う相手がいなくても、自分の限界に勝負を挑むなど、苦しい修行に挑戦したがりません。勝ち急ぐ傾向があり、いつも神経がピリピリしているので、瞬時の判断が全てと考えがちです。失敗も多いですが、洞察力が磨かれます。勝ちグセがつくと、他人の喧嘩まで首を突っ込んで戦いに参戦したります。

これが『虚』になると、相手によって態度が変わるようになります。強そうな人にはベコベコし、弱そうな人には威圧的な態度になります。勝ち負けにこだわる割には、勝負を挑まれても、そらします。新しいことに挑戦できず、同じことのくり返しで不満をためます。

■壬の陽

虚（無気力）	実（過剰）
すぐ喧嘩を売る 先の先まで考えて準備 瞬時の判断力 瞬間で行動や考えが変わる 言い切る 威圧する 敵が多い いつでも戦闘態勢万全	売られた喧嘩も買わない 過去のことばかり言う 強そうな人にベコベコ 同じことばかりしている 新しいことに挑戦しない 人に合わせる

◆壬が陰実・陰虚の状態

『陰の実』になると、闘争本能がメラメラと燃えていて、強い向上心を満たすために、修行、苦行をやりすぎます。未来を見据え、新しい改革をしないと勝てないと思っており、のんびりと休日を通ぐすようなことはできません。心が休まるのは勝利を得た瞬間だけで十分で、自分を追い込んでいる方がかえって落ち着きます。

これが『虚』になると、闘争本能は、弱い人だけに向けられて、弱い者いじめのような形で現れます。自分を高めようという意識がなく、努力や修行を嫌います。変化を恐れ、未来や新しいことに無関心で、逃げることはばかり考えるようになります。

壬で苦勞を嫌がるとか、変化を嫌がるとか、決断ができないとか、先を見通すことをしないと、こういったことがあると壬が死んでいます。

■壬の陰

虚（無気力）	実（過剰）
弱者いじめ 向上心がない 負けるといつまでも恨む 新しいことに無関心 変化を嫌がる 陰険な仕返し 逃げてばかり	勝ちに行く 鍛えないとダメになる 勝つために先読みが必要 早くしないと負ける 改革したい 怠けると負けてしまう恐怖 仕返しは倍返し

◆ 癸

原書には、癸は、雨露の水、天然の水ですが、不及や干合に弱く、水源がなければすぐに枯れてしまいます、と書いてあります。これは水源がなければ枯れてしまうといっても、雨の水なので、水源がなければ枯れてしまうというのも変な話です。水の水源は庚、金がなければいけないと言うのです。

もし金行が必要だというなら、癸は情報収集が得意で知識を蓄えます。知識情報収集だけではなく、庚の損得を中心とした実行力も欲しい、そう理解し直すべきです。

*星平会海テキストからの引用

※**変幻自在な勝負師**

■性格

- ・完璧主義で、ミスのないように計画を立ててから行動する。
- ・ポーカーフフェイスで心の中を他人に見せない。
- ・自分が納得し、自分のやり方が見つかるまでは行動に移せない。
- ・負け戦でもあきらめない。
- ・自分が低く見られることを極端に嫌う。
- ・もったいぶる。もったいぶると自分の価値が上がると思っている。
- ・いつまでも気張って頑張り過ぎてしまう。

■キーワード 長所

意志強固・勉強・学問好き・豊富な知識・変幻自在・完璧主義・計画性・分析力・負けない・愛情深い・同情心・知的好奇心旺盛・平等意識・最後まであきらめない・ウィットに富む・情報収集家

◆癸の陰陽

陰	陽
学問好き 情報収集 完璧主義 計画性 分析力 ポーカーフフェイス 目上にも喧嘩を売る 負けない戦 八方を固める 最後には必ず勝つ 負けず嫌い 勝つまであきらめない 闘争心を隠す 平等意識 低く見られたくない 誰かと張り合っている	学問好き 情報収集 完璧主義 計画性 分析力 ポーカーフフェイス 目上にも喧嘩を売る 負けない戦 八方を固める 最後には必ず勝つ 負けず嫌い 勝つまであきらめない 闘争心を隠す 平等意識 低く見られたくない 誰かと張り合っている

■キーワード 短所

頑固・受け身的・他人に無関心・相手と距離を置く・経験不足・自己保身的・独断・孤立・ひねくれる・自己過信・閉鎖的・批判

◆癸が陽実・陽虚の状態

『陽の実』は、とにかくよく勉強します。知識欲が旺盛で、図書館に入り浸ったり、ネットでしらみつぶしに情報を調べたり、専門書を読みあさったりします。完全試合を望んでいるので、どこから攻められてもいいように八方位を固めるまでは、ポーカーフェイスで準備を悟られないように装います。準備が整ったら、どんな大組織でも大物でも、戦いを挑んでいきます。

■癸の陽

虚（無気力）	実（過剰）
保身のために知識を使う 調べようとしない 知的好奇心がない 完璧にしようとしない 計画したことを実行しない 目上に媚を売る	勉強しすぎ 調べ過ぎ 完璧主義 マイペース 失敗をしないように準備 あきらめない 目上でも喧嘩を売る

これが『虚』になると、浅い知識で屁理屈を言うようになります。完璧に仕上げるための努力をせずに、計画したことも実行になかなか移せません。自己保身のために知識を使い、目上には媚を売って、不戦勝で勝とうとします。

◆癸が陰実・陰虚の状態

『陰の実』は、闘争心を内に秘め、それを決して表に出さないように勝負を仕掛けてきます。癸の闘争本能に火がつくのは、特定のライバルが見つかった時です。その人に勝つために、すべてのエネルギーを使うようになります。しかし戦う準備が整うまでは何年でもそのライバル心を悟られないように、ひた隠しにします。壬は、誰が見てもすぐにケンカ売っているのとわかるのですが、癸の闘争心は、よく観察しないとわかりません。

■癸の陰

虚（無気力）	実（過剰）
人と張り合う気力がない すぐにあきらめる ひねくれた考え ハッター 人の気をひこうとする 臆病ですぐ逃げる	内に秘めた闘争心 勝つまであきらめない 人を平等に見る 自分だけは特別 必ず張り合う相手がいる 死んでも負けたくない

勝負の世界では人は平等だという意識から、地位や権力に立ち向かう勇氣を持っていますが、負けず嫌いで勝つまでしつこく、あきらめないのが、過労が祟ることが多いのも特徴です。

これが『虚』になると、人と張り合う氣力がなく、すぐにあきらめるようになります。中途半端な知識から、考え方がひねくれて、人と違うことで自分を印象付けようとしませんが、ただ対抗しているだけで深い意味もないので、言うだけで終わってしまいます。臆病で、不安材料ばかりを集めて、やがて何もできなくなっていくます。

癸で、情報収集しないとか、調べないとか、完璧を目指さないとか、あきらめてすぐに逃げるのは、癸が死んでいます。

壬、癸が命式にあると、必ずこういう要素があるはずですから、陰と陽、実と虚を問診で判断してください。

何度も言いますが、悩んでいる人はみんな『虚』です。『実』で悩んでいる人は相談に来ないです。実の人は、どんどん転換していきますから。

■ 通変星の象意

日本で一番で大きな流派を構えている、関西のある四柱推命の流派ですが、その理論をベースに、四柱推命の古典に書いてある内容を、もう一度解釈し直していきます。

つまらない『理』の通変星から早く卒業するための章です。

『気』の四柱推命は、コンピューターでは関与できません。使う人の脳を進化するしかないのです。さあ、あなたの脳を進化させて行きましょう。

◆ 比肩の象意

※通変星には、人の思考パターンや価値観などが現れています。

「あいつはよくわかっている」といった価値観の一致、不一致などは、この通変星によく現れています。

人は、他人を評価するとき、自分と同じ価値観の人は認めて、そうでない人は認めない傾向がありますが、通変星の違いを理解出来れば、そういった一方的な判断はしなくなります。

*甲と甲

『日干が弱い時には良い働きをします。』

必ず原書を見ると、日干が強いとか、弱いという解釈がしてあります。日干が強いというのは、例えば日干が甲の場合、地支に木があると、日干が強いと言います。地支に木がないのを日干が弱いと言います。

日干が強いのを身旺、日干が弱いのを身弱と言います。身旺が吉、身弱が凶、というのが古典的な見方です。

身弱の人は出世できないと決まっています。出世するのは身旺の人だけと決まっていますが、これはウソです。今の時代はそんなことありません。身弱でもいっぱい出世しています。身旺でもいっぱい破産しています。

例えば東京都知事の石原慎太郎さんなどは、極端な身弱ですが、成功しているでしょう。身弱だからといって凶、絶対にこんなことありません。まず原書を読んで、日干が強いから、弱いから、という文章が出てきたら、そこは無視します。

*石原慎太郎

1932年9月30日生まれ

壬申

己酉

甲午

日干が強すぎる時でも、水が不足した場合には、凶になると書いてあります。木は大樹だから、大樹には水があるだろう、雨が降らないと水不足で凶だということなのです。これは、甲をこんな風に大樹に変換した瞬間に、もうおかしくなっているのです。

例えば甲には、勇敢とか、言葉で思考するとか、真理を求めるといった性情があるのですが、その人間の性情を大樹に直したとき、狂ってしまったのです。大樹だから水があるだろう。そうすると四柱のどこかに、雨の癸がないと、凶作用が出るというのが古典なのです。これ、ウソです。

中国医学的に言いますと、水というのは腎です。精力、成長力です。水の成長力がないと、甲の思考や、勇敢さが発揮されにくい、活用されにくいです、というのならOKなのです。

ちなみに有名人でこの比肩を持つ人は、政治家の野田聖子さんやタレントの藤原紀香さんなどです。

*** 甲・・甲** (星平云海プロ版十干気学より)

- ・大樹が2つありますので森を形成しています。
- ・仲間や友人そして人の和を求めながら独立していく生き方。
- ・他人からの援助もうまく引き出すことができる比較的強烈な独立心。
- ・相手の話を聞きながら、自分の意見をうまく通すことができる能力。

*乙・乙

原書には、凶の作用しかありません。まったく吉の作用はありません。神経質で厄介事を発生させると書いてあります。なぜでしょうか？原書では、乙は、草花、つる草、雑草、こんなのがたくさんあつても、何もならないと書いてあるのです。これもウソです。

乙というのははもともと安定思考で、協調性があり、また、甲と同じ言葉による思考、知性があります。これが二つ並んでいるといいでしょうか？ 悪いでしょうか？。人との協調性を発揮するために、頭を使うようになるでしょう。安定を築きたために知恵を使うようになるでしょう。実際そうなのです。ところがそれを雑草とかつる草、草花とやった瞬間に、おかしなことになるのです。民主党の渡部恒三さんがこの比肩を持っています。敵を作らないように会津訛りを上手に使っているように見えます。党の調整役として適任でしょう。

*乙・乙 (星平云海プロ版十気学より)

- ・草花と草花が並んで雑草となっています。役に立たない。
- ・仲間や友人そして人の和を求めながら独立していく生き方。
- ・盲突進的な独立心があり、他の援助はおせっかいに思う暴走的独立心。
- ・強引で自分中心で、他人の意見は聞かない普通でない能力。

*丙・丙

冬生まれだと、暖かい太陽があるから吉、太陽が強すぎる場合には、短慮、頭を使わないとなるのです。これもウソです。丙を太陽とした瞬間にダメです。こういった自然現象に置き換えるのは、中国特有のごまかしなのです。丙を太陽と置き換えるのは、理です。偽りの理で書いてある原書です。

実際の気は、丙というのは素晴らしい集中力だといっているのです。腹にイチモツもないほど公明正大で、有名になりたがるという性質があります。それが二つ並んでいるので、有名になりたいがために集中力を発揮するようになります。夏に生まれても、集中力があって、短慮じゃない人もいっぱいいます。ただ集中力が倍増するので、ただでさえマニアックな丙の個性が強烈になります。シンガーソングライターの鬼束ちひろさんが、この比肩です。

*丙・丙（皇平会海プロ版十干気学より）

- ・ 太陽が天に2つある異常な風景です。
- ・ 仲間や友人そして人の和を求めながら独立していく生き方。
- ・ 盲突進的な独立心があり、他の援助はおせっかいに思う暴走的独立心。
- ・ 強引で自分中心で、他人の意見は聞かない普通でない能力。

*丁・丁

原書に何て書いてあるかというと、丁を理で解釈すると、人工の火ですね。人工の火だから、命式に甲という木材の材料があると燃えることができる、しかし甲がありすぎると爆発してよくありません、となるのです。これも丁を人工の火と変換した瞬間に、ミスっています。

丁は、とても義理人情に厚いです。人の世話をしたがる人が多いのです。頼りたいのです。善なるものを求めるのです。これが二つ並ぶと、義理人情で、いろいろな人の世話をして頼られたい、ということなのです。

これがエネルギーが少なく、『虚』の状態になると、体面ばかり気にして生きていく人生となるのです。義理人情というのは、裏を返せば他人の目を気にするということでしょう。人目を気にしながら、オドオド生きていくという人生になるのです。疑惑の銃弾の三浦和義や、自殺した尾崎豊さんがこの通変星です。

*丁・丁 (星平会海プロ版十気学より)

- ・火が盛んに燃えています。
- ・仲間や友人そして人の和を求めながら独立していく生き方。
- ・善悪の判断を行うことができる普通の独立心。
- ・相手の話を聞きながら、自分の意見をうまく通すことができる能力。

*戌・戌

原書を読むと、財があると吉になる。財というのは、壬・癸です。水を剋することができるので、財ができてお金が儲かると書いてあるのです。こんなことないです。実際に星平会海占いスクールの紅竜さんは、戌・壬・壬と、財が多いのですが、極端にお金持ちではないです。普通の生活です。

そうではなくて、戌というのは、もともと頑固で面の皮が厚い、面の皮が厚いというのは、社交性があつて、人を情で支配することができなのです。そして食べるのが大好きです。だから、戌・戌と並ぶと、頑固すぎるとか、他人を情で支配しすぎるとか、うまいもの食べ過ぎるとか、飲み過ぎるとか、というのならわかるのです。幻冬舎の見城徹さんがこの比肩を持っています。幻冬舎を立ち上げる前は角川の編集長をしていました。その編集長時代に築いた幅広い人脈に支えられて、幻冬舎を立ち上げることができたとも言われています。

*戌..戌 (星平会海プロ版十気学より)

・山と山が並んで山脈を形成しています。

・仲間や友人そして人の和を求めながら独立していく生き方。

・信頼、仁義を第一に重要視する普通の独立心。

・相手の話を聞きながら、自分の意見をうまく通すことができる能力。

*己・己

己の比肩は原書を読みますと、まったく役に立つことはありませんと書いてあります。誰かを頼りにしても裏切られる運命だと書いてあります。なぜかというのと、己は理で解釈すると、田園になります。田園が二つあつても役に立たないという理屈です。

もともと己というのは、とても情感的です。情感的というのはどういうことかというのと、愛されたいのです。戊は愛したいのです。つまりやきもちを焼きやすいのです。欠点が出るとしたら、私を愛してちょうだい、愛してもらえるためにはなんでもする、といったヤキモチの度が過ぎたときでしょう。横綱の白鵬がこの比肩です。多くのファンに愛される立派な横綱ですが、引退したら己の育成能力を発揮して、親方としても活躍してくれるかもしれません。

*己・己 (星平会海プロ版十気学より)

- ・田園の土が並んでいます。
- ・仲間や友人そして人の和を求めながら独立していく生き方。
- ・愛情豊かな人間味がある普通の独立心。
- ・相手の話を聞きながら、自分の意見をうまく通すことができる能力。

*庚・庚

庚は原書には、命中に丁火があると非常にいいと書いてあり、甲のような木があるといいと書いてあります。

甲（偏財）

丁（正官）

庚

なぜかというと、正官があるので目上の人から助けられる、そして偏財があるのでお金が持てる、と書いてあるのです。

これは、庚を金属、丁を人工の火、甲を大樹と理屈で変換するからそうなるのであって、庚というのはもともと合理的なのです。なので、意外と冷たい人が多いのです。欠点が出るとしたら、情感に乏しくて冷たい人、やりすぎた行動、という表現ならわかるのです。石原軍団の渡哲也さんがこの比肩を持っています。石原軍団は、渡哲也さんの合理的な計算力と行動力によって運営されているのかもしれない。

*庚・庚（星平玄海プロ版十干気学より）

- ・金属同士がガチャガチャと傷つけあっています。
- ・仲間や友人そして人の和を求めながら独立していく生き方ですが、細かい配慮がない。
- ・積極的に邪魔ものを排除し、周囲の助けを拒む一方的な強烈な独立心。
- ・相手の意見を聞かず、自分の意見だけを強引に通す力。

*辛・辛

傷官生財格となつて、全て揃っている時に良い働きをします、と書いてあります。これは、

壬（傷官）

辛

の並びで、金水傷官といい、宝石の辛の横に、川の流れの壬があつて、宝石をきれいに洗い流すのでいい傷官だという意味です。辛を宝石、壬を小川とやつた瞬間に間違えます。

辛というのは、もともと辛抱の辛です。辛抱して努力する人なのです。こだわりもあるし、ナイーブなのです。だから技術を求めてコツコツ努力するのです。欠点が出るとしたら、細かいことにこだわって空想的すぎるとか、こだわりすぎて物事が前に進まない、そういうった形で出ることもあります。視覚障害をもつピアニスト、辻井伸行さんがこの比肩を持っています。音楽というアートの道を極める比肩といえるでしょう。

*辛..辛（星平会海プロ版十干気学より）

- ・ 宝石と宝石が並んでいます。
- ・ 仲間や友人そして人の和を求めながら独立していく生き方。
- ・ 道を極める気質が根底にある普通の独立心。
- ・ 相手の話を聞きながら、自分の意見をうまく通すことができる能力。

*壬・壬

壬は良い比肩だと書いてあります。ただし、秋と冬に壬が並ぶと、水が多くなつて破壊的になると書いてあります。これも季節を考慮するとそうなるということなのですが、夏に生まれた場合、水が欲しくなるのでいい比肩だと、ただし冬は寒いので水はいらないということですね。こんな人を物質化してしまう古典的な理屈は捨ててください。

壬というのは、戦いが大好きなのです。勝負に勝ちにいきます。そのために先を読みます。先を読んで勝ちにいく人ではないのです。欠点が出るとしたら、先を読みすぎる、勝ち急ぎすぎる、戦略を練りすぎて失敗というのならわかります。金利ゼロを売りに行っているジャパネットたかたの高田社長がこの比肩を持っています。通販業界でトップに君臨するために、自社スタジオまで作ったのは、次世代への投資という意味があるそうです。

*壬・壬 (星平会海プロ版十干気字より)

- ・大河のダブルで洪水です。
- ・知的・戦略的仲間ではあるが友人や人の和を求めながら独立していく生き方。
- ・知的戦いを好む勝負師的な普通の独立心。
- ・相手の話を聞きながら、自分の意見をうまく通すことができる能力。

*癸・癸

雨と雨、と解釈してしまうと、雨が雨に頼っているから裏切られる。友人知人にうまい話を持ってこられて、ひどい目にあうと書いてあります。

もともと癸というのは、知識の吸収が早いのです。本を読んだりネットで情報を集めてくるのが大得意なのです。欠点が出るとすると、それを経験しないことなのです。経験しないで知識だけが増えていく頭でつかちな人、調べれば調べるほど、うまくやろうとなってしまうので、情報収集しすぎて決断ができない、そうなるのです。政治家の河野太郎さんがこの比肩を持っています。癸も壬と同じように強い闘争本能を秘めています。負けない戦い方をするので勝負に出るのに時間がかかることがよくあります。震災の直後に出版した反原発を訴える著書は、15年間に及ぶ「原子力マフィア」との闘いの全てを記録しているそうです。

*癸・癸 (星平会海プロ版十気学より)

- ・雲が厚く空に立ち込め大雨の荒天模様です。
- ・仲間や友人そして人の和を求めながら独立していく生き方。
- ・知的な普通の独立心があり、頑固に自分の意見を持ちつづける。
- ・相手の話を聞きながら、自分の意見をうまく通すことができる能力。

◆劫財の象意

*甲・乙

この劫財の場合、吉の作用を起こすことはまったくありません。とにかく他人から迷惑をかけられます。このように書いてありますが、これも、甲は大樹で、その横につる草があるので、大樹の甲は、乙のつる草に巻きつかれて鬱陶しいとなります。ジャマなものが横にあるから凶作用だということです。これも、甲を大樹、乙をつる草と、自然界のものに転換してしまったので、変になるのです。

実際は、甲は思考です。頭脳です。権力です。頭脳で権力を求めていく性情があります。乙は協調性です。甲の思考に、乙の協調性に加わり、権力や地位を得るために、人の和を大切にすることで、統率力のあるリーダーとなります。

*甲・乙（星平云海プロ版、十干気学より）

- ・大樹にとつて草花は何の役にも立ちません。
- ・人よりも優れた自己主張、闘争力で独立独歩を求めていく生き方。
- ・プライドが少々強い普通の独立心。
- ・経済感覚はさほどないが、目的のために精根尽き果てるまで熱中する能力。↓結果的には、損を出しやすい傾向にある。

*乙・甲

逆のパターン、乙甲の場合は、絶対の信頼を得ることのできる組み合わせだと、原書には書いてあります。乙のつる草が、隣の甲に巻き付いて、天高く昇っていくことができるからいいのだという解釈です。ただし、乙が強すぎる場合には水がなくなり、悪さをするという理屈です。草花がたくさん生えると、大地の水を吸い尽くして、甲が悪さをするようになります。

逆に、命式中に水がたくさんある場合、

癸（偏印）

甲（劫財）

乙

とした場合、乙も甲も元気になる。元気になってさらに年運とか大運に木運が来てしまうと、劫財が強すぎて離婚、破産があると解釈してあります。とんでもない解釈ですが、これも人間の性情を自然現象に直したかための間違いです。

*乙・甲（星平会海プロ版、十干気学より）

・つる草が大樹に寄り添って高く伸びていく良い状態。

・人よりも優れた自己主張、闘争力で独立独歩を求めていく生き方。

・他人からの援助をうまく引き出せるやさしい独立心。

・経済感覚はさほどないが、目的のために精根尽き果てるまで熱中する能力。↓結果的には、損を出しやすい傾向にある。

もともと甲とか乙というのは、今から3000年ぐらい前の中国で、その人の性格がパリティとしているから何か大木的な、なよつとして草花みたいだなと連想して、甲や乙と名前をつけたのですが、これは人の性格が先にあつてのことなのです。しかし今は、乙は草花、じゃあ草花の横に大樹があつたらどうなると、理屈が先に来ているのでおかしくなるのです。

そうではなく、同様に乙は協調性、甲は思考です。協調性に思考力やシミュレーション能力が加わって、スムーズに権力を得ることができるとなります。欠点が出る場合は、乙の迷い、人との和合性を重視するあまりに決断ができない、思考しすぎ、頭だけで権力を狙いに行くなどとなります。

■自然現象十干

癸	壬	辛	庚	己	戊	丁	丙	乙	甲								
霧	雨、露、湖、	大河、海、	宝石、ハサミ、	柔金、貴金属、	鉄板、カマ	硬い金属、斧、	田園、泥、	畑の土、	堤防、炉	山、岩石、	焚き火、暖炉	人工の火、	太陽	雑草、	草花、つる草、	マキ、棍棒	大樹、大木、

これが生きている人間を診断する技術なのでしょうか？

*丙・丁

丙は太陽、丁は人工の火、

庚（偏財）

丁（劫財）

丙

と庚があるときには、通変星は火剋金で財となるので、お金が儲かるという解釈です。さらに夏に生まれた人で、丙、丁があると、暑すぎて破産すると書いてあるのです。

実際は、丙というのは能動的で、カリスマ性があります。集中力があります。丁は正義を求めます、人の世話を焼きたがりです。丙の集中力やカリスマ性に丁の正義感が加わります。元モデルの富永愛さんや、サッカーの香川真司さんがこの劫財を持っています。

* 丙・丁（星平会海プロ版、十干気学より）

・太陽と人工の火が隣り合っています。無理がある。

・人よりも優れた自己主張、闘争力で独立独歩を求めていく生き方。

・公明盛大だが少々強引さがある普通の独立心。

・経済感覚はさほどないが、目的のために精根尽き果てるまで熱中する能力。

↓結果的には、損を出しやすい傾向にある。

*丁・丙

これも寒い冬に生まれて、命式中に水があると、初めて吉になると書いてあります。出世もします。丁が強すぎると、人工の火に太陽で暑苦しくなつて、大火となつて大火事になるとあります。

実際はこんなことありません。丁は正義を求めて情熱的な人です。そして丙の作用で能動的に動けるのだから、積極的に一つのこと集中して成し遂げることができます。もし水が旺じれば、水は腎なので、腎は精気、精気は成長力、正義と能動性とミックスされて先見性も備わってきます。熱い火ばかりだから、水が必要だというような解釈はないです。民主党の海江田万里さんがこの劫財です。

*丁・丙 (星平会海プロ版、十干気学より)

・火と太陽が並んでいます。無理がある状態。

・人よりも優れた自己主張、闘争力で独立独歩を求めていく生き方。

・情熱的な心情が根本にある普通の独立心。

・経済感覚はさほどないが、目的のために精根尽き果てるまで熱中する能力。

↓結果的には、損を出しやすい傾向にある。

*戊・己

原書によると、まったく役に立たず凶作用、万物が枯れ果ててしまう。人間界でこんなことありえないでしょう。万物というのは、石とか岩とかそういうのを言うのです。

戊というのは、社交的で、情で人を支配します。己も愛情がほしい、快楽を求めるので、社交性があり、情に厚くて、仲間とともに楽しむことを喜びとします。情のつながりが最優先になつてきます。水泳の北島康介、東京副都知事の猪瀬さんがこの劫財です。

*戊・己 (星平会海プロ版 十干気学より)

・山の岩石と田園湿土が混ざっています。

・人よりも優れた自己主張、闘争力で独立独歩を求めていく生き方。

・信用、信頼を第一義に考える要領主義の普通の独立心。

・経済感覚はさほどないが、目的のために精根尽き果てるまで熱中する能力。

↓結果的には、損を出しやすい傾向にある。

*己・戊

原書には全季節を通して吉の作用をする。己が田園の土、戊は岩石、岩石の土が己の田園の土を助けるから吉。ただし、この田園の土が強すぎると、自らの意志、または友人知人からのすすめで、破滅的に損害があると書いてあります。自分の横にある戊を、友人知人とやっちゃったからこんな風になるのです。本人の命式なので、全て本人のことです。

そうじゃなくて、欠点を言うのであれば、己は愛されたい、これはヒステリーになりやすい、感情的になりやすいのです。ヒステリーになる人というのは劣等感があります。劣等感のある人というのは、だいたい傲慢なのです。裏返しですから。そういう性情を持ちながら、戊の社交性で、情で人を支配しようとするので、人が離れていって孤独になるという解釈ならOKなのです。社民党の福島みずほさんがこの劫財です。

*己・戊 (星平益海プロ版、十干気学より)

・田園の土に山岳の乾燥した土が混ざっています。

・人よりも優れた自己主張、闘争力で独立独歩を求めていく生き方。

・他人からの援助をうまく引き出せる愛情あふれる独立心。

・経済感覚はさほどないが、目的のために精根尽き果てるまで熱中する能力。

↓結果的には、損を出しやすい傾向にある。

*庚・辛

まったく助けにならず、鍛錬できない。二重人格とも書いてあります。庚はナタのような金属、辛はガラスとか貴金属です。ガラスとか貴金属は、鉄板の鉄には役に立たないので、それを人に当てはめているのです。

丁（正官）

辛（劫財）

庚

この横に丁があると、丁の人工の火で鍛錬されていいとか言いますが、これも自然界に転換したがゆえの間違いの解釈です。

もともと庚というのは、冷静沈着で合理的な行動をする人でしょう。利益を求めて行動できるタイプなのです。時代の流れにも敏感です。辛は辛抱の辛、道を極めます。民主党の樽床伸二さんがこの劫財です。

悪いことが出るのであれば、『実』より『虚』です。これが『虚』

*庚・辛（星平金海プロ版、十干気学より）

・金属が鏡や宝石と接触し傷つけています。

・人よりも優れた自己主張、闘争力で独立独歩を求めますが、他人を気にしない。

・剛気で少々荒っぽい心情をもった普通の独立心。

・経済感覚はさほどないが、目的のために精根尽き果てるまで熱中する能力。

↓結果的には、損を出しやすい傾向にある。

になった場合、冷めた人生観、どうせオレなんかダメなんだ、それ儲かるの、儲からないならやりません、辛抱できません、という人になります。

*辛・庚

原書を読みますと、命式に火行があるときは、最も喜ぶ劫財だと書いてあります。困難に耐えて辛なり。辛が強い場合は親分氣質なので損を引き受けると書いてありますが、親分氣質だから損を引き受けるといふことはありません。

今の世の中の損を引き受けるとは、どういうことでしょう。人目を気にして、世間体を大事にしていると、損を引き受けることになります。例えば親が子供に、金貸して欲しいと言ってきた場合、もしそれをしなかったとしたら、世間からは、長男なのに、

*辛・庚 (星平会海アロ版、十干気学より)

- ・宝石と鋼鉄がガチャガシャとぶつかっています。
- ・人よりも優れた自己主張、闘争力で独立独歩を求めていく生き方。
- ・盲突進的で他人からの援助をおせっかいと思う普通でない独立心。

長女なのに、親に何もしてあげていない、というように非難されます。世間体を気にするから、損を引き受けるとなります。親分気質だから損を受けるなんて、今の時代ではありません。

辛の人はもともと辛抱強いです。庚はやる気があります。辛抱強くて、やる気があるので、実行力と持久力を両方備え持つていることとなります。スケートの荒川静香さんや、歌手の徳永英明さんにこの劫財があります。ただし、『虚』の場合は、やる気がない、人目を気にするととなります。

*壬・癸

原書には、まったく助けにならず裏切られます、と書いてあります。さらに、壬が強い場合には大洪水で破産。これは壬が川の水、

・経済感覚はさほどないが、目的のために精根尽き果てるまで熱中する能力。
↓結果的には、損を出しやすい傾向にある。

*壬・癸

(『星平会海』ロ版、十干気学より)

・河にさらに雨水が注ぎ込み洪水状態。
・人よりも優れた自己主張、闘争力で独立独歩を求めていく生き方。

癸が雨、川に雨が振って氾濫しているという解釈なのです。これも人の性情を自然現象に置き換えたがゆえです。

もともと壬は闘争心があります。その横の癸は、知識欲が旺盛で、情報収集が得意です。戦うために情報収集するということで、壬は戦います。戦う人というのは、人から裏切られたとは言いません。洪水を起こして破るとありますが、闘争するのだからケンカして、負けることもあります。だからどうしたの？負ければ悔しくてもっと頑張るだけでしょう。どうやって戦うかといえば、頭を使って、情報を使つてとなります。元横浜市長の中田宏さんがこの劫財を持っています。

-
- ・他人からの援助をうまく引き出せる知的勝負師的な独立心。
 - ・経済感覚はさほどないが、目的のために精根尽き果てるまで熱中する能力。
 - ↓結果的には、損を出しやすい傾向にある。

*癸・壬

身弱の時は、大河の水の助けを得て勇気がでる、と書いてあります。雨の水が少ないから、川の水でなんとかなるという話ですが、雨の水が少ない時は川の水も少ないでしょう。

そうじゃなくて、やっぱり癸というのは、調べ物が大好きなのです。小学生の子供でもインターネットを使いこなして、そこから情報を集めて宿題をしている子もいます。そういうのが癸なのです。情報収集では、誰にも負けないように頑張るし、得た情報をフルに使って、壬の闘争心を燃やします。知で勝ちたがりです。お笑いの明石家さんまさんがこの劫財を持っています。ものすごい勉強家として知られています。

*癸・壬 (星平玄海プロ版、十干気学より)

- ・雨が河に降り水の勢いが強くなっています。
- ・人よりも優れた自己主張、闘争力で独立独歩を求めていく生き方。
- ・他人の言うことをあまり聞かない自分が強い普通の独立心。
- ・経済感覚はさほどないが、目的のために精根尽き果てるまで熱中する能力。
- ↓結果的には、損を出しやすい傾向にある。

◆食神の象意

*甲・丙

原書には、冬に生まれた人は、甲の大樹が凍りついて寒いので丙が大変よい、すべての星を本来の作用に戻し、日干を助け、特に目上からの引き立てや援助を受けると書いてあります。これは日干を我で、月干を目上と見て、大樹に丙の太陽が降り注ぐという、印綬のような作用としてるので目上から好かれると古典では言っているのです。しかし、甲というのはもともとプライドの高い性情ですから、あまり目上から可愛がられるというタイプではないです。

甲というのは、勇敢です。深く物事を考えます。そして丙は能動的で、集中します。深く深く物事を考えるときに丙の集中力が加勢してきます。考え事をしたら時間を忘れて没頭してしまう

***甲・丙**（星平会海プロ版、十干気学より）

- ・大樹に太陽の恵みが降り注いでいます。
- ・人より優れた表現力を武器として名声を求めていく生き方。
- ・狡猾な知恵を使い、プレゼンテーションの素晴らしさで名声を求めらる。
- ・聡明で自分を良く見せる自己表現能力。明朗博学。
- ・礼儀を重んじ、恥を知り明朗、淡泊、節度ある行動能力。

ようなタイプです。甲は指導力がありリーダーとして人の上に立つことができず、その場合、甲のシミュレーション能力が大いに発揮されなければなりません。そんなとき、丙の緻密さ、粘り強さ、探究心、そして何よりもカリスマ性が甲のリーダーシップをサポートします。全日本サッカーの元監督の岡田監督がこの食神を持っています。

*乙・丁

冬に生まれた人に限り、吉の作用をすると書いてあります。寒い冬の乙の草花にとつては、薪の火があれば良いということです。冬以外にこの食神があると、日干を枯れさせてしまうので凶になる、丁が乙の草花を、燃えカスにしてしまうということです。

*乙・丁（星平会海プロ版 十干気学より）

- ・ 雑草が燃えて暗闇を照らす明かりとなります。
- ・ 人より優れた表現力を武器として名声を求めていく生き方。
- ・ 一生懸命努力し、奉仕能力がある。

こんなことはありません。乙は協調性、コミュニケーション能力です。丁は人の世話をする、善なる心を持つのですから、話上手でクセがなく、世の中のために善かれと思うことを、みんなで作ろうとします。非常に世話焼きタイプなので、周囲の人達に頼られて、リーダー格になっている人が多くいます。乙は協調性があり、みんなの意見に合わせる事ができ、常識人です。そこに丁の頑固なまでの正義感が影響してくるので、みんなの意見を丁の正義感の方向へ取りまとめしていくことができます。

*丙・戊

古典ではまったく吉の作用をすることはなく、大火になるので先見の明を失い、自ら不運を招きますと書いてあります。太陽の横に岩石があっても吉の作用はないということです。

るが、基本的には大人しい。

・努力するという能力が人生の根底にある。明朝博学。

・礼儀を重んじ、恥を知り明朝、淡泊、節度ある行動能力。

*丙・戊 (星平会海プロ版、十干気学より)

・太陽が山の上から照っている良い状態。

丙は緻密で、集中力があり能動的行動します。戊は社交上手で、情で人を支配するのが上手です。人とのつながりを大切にし、人脈の拡大とともに名声を得ていくような面が特徴です。ただし、丙は人付き合いは上手ではありませんので、戊の人情や面倒見の良さからできた人脈の中で、丙のカリスマ性を発揮していくようになりません。丙は戊のように面の皮は厚くないので、情を通わせるとしたら、その中から親密な関係を作れる人を、一人か二人選ぶような形になります。

ステイブ・ジョブズがこの食神を持っています。ジョブズは、要求する水準を満たさない者に対しては罵声を浴びせたり、その場で即クビにすることも知られていたようですが、その理由は、部下にプライドと職を懸けさせなければ最高の仕事をしないからだということです。発案者が信念を持っていない意見やアイデアは無視すると決めていたようで、ここには丙の細密さと戊の信用を重んじる心が作用しているようです。

・人より優れた表現力を武器として名声を求めていく生き方。

・実利を考えず、社会、組織、見栄のため奉仕優先で行動する能力。

・計算には疎く、戦略を練るのが下手なため行動する割に実利がない。

・礼儀を重んじ、恥を知り明朗、淡泊、行動能力はあるが停滞気味。

*丁・己

古典では、まったく吉の作用がなくて、埋火となつてしまいません、となつていきます。これも丁の横に田んぼの土があるので、丁の火が消えてしまつて世の中に出られません、という解釈です。

丁は義理人情に厚く世話好きです。己も人が大好きで、情感豊かで育成能力があります。親切で人と情でつながり、育てることに楽しみを見出す人生です。人当たりがよく、飲んだり食べたり遊んだり、仲間で楽しむ時間をとても大切にします。相手に何かをしてあげて、今度は自分してもらつてといった、持ちつ持たれつの関係をとても好み、自分は自分、あなたはあなたといったさっぱりした人や、ドライな付き合いを寂しがります。困っている人には、すぐでも手を差し伸べようとする母性的な人になります。黒澤明監督がこの食神を持っています。

*丁・己（星平太論学プロ版、十干気学より）

・火が仮の炉の中で調整され調子が良くなります。

・人より優れた表現力を武器として名声を求めていく生き方。

・狡猾な知恵を使い、プレゼンテーションの素晴らしさで名声を求めらる。

・最小の努力で最大の効果を狙う要領良い自己表現能力があり、明朗博学。

・礼儀を重んじ、恥を知り明朗、淡泊、節度ある行動能力。

*戊・庚

原書には、特に夏生まれは土が焼けているので、横に庚があると焼けが収まり、戊は本来の作用を取り戻し、社会に適合する、というわけのわからないことが書いてあります。これは、丁があると、ということ、丁があることと火剋金で庚をやっつけます。金をやっつけて、戊と庚の並びを柔らかいものになりますということなのです。しかし一方で、火がないときはどうなるかというと、庚はナタ、斧で、戊を壊して破滅に導きますと書いてあります。

戊は社交性です。面の皮が厚いです。庚は冷静で利益を優先的に考える合理的な行動ができます。情だけでつながる人脈に、庚のソロバンをはじく合理性が加わり、情にほだされて冷静な判断が鈍ってしまう戊の欠点を、庚が補います。とても計算高い面と情に厚い面が融合しています。ヒラリー・クリントンがこの食神を持っています。

*戊・庚 (星平会編プロ版、十干気学より)

- ・山の岩石から鉱物・金属が生成されています。
- ・人より優れた表現力を武器として名声を求めていく生き方。
- ・短期的な利益にはこだわらず、長期的にじっくりと努力する能力。
- ・比較的計算高く、要領良く努力し、信頼と名声を勝ち取る能力。
- ・礼儀を重んじ、恥を知り明朗、淡泊、節度ある行動能力。

*己・辛

古典には、辛の貴金属が、どろどろの田んぼの土で汚されて、まったく役に立たないどころか、悪さをする人が周りにいると書いてあるのです。

己というのは、たしかに感情的です。快樂や楽しいことを追います。しかし、辛があるので辛抱、我慢、努力ができるのです。

ところが、『実』の状態はこうなるのですが、『虚』の状態になると、エネルギーがとても低くなります。『実』の場合は、喜怒哀楽が、良かれ悪かれあるのです。しかし、『虚』の状態になると、表に発散されていた喜怒哀楽がウチ側にこもってウジウジしたのです。「どうせオレはダメなんだ」という劣等感になって、本来の十干の持つ特徴が発動しなくなります。辛は本来、とても忍耐強いのに、それができなくなると、感情的に文句ばかり言うようになります。

*己・辛 (星平会海プロ版、十干気学より)

・田園の土に美しい鏡・宝石が汚されます。

・人より優れた表現力を武器として名声を求めていきますが、時に大失敗する。

・実利を考えず、社会、組織、見栄への奉仕優先で行動する能力。

・計算には案外疎く、戦略なしで突進するタイプ。

・礼儀を重んじ、恥を知り明朗、淡泊、節度ある行動能力。

* 庚・壬

古典には、本来は庚というのは、火がないとダメですと書いてあります。庚は強いので、丁の火でもって錬金しないといけない、ところが、壬がその丁を消してしまうので、いい働きはしないと書いてあります。

庚は合理的に利益を求めて行動する星です。壬は、先を読んで勝ち星をいち早く手にして、先行逃げ切り型です。壬のスピード感のある戦略的思考が、庚の抜群の行動力と融合して、勝って利益を得るために、ムダのない合理的な最短の道を探し、実行する人生となります。この人のスピードについていくのは大変です。

* 庚・壬 (星平会海プロ版、十干気学より)

- ・金属が冷えて水を生じさせます。
- ・人より優れた表現力を武器として名声を求めていく生き方。
- ・まず計算し、要領良く行動する鋭敏な能力で名声を求める。
- ・他人よりも頭脳が鋭く、鋭敏でそれを武器に成功していくタイプ。
- ・礼儀を重んじ、恥を知り明朗
淡泊、であるが活発な活動能力。

*辛・癸

原書には、あまり役に立たない並び、ガラスの横に雨があつても役には立たないと書いてあります。唯一、財を守るときだけ役に立つということですが、財というのは、金剋木で、木が財になります。この木を、癸は生じるので、木は癸に守られているという事です。

実際、辛は、求道者、道を極めるといのが特徴です。どうやって極めるかというと、癸の知識、学問、情報を使ってとなります。また、癸には、特定のライバルが必ずいます。そのライバルを負かすために、あらゆる情報を仕入れてきますが、そのライバルは実在の人物とは限らない場合があります。歴史上の人物であったり架空の人物であったりしますが、張り合うことによって、辛の求道は表現されます。そのライバルは、アート・芸術の世界にいることが多くあります。

*辛・癸 (星平会海プロ版、十干気学より)

- ・宝石が雨水に濡れています。
- ・人より優れた表現力を武器として名声を求めていく生き方。
- ・ひたむきな努力をする能力があるが、結果はなかなかでないタイプ。
- ・他人よりも頭脳は鋭くそれを武器にするが、名声は手に入れない。
- ・礼儀を重んじ、恥を知り明朗、淡泊、節度ある行動能力。

*壬・甲

原書には良い並びと書いてありますが、その意味は、大河の水を調整する意味で、大樹の根っこがあるからいいのだというのです。ところがほかの原書を読むと、木の根っこが、大河の水によって腐るので、良くない並びと書いてあるものもあります。もしくは洪水で木が浮いて、浮木となって良くないと書いてあるものもあります。

壬は勝ちにいく星です。どうやって?となると、甲の深い思考、頭を使って勝ちに行くのです。壬は勝負師の星ですが、勝ち急ぐという欠点を持っています。そのため、よく考えずに力で押し切ってしまうおとしますので、その壬の勢いを、甲の思考がコントロールしますので、勝負をかけたときは、かなり勝ちパターンのシミュレーションができていることになります。急ぐよりも確実に勝ちに行くタイプです。

*壬・甲 (星平会海プロ版、十干気学より)

- ・河の水が樹の根を腐らせてしまいます。
- ・人より優れた表現力を武器として名声を求めていく生き方。
- ・実利を考えず、社会、組織、見栄への奉仕優先で行動する能力。
- ・努力するが、努力が無駄になってしまうこともある多労型。
- ・礼儀を重んじ、恥を知り明朗、淡泊、節度ある行動能力。

*癸・乙

原書には、何も役に立たない関係だと書いてあります。雨の横に草花があつても、雨には何の役にも立たないということなのです。

癸は、雨じゃなくて情報収集です。知識を集めるのが大得意です。その情報収集手段として、人とのコミュニケーション能力を利用しますし、豊富な知識力によってコミュニケーション能力が高まるといった効果があります。たくさんの人とわいわい楽しく話しをしていても、冷静な癸は、人を観察して、知識の蓄えを怠りません。

※悪い並びというのは本来はありません。今、十千×十千の

100パターンの組み合わせをやっていますが、古典にはその中の90%は悪いと書いてあります。読んでいてウンザリしてしま

*癸・乙 (星平会海プロ版、十千気学より)

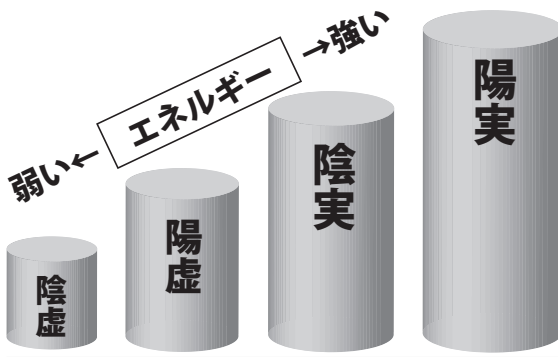
- ・雨が草花に降っている恵みの状態。
- ・人より優れた表現力を武器として名声を求めていく生き方。
- ・社会に奉仕したいという心情から努力しようとする姿勢がある。
- ・計算高く、努力する能力はあるが、実際の行動は要領が良くない。
- ・礼儀を重んじ、恥を知り明朗
淡泊、節度ある行動能力。

います。

大切なのは、いい並び、悪い並び、といった並びそのものではなく、**通変星が『実』となって、しっかりと発動しているかどうか**なのです。どんな人も、良かれ悪かれ、その星を使って生きていくのです。しかし『虚』の人は、その星がなんであつても、元気がありません。その星が病気の状態で出るのです。

◆陰陽実虚の順序

これで食神を終わりますが、あくまでも『実と虚』を見るのが大切です。その人は『実』なのか、『虚』なのか、そしてその人の星の陽の部分が出ているのか、陰の部分が出ているのか、ひ



とつの十干を考えるとときも、『陰陽・実虚』の4つのパターンを頭にいれて、その人を見るようにしてください。

一番元気がいいのは、『実で陽』の状態です。エネルギーが充実していて、行き過ぎたり、やりすぎたりする面はありますが、特徴がよく発動しています。

次にいいのが、『実で陰』。エネルギーが充実していて、陰の方でよく発揮されています。

次が『虚で陽』。エネルギーが弱々しいですが、明るさがあります。

一番よくないのが『虚で陰』です。エネルギーが死んでいて、短所が出て病気になっています。

この四通りがあります。十干ですから、四十通りの十干があるわけです。通変星というのは十干と十干の掛け算ですから、1600通りになるわけです。それをすべて説明はしませんが、この考え方を頭に入れておけば、1600通りの通変星が、瞬時に判断できるということです。

※表に現れているものは、単独では存在し得ません。背景には必ず隠れた眼に見えないものがあります。それが表に現れたものに影響を与えています。陰と陽の原理です。

◆傷官の象意

*甲・丁

原書では、目上の引き立てを受けるとなっています。水が不足した場合は凶作用がおきて、日干を傷つけ剋します、と書いてあります。この意味は、大樹の甲が薪となつて火が起きるのですが、燃えつきてしまう前に、癸や壬があると火を調整して消してくれるので、甲が生きることができるといった理屈です。別な原書によると、「木火通命」と言つて非常に頭のいい命式ということもあります。

『理氣』の『氣』の部分で説明すると、甲は勇敢で深く物事を考える思考タイプです。そこに丁の善なるものや、情熱を求めていく『氣』が並ぶので、善なる行いをするために、よく考えて勇敢に行動するとなります。

*甲・丁（星平会海プロ版 十干気学より）
・木がメラメラと燃え暗闇を照らします。

・人よりも優れた鋭敏な感覚と表現力で名声名誉を求めていく生き方。

・とにかく一生懸命努力し、社会や組織に奉仕する能力。

・プライドが少々強いため、努力を認めて欲しいという結果の名誉心。

・忠告！部下に仕事を任すことができなければ部下は絶対育たない。

部下管理Ⅱ長所管理すなわちいい面だけを生かして使え。

*乙・丙

古典的には、草花の横に太陽があるので、太陽の恩恵を受けるいい命式だと書いてあります。

理気の気で説明すると、乙は組織の中での調和、協調性を大切にコミュニケーションをとります。丙は緻密で集中力があり、名声を求めます。この2つが組み合わさると、組織の中のムリのない出世となります。また乙の会話力に、丙のマニアックさが加わるので、専門的な話題になればなるほど、乙のコミュニケーション欲求が高まってきます。特に、緻密で細かいところまで熟知している専門知識のある人のことをとても尊敬します。作家の松本清張がこの傷官を持っています。丙の細かさが小説に現れています。

*乙・丙（星平空海プロ版、十干気学より）

- ・草花に太陽の恵みが振り注ぐ良い状態。
- ・人よりも優れた鋭敏な感覚と表現力で名声名誉を求めていく生き方。
- ・狡猾な知恵を使い、表現力のうまさで自分をプレゼンテーションする。
- ・要領良く自分を良く見せる能力。基本的な心情ははやさしい。
- ・忠告！部下に仕事を任すことができなければ部下は絶対育たない。
- ・部下管理Ⅱ長所管理すなわちいい面だけを生かして使え。

*丙・己

この並びは、いろいろな現象、特徴を表し、大火となって火が強すぎてしまふ、とわけのわからないことが書いてあります。別な原書では、丙の太陽が、己の大地を照らすのでいい並びだと書いてあります。

丙というのは能動的で、集中します。何に集中するのかと言えば己です。己の快樂、楽しみ、情感を求めて能動的に動くということです。また丙は名声を求めるところからカリスマ性の素養を持つ人が多くいます。そのカリスマ性を發揮するために、己の情や育成能力が手段として使われ、愛情を持って支えてくれる支援者を多く持てるようになります。インドのサイババがこの傷官を持っていました。ただし、丙はえこ鬣肩ヒイキの星でもあるので、感情でえこ鬣肩ヒイキをしてしまった場合、フアンの偏りは否めません。

*丙・己（皇平云海プロ版、十干気学より）

- ・ 太陽が田園の上から照っている良い状態。
- ・ 人よりも優れた鋭敏な感覚と表現力で名声名誉を求めていく生き方。
- ・ 根気良く社会や組織に対し自分を表現、努力する能力。
- ・ 戦略を練る方ではあるが、基本は持続力と努力する能力。
- ・ 忠告！ 部下に仕事を任すことができないれば部下は絶対育たない。
- ・ 部下管理＝長所管理すなわちいい面だけを生かして使え。

*丁・戊

人工の火が岩石に邪魔されると書いてあるのもあれば、『有火有炉』^{ユッカユッコ}といつて、丁の火を守る炉の役割を戊がするので、とてもいいと書いてあるのもあります。

理論が好きなのは、どちらが正しいのか聞いてきますが、もうそんなレベルの質問はしない段階に、あなたは進化しているはずです。

丁は、善なるものを求め、情熱的です。戊は義理人情の世界で生きる人で、人を支配して社交性を発揮します。どちらも義理人情にあつく、社交的で人の世話を焼きたがります。戊は頑固ですが、個性は強くありません。だから人と人との緩衝材のような役割が出来るのですが、そういった戊の能力を使いながら、丁の善なる夢を実現するための人脈づくりが、自然に行えるようになります。政治家の亀井静香さんがこの傷官を持っています。

*丁・戊（皇平云海プロ版、十干気学より）

・火が炉の中で調整され調子が良くなります。

・人よりも優れた鋭敏な感覚と表現力で名声名誉を求めていく生き方。

・狡猾な知恵を使い、表現力豊かな鋭敏な能力で名声を求める。

・要領良く最小の努力で最大の効果を狙う要領・名声型。

・忠告！部下に仕事を任すことができなければ部下は育たない。

部下管理⇨長所管理すなわちいい面だけを生かして使え。

* 戊・辛

吉も凶も大したことがなく、岩石の横に辛の貴金属があるので、作用は微弱だと書いてありますが、別な原書には、岩石から貴金属が生まれるのでもいいと書いてあります。また別な原書には、戊は乾いた土なので、金を生むことができないとも書いてあります。

戊は、社交性があり、頑固です。この特徴と辛の道を極める能力が組み合わさって頑固な求道者となります。アート、美術の方面に向かつて、自分のスタイルを頑固に求めていきます。特に戊の感情表現は、人情に訴えかけるような感動を呼び覚ます役者などに向いています。戊は、活字を扱うのは苦手ですが、色彩や音に関しては抵抗がないので、辛の道を極める能力は、文学よりも芸術、芸能方面で発揮されることが多くなります。スマップの木村拓哉さんがこの傷官を持っています。

* 戊・辛 (星平翁海アロ版、十干気学より)

- ・山の岩石から宝石を強引に生成しています。
- ・人よりも優れた鋭敏な感覚と表現力で名声名誉を求めていく生き方。
- ・周囲の反対があっても決死の覚悟で努力する能力。
- ・要領の良い発想と行動でコツコツと信頼を得る能力。
- ・忠告！部下に仕事を任すことができなければ部下は絶対育たない。
- ・部下管理＝長所管理すなわちいい面だけを生かして使え。

*己・庚

この傷官は、特に健康面に注意が必要だと、原書には書いてあります。また、破壊的作用とも書いてあります。

己はもともと情感、愛されたい星です。快樂、情の世界が大好きです。そこに庚の損得実利が入ってくるので、融合させにくい面もありますが、庚の冷静な合理性が、己の情感のおかげで、冷たいと感じなくなります。

健康に留意するべきだという面では、土は胃と脾の消化系です。金は肺と大腸で呼吸器系です。胃で消化されたものが、肺に流れるのはまったく問題無いですが、食べ過ぎたり、飲み過ぎたりして、快樂を追い求め過ぎると、消化に負担がかかって、皮膚や大腸に悪影響が及びます。感情的になりすぎると、庚の合理性の足を引っ張るようになります。

*己・庚 (倉平会海プロ版、十干気学より)

・田園の土から金属が生成されています。

・人よりも優れた鋭敏な感覚と表現力で名声名誉を求めていく生き方。

・気持ちだけ焦って、努力するが結果が出るのに時間がかかるタイプ。

・愛情面が豊かで、一生懸命に会社や組織に奉仕する能力。

・忠告！部下に仕事を任すことができないければ部下は絶対育てない。

部下管理Ⅱ長所管理すなわちいい面だけを生かして使え。

*庚・癸

原書には、財が命式にあり、財を争って破るときには、唯一財を守る吉の作用をするとなり、わけわかりませぬね。

庚から見ると財は木行です。庚と木行の間に水行の癸があると、庚の木行を剋す作用が、水に流れて和らぐという理屈です。よくある理屈ですが、傷官が財を生じること、傷官生財格といえます。この理屈は実際には使えませぬ。

庚は、合理的な損得勘定で、実利計算が得意です。ここに癸の情報や知識があると、実利を得るために、癸の情報収集能力が発揮されるとなります。庚の合理性が、癸の知識によってより洗練されて、無駄のない動きをするようになります。また癸は臆病な性質をしていることから、何かを始める前の準備に余念が無いため、庚も癸もよく発動していれば、とても失敗の少ない人となるでしょう。

*庚・癸 (星平玄海プロ版、十干気学より)

- ・金属が雨によつて錆つき良くありません。
- ・人よりも優れた鋭敏な感覚と表現力で名声名誉を求めますが苦勞が多い。
- ・計算高く、色々と戦略を練る能力があるが実際の行動までに時間がかかる。
- ・思ったよりも、計画と実際の行動がうまくかみあわず要領が比較的悪い。
- ・忠告！部下に仕事を任すことができれば部下は絶対育たない。
- ・部下管理＝長所管理すなわちい面だけを生かして使え。

*辛・壬

原書には、もつとも良い傷官と書いてあります。なぜならば金水傷官だからだということ。壬の小川の水で辛の金属を洗い流すので、辛がキラキラ輝き美しいということです。

辛は道を極める求道者です。そこに壬の勝負が入ってくるので、イチローの命式のように、勝負の世界で道を極めるとなります。また、辛の美学や芸術性も壬の勝負師の性質を通じて発揮されますが、勝負は自分を磨くためにこだわります。勝負に勝つために忍耐力を発揮するというよりも、いつも戦う相手は自分自身で、自分に勝つことに美意識を置いています。フィギアスケートの安藤美姫選手もこの傷官を持っています。

*辛・壬（星平空海プロ版、十干気学より）

・宝石・鏡が水によって洗われています。

・人よりも優れた鋭敏な感覚と表現力で名声名誉を求めていく生き方。

・ひたむきな努力と純粋さで、自分を表現し社会に貢献する能力。

・その純朴な姿勢のため人徳もあり、努力した分必ず結果を必ず出す能力。

・忠告！ 部下に仕事を任すことができないければ部下は育たない。

部下管理Ⅱ 長所管理すなわちいい面だけを生かして使え。

*壬・乙

乙は草花、壬は大河の水、草花に水をコントロールする能力がないので神経の使いすぎと、原書には書いてあります。

壬は勝負で勝ちに行く性格です。そこに乙の協調性、安定性が加わって、時代の先を読んで組織の安定と協調性を求めていくようになります。壬の闘争心が周囲に圧迫感を与えず、なごやかな会話や楽しい人の集まりの中で勝ちを狙ってきます。講話や講演をさせたら自分が一番になるというように、勝負の土俵で乙を使い、誰よりも話を楽しく盛り上げるほうに、壬の勝ちたい求が向けられます。脚本家の三谷幸喜さんがこの傷官を持っています。

*壬・乙（星平会海フ口版、十干気学より）

・河・湖に水蓮の草花が浮いています。

・人よりも優れた鋭敏な感覚と表現力で名声名誉を求めていく生き方。

・社会、組織、見栄のため一生懸命奉仕、努力する能力。

・思ったほど戦略がうまくいかず、結果として実利がなかなか得られない。

・忠告！部下に仕事を任すことができれば部下は絶対育たない。

部下管理Ⅱ長所管理すなわちいい面だけを生かして使え。

*癸・甲

この横に太陽の丙がある場合のみ、吉の作用を起こすと、原書には書いてあります。大樹の両隣に、雨と太陽があるので、甲はよく育つということです。

癸は一つの物事に対して、あらゆる方面から攻められても隙の無いよう八方位を知識と情報で固めます。そうやって決して負けない勝負のやり方をします。そこに甲の考える能力が加わるので、その情報の処理能力というのが抜群に秀でてきます。膨大な情報を、甲の思考で様々な角度から分類したり、観察したり考えたりするので、知識力は並外れたものになります。またその表現がとても素晴らしいものになります。体操の内村航平選手がこの傷官を持っています。癸が勝負を堂々と口にしたときは、100%準備が整っている時です。

*癸・甲（星平云海プロ版、十干気学より）

- ・雨が太樹に降り太樹を育てています。
- ・人よりも優れた鋭敏な感覚と表現力で名声名誉を求めていく生き方。
- ・社会、組織、見栄のため一生懸命奉仕、努力する能力。
- ・思ったほど戦略がうまくいかず、結果として実利がなかなか得られない。
- ・忠告！部下に仕事を任すことができなければ部下は絶対育たない。
- ・部下管理＝長所管理すなわちいい面だけを生かして使え。

◆ 偏財の象意

偏財は異性の星と、原書には書いてあります。特に財星は官星の作用を活性化させると書いてあります。

官星と財星は異性だということですが、偏財だから異性運があるとか、官星だから夫運がいいとかという推命はダメですよ。

例えば、甲・戌だと偏財です。相手を剋す、相手を支配する、相手をコントロールするのが偏財です。男と女の関係からみると、男が女をコントロールするというのが古典的な中国の考えですから、偏財があるということは、コントロールする相手がいる、つまり女性がいる、妻がいるとなるわけです。

もう少しまともに考えれば、偏財があるから、ただ単に女性がいるのではなく、相手を支配する能力があると考えたほうがいいということが分かるでしょう。

その逆が偏官です。例えば戊・甲の並びだと、剋されて偏官になります。偏官だから男がいるとなります。その隣に乙があれば、



古くは男が女をコントロール
現代は、女が男をコントロールもある

正官になって、夫以外に男がいるとなります。

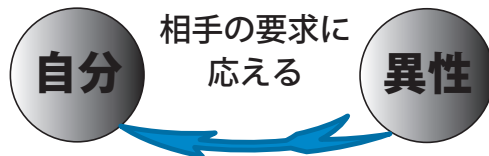
これも、官星というのは、自分を剋す相手がいるということなので、相手に従います、私はあなたのサポートをします、そういう気持ちがあるのです。従う相手がいる、夫がいるとなるのです。そういう気持ちがない人は、官星があっても、夫がいなし、相手を支配するという気持ちのない人は妻を持ってないのです。

ただ単に財星があるから妻がいる、官星があるから夫がいる、という普通の占い師レベルは、卒業しましょう。

*甲・戊

原書を読むと、甲の木が戊の土を押さえて、お金を我がものにする財だと、原書には書いてあります。場合によっては、岩石

官星



古くは女が男の要求に応えた
現代は、男が女をサポートすることもある

が固すぎて、甲ではその土を割ることができないので、反剋で甲が傷つくという理屈です。

甲は勇敢、権力、思考です。戊は社交性があり、情があります。甲の権力は、情で人を支配することで得られるというようになります。

『実と虚』という面で考えてみると、『実』の場合は、甲の勇ましさに、情が融合されていていいのですが、『虚』の場合は、甲の考えが浅くなります。戊の情が人の感情に振り回されて「いい人だ」の一点張りでも物事を決めるようになって、損害を被ったりします。

もし甲が生きていて『実』、戊が死んでいて『虚』の状態だと、本人は権力を目指し勇ましいのですが、人の気持ちを考えずに、大義名分を振りかざすだけで、人を契約で縛ろうとします。腹を割って話しが出来る人ができず、契約が切れたら関係性も解消してしまうような、紙ペラの人間関係しか作れなくなります。

* 甲・戊 (星平金海プロ版、十干気学より)

・大樹が強引に禿山の土を開墾しています。無理が目立つ。

・人よりも経済感覚が鋭く金銭・財・ビジネスを求めていく生き方。

・何事にも無理に干渉してくる干渉・統率能力。

・渉外力はあるが、予算を効率的に使ってのビジネスは得意ではない。

・仕事の流れを読むことができ、1を聞いて10を知る先回りできる能力。

逆に甲が『虚』で考えが浅く、頭でつかちで、戊は元気で『実』だと、考えは浅いけど情の部分で人間関係を作っていきます。しかし、一旦こじれると、言った言わないの水掛け論になって、法的処置に持ち込むこともできず、いがみ合って関係が解消されてしまうようになります。

*乙・己

原書には、唯一、乙にとって自分のものにできる財産とあり、草花が押さえつけることができるのは、田んぼの土だけという理屈です。

乙は協調性があり、そこに己の愛されたい、みんなと仲良くなりたいという情感が加わるので、情感あふれた交友関係から財が

※『実と虚』を考えあわせていくと、甲戊の通変星も4パターンでできます。

*乙・己 (星平翁海プロ版、十干気学より)

- ・草花が田園に美しく咲く良い状態。
- ・人よりも経済感覚が鋭く金銭・財・ビジネスを求めていく生き方。
- ・干渉すべきこととそうでないところを良くわきまえた干渉・統率能力。
- ・渉外力があり、予算や人を効率良く使ってビジネスをする能力。

生まれるとなります。原書には、己は、時には煉瓦のように固くなって、裏切られると書いてありますが、その発想はかなり屁理屈です。己の性情から考えれば、情がこじれて、乙の調整能力ではまかない切れないほど、己の気持ちや態度が硬化して、コントロール能力が機能しなくなると考えるほうが妥当でしょう。自民党の谷垣総裁がこの偏財を持っています。

* 丙・庚

古典では、丙の太陽は光と熱があり、熱は金を剋することができ、光は役に立たないのでだめと書いてあります。

丙は集中力があり、緻密で、能動的で、庚は合理的で実利を求めて動く現実性があります。丙の能動性に庚の現実感覚が加わ

・仕事の流れを読むことができ、1を聞いて10を知る先回りできる能力。

*** 丙・庚** (皇華会海プロ版、十干気学より)

・太陽が照りつけ鉄を延ばしきつて
いる悪い状態。

・人よりも経済感覚が鋭く金銭・財・
ビジネスを求めていく生き方。

・強引に何事にも干渉し無理に主
管したがる能力。

・その強引さのゆえ、周囲の人間か
らは煙たがられる傾向がある。

・仕事の流れを読むことができ、1
を聞いて10を知る先回りできる
能力。

り、損得を考慮して動けるようになります。また丙の細かさや緻密さが、庚の無謀な行動力を抑制して、合理的に丙の求める名声を得るために、損得勘定を働かせるようになります。政治家の辻元清美議員がこの偏財を持っています。

*丁・辛

ともに強くなければ良くない、どちらかが強いと、破産しますと、原書には書いてあります。

丁は、善を求め、情熱的です。丁は人工の火で燃えているから情熱的だというわけではないのです。性情が情熱的なのです。辛は道を極めるといったこだわりを持ちますが、これは辛の最も掘り所となる美意識なのです。そこに丁の情熱が加わるので、情熱

*丁・辛 (星平会海プロ版 十干気学より)

- ・火が宝石を汚している悪い状態。
- ・人よりも経済感覚が鋭く金銭・財・ビジネスを求めていく生き方。
- ・激しい位に情熱を持って、何事も首を突っ込み干渉する能力。
- ・少々破壊的な面がある位、その干渉・統率のやり方は激しい。
- ・仕事の流れを読むことができ、1 を聞いて10を知る先回りできる能力。

的に道を極めていきます。特に辛は芸術性が高いので、音楽、美術、伝統芸能、建築、映像などの芸術方面で、その情熱が発揮されることが多くあります。歌舞伎の市川海老蔵さんや、ビートルたけしさんがこの偏財を持っています。

* 戊・壬

岩石は相当なパワーを持っているので、壬の大河の水を剋すことができるが、水が多すぎると剋することができないので、この世から姿を消すことになる、原書には書いてあります。

戊は、頑固です。人情で人を支配します。そこに壬の勝負や先見性加わり、人脈拡大に壬の闘争本能が使われるようになりません。また、何かの勝利を得るために、人脈を大いに利用して、組

* 戊・壬 (星平会海プロ版、十干気学より)

- ・山の岩石から宝石を強引に生成しています。
- ・人よりも優れた鋭敏な感覚と表現力で名声名誉を求めていく生き方。
- ・周囲の反対があっても決死の覚悟で努力する能力。
- ・要領の良い発想と行動でコツコツと信頼を得る能力。
- ・忠告！部下に仕事を任すことができなければ部下は絶対育たない。

合組織のようなものをつくって、大きな体制に勝負を挑んでいくようなダイナミックさもありません。「エイエイオー！」などと雄叫びを上げたりする集団の中心にこのタイプがいることがよくあります。司会者の、みのもんたがこの偏財を持っています。

*己・癸

癸の雨が、田んぼに降り注ぐので、己にとってはうれしい財です。ところが、田んぼの土が弱い場合は、雨の水を処理することができなくて良くないとなります。片一方では儲かる、そして片一方では破産すると、必ず2つのことが、原書には書いてあります。どちらにも解釈ができるのです。この己・癸の並びの人が来て破産しましたと言えば、土が弱いから破産したとし、成功しましたと言えば、己の力量と癸の力量が両方共強いから成功したと

*己・癸 (自筆会簿プロ版、十干気学より)

- ・田園の土に雨が降っています。
- ・人よりも経済感覚が鋭く金銭・財・ビジネスを求めていく生き方。
- ・自分の利益を必ず確保することを前提とした干渉・統率能力。

言い変えることができます。

相手を見て話せば、わかりますね。特に己は顔に出ます。己は、愛情、愛されたい欲求が強い人です。快樂、楽しいことが大好きです。癸は学問的な知識、情報収集家です。情報集めは己の感情のフィルターを通じて行われるので、あの人と愛情の交流を行いたいと思えば思うほど、情報量も増えていくようになります。とくに己は育成能力がありますので、己の生き物を育む愛情に、最新の情報や、よりよい手法などを集める癸の知性が加わって、子育てなどに役立てていきます。

・ 予算を大胆に効率良く使い、ビジネスをどんどん発展させる能力。

・ 仕事の流れを読むことができ、1を聞いて10を知る先回りできる能力。

*庚・甲

庚の強い斧で、大木を切るので、歯ごたえのある財と、原書には書いてあります。

庚は冷静で利益を追いかける行動力があります。損得を考えて損しない行動をします。そこに甲の思考力、権力や地位を求めてリーダーシップを取る指導力が加わり、押しも押されぬリーダー格となつて、かなりのやり手です。指導力に磨きをかけて、しかも上から指図するだけではなく、庚の行動力を発揮すれば、そこに財が集まってきます。これが『虚』だと、庚でありながら行動しない、甲でありながら考えが浅いとなるのです。女優の仲間由紀恵さんがこの偏財を持っています。

*庚・甲 (星平六海アロ版、十干気学より)

- ・斧で大樹を伐採し木材にしています。
- ・人よりも経済感覚が鋭く金銭・財・ビジネスを求めていく生き方。
- ・他人を訓練し、一人前に育て上げることが出来る指導的統率能力。
- ・失敗もうまく起動修正できる臨機応変の干渉能力。
- ・仕事の流れを読むことができ、1を聞いて10を知る先回りできる能力。

*辛・乙

原書によると、はさみで草花を切るのはたやすいことなので、簡単に手に入れることができる財、しかし物足りないと思ってしまう。

辛は、美意識を持ち続けることにこだわり、道を極めていきま
す。さらに手先が器用で、アート、芸術性があります。乙は安定、
人との調和となるので、人が和むようなアートを極めるとなりま
す。辛は誰からも理解されなくとも、自分の道を極め、技術を高
めるといった、偏屈な職人気質も持っていますが、それが乙によつ
て中和されて、みんなに好かれるような芸術品を作成するようにな
ります。

これが『虚』でエネルギーが無くなると、迷いが多くなるだけ
です。安定や和やコミュニケーションがうまく行かず、評価され
ないと不満が出ます。

*辛・乙 (星平会海平口版、十干気学より)

・ハサミが花をスパット切つて良
くありません。

・人よりも経済感覚が鋭く過剰で
はあるが金銭・財・ビジネスを求
めていく生き方。

・感情的にヒステリックに破壊的
に、むごい程、干渉・統率する能力。
・予算や人を使つて、ビジネスを
発展させ大きくする能力。

・仕事の流れを読むことができ、
1を聞いて10を知る先回りでき
る能力。

*壬・丙

ビル・ゲイツもこれです。

大河の水と、太陽が、絶対になくならない不滅の財ですので、お金が儲かると、原書には書いてあります。

壬は勝ちに行きます。その方法は丙の集中、ビル・ゲイツの場合は集中投資になるでしょう。ビル・ゲイツのビジネスの方法は非常にシンプルです。ウインドウズの歴史に詳しい人は知っているとと思うのですが、ウインドウズ3.1や95など、使い物になりませんでした。マイクロソフトの社員は、使いものにならないウインドウズしか作れなかったのです。ウインドウズミレニアム、MEも使えません。ところが、ウインドウズ2000になつてガラリと変わりました。業務用になつてみんなが使いやすくなりました。なぜでしょうか？ビル・ゲイツはこのとき、資産をみんな処分したのです。捨てたのです。そしてウインドウズ2000を開発するために、今はないコンピューター会社、デックという会

*壬・丙 (皇平会海プロ版、十干気学より)

・河・湖に太陽が照つていて良い状態です。

・人よりも経済感覚が鋭く金銭・財・ビジネスを求めていく生き方。

・相手の意見を敬いながら上手に干渉し統率する能力。

・誰とでも対等に意見し渉外し、予算を上手に活用する能力。

・仕事の流れを読むことができ、1を聞いて10を知る先回りできる能力。

社の事業部をまとめて買って買ってきたのです。これまでのウインドウズの社員は処分したのです。ここからウインドウズXPができて、ウインドウズビスタができて、ウインドウズ7が出来て、来年は多分ウインドウズ8ができるでしょう。

使えない社員、使えない血統は処分して、外部からの集中投資に切り替えたのです。こういうやり方がこの財です。

*癸・丁

非常に失いやすい財、財に苦しみますと、原書には書いてあります。雨が人工の火をジュツと消してしまうので、失われてしまふという解釈です。

癸は表面には出しませんが、非常に強い意志を持っています。

*癸・丁 (星平会海プロ版、十干気学より)

- ・雨がせつかくの火を消しています。
- ・人よりも経済感覚が鋭く金銭・財・ビジネスを求めていく生き方。
- ・人の意見や才能を腐らせてしまふような破壊的な干渉の仕方。

それを支えているのが、膨大な情報と知識です。そこに丁の善なるものを求める情熱が加わりますので、あらゆる方面からの情報を収集して、丁の正義を達成しようとしませんが、丁の情熱を決して表に表しません。淡々と、ひょうひょうとした雰囲気を見せながら、実は目立たないところで着々と準備を進めているタイプです。癸も壬と同じように闘争心は強く持っています。勝ちに行くとくというよりも、最後には必ず勝つ、決して負けない、勝算が見えるまで手の内は明かさなない、そんな勝負のやり方をします。丁の情熱は、秘められた世界でメラメラと燃えるようになります。

-
- ・自分の考えが強く、なかなかそれを曲げようとしなないタイプ。
 - ・仕事の流れを読むことができ、1を聞いて10を知る先回りできる能力。

◆正財の象意

*甲・己

甲の大樹の横に、己の田んぼの土です。本来、己には甲を守る役割があります。しかし食傷がなければ、失われると、原書には書いてあります。この理屈は、木行と土行の間に、火行があると、木↓火↓土と、流れがスムーズになるということです。火行は木行から見ると食傷なので、間に食傷があると、簡単に財を生じることから、財源があると解釈するのです。

己(正財)

丁(傷官)

甲

このような並びのようですが、財が枯れないという理屈が、恐ろしいほどデタラメな解釈です。

*甲・己(華平翁海アロ版、十干気学より)

- ・大樹が田園の土に立っています。
- ・良い状態。
- ・人よりも堅実な発想で真面目にコツコツと貯蓄を求めていく生き方。
- ・干渉すべきことと干渉すべきでないことの区別ができる統率力。
- ・駆け引きのない堅い事業では、予算や他人を使う能力がある。
- ・汗と努力によって利益を出し、信用を第一に重んじる能力。

甲は勇敢で、よく考えます。リーダーの星でもあります。その思考タイプのリーダーに、己の愛されたいという愛情や、楽しい心が加わり、愛情深い統率力となります。食べるのが大好きな己の気が作用してくるので、食育などに感心を寄せて、手作りの愛情のこもった料理を人に振る舞うこともよくあります。

*乙・戊

草花は絶対に岩石を剋せないから、裏切られる、逃げられる、騙されると、原書には書いてあります。ほかの原書には、きれいな花が、戊の花瓶に行けられて美しい状態、『鮮花名瓶（せんかめいびん）』と言われているものもあります。

乙は協調性があります。人との和を第一に考えるので、我がま

*乙・戊 （星平空海プロ版 十干気学より）

- ・草花が山に咲く良い状態。
- ・人よりも堅実な発想で真面目にコツコツと貯蓄を求めていく生き方。
- ・他人をよくおだてて喜ばれながら、やつてもらう能力。
- ・駆け引きなく、温情があつて、他人をうまく使う統率力がある。

まを言いません。そこに人情で人を支配する戊の気が加わり、乙の話題は、もっぱら人の気持ちや人情的なものになっていきます。また、みんなに合わせるのではなく、じぶんから積極的に人の面倒をみて、人脈を広げていきます。ソフトバンクの孫正義さんがこの正財を持っています。

*丙・辛

丙の太陽が強すぎるので、握りつぶす財になるし、太陽が弱ければ優柔不断の財になると、原書には書いてあります。

丙は能動的で、物事に集中します。辛は求道者です。技術的にも職人技の域に達します。丙の細かいところを見逃さない、徹底した姿勢で、辛のこだわりの道を極めていく人になります。丙

・汗と努力によって利益を出し、信用を第一に重んじる能力。

***丙・辛** (星平玄海プロ版、十干気学より)

・太陽が照り付け宝石をキラキラ輝いています。

・人よりも堅実な発想で真面目にコツコツと貯蓄を求めていく生き方。

は無か有か、やるかやらないかといった白黒はつきり区別して、やると決めたら徹底的に物事にのめり込んでいくスタイルを持っています。そこに辛の耐え忍ぶ忍耐強さが加わるので、相当ストイックに集中していきます。広がり感はないですが、ぎゅつと凝縮された濃厚な財星の支配力となっていくます。民主党の蓮舫議員、手相の島田秀平さん、役者の竹中直人さんがこの正財を持っています。

*丁・庚

原書には、庚の斧、ナタのような硬い金属を、人工の火で精錬していると書いています。庚が強くて硬いので、横に甲があれば火の燃料となって、最後まで精錬できますということ。果たしてこれが人間を診断する理論でしょうか？

-
- ・組織の上下関係を重要視し、名目的に、または立場上干渉してくる能力。
 - ・位置、役職を重要視しながらの予算の運営、人の統率を行う能力。

丁は丁寧で、控えめですが、本心では善なるものを求めて世の中をより良くしていきたいと思っています。そこに庚の合理的な行動力と利害損得の計算高さが加わりますので、自分の本当にやりたいことを行うために、合理的に金銭を得る事を考えます。役者の西田敏行さんがこの正財を持っています。

そろそろみなさんも、この古典的な理屈が使えないということがおわかりになってきたと思います。『理気』の『理』のほうは、人間の**遊び**の部分なのです。理屈というのは遊びなのです。『気』というのは現実の**人の心**をみて、根っこにある波動を感じるものなので、こちらに根本があります。

『理』の**ほうが大衆向け**、『気』は**皇帝向け**なのです。本書は、『理』から『気』への転換をしています。

***丁・庚**（星平会海フロ版 十五気字より）

- ・火が鉄を錬金し、鍛えられている良い状態。
- ・人よりも堅実な発想で真面目にコツコツと貯蓄を求めていく生き方。
- ・他人を訓練し、一人前に育て上げることができる統率能力。
- ・予算の使い方、軌道修正の仕方も上手で、人とお金を正しく使う能力。
- ・汗と努力によって利益を出し、信用を第一に重んじる能力。

* 戊・癸

戊は頑迷なので、雨でそれを解く作用をするが、食傷がなければ無力ですと、原書には書いてあります。戊と癸の間に金行があれば、戊↓金↓水、と流れ、いつまでもお金が儲かるという理屈です。

戊は頑固で強い意志があります。情で人を支配する社交性があります。そこに知識・情報収集の能力が加わるのですが、一人でコツコツ、ネットや図書館で調べ物をするのではなく、人間関係を通じて、レアな情報を集め、ネットワークを広げていくようになります。政治家の舛添要一さんや、作家の池波正太郎さんがこの正財を持っています。

* 戊・癸 (星平会海プロ版、十干気学より)

- ・ 山に恵みの雨が降っています。
- ・ 人よりも堅実な発想で真面目にコツコツと貯蓄を求めていく生き方。
- ・ 上下関係や利益関係をうまく調整しながら他人を統率する能力。
- ・ 駆け引きのない堅い事業では、予算や組織をうまく調整しながら使う能力。
- ・ 汗と努力によって利益を出し、信用を第一に重んじる能力。

*己・壬

己の田んぼの土では、壬の大河の水を剋することができないので、悪い財だと、原書には書いてあります。別な原書には、『己^{キド}土濁^{ダクジン}』で、汚れた水が小川を濁してしまうという、破産、色ボケというように解釈されています。

己は愛されたい情の人です。そこに壬の闘争心が加わって、誰よりも自分の愛情が優っているといった、愛情においてトップを狙う勝負の仕方になってきます。また己は育成能力を強く持っているるので、その育て方に闘争心をかきたてるような方法を使ってくることもあります。AKB48をプロデュースしている秋元康さんがこの正財を持っています。選抜選挙などは、まさにこの通変星が大いに発動しているといえるでしょう。他には、歌手の中島みゆきさん、ゴルフの宮里藍さんもいます。

*己・壬 (星平金海プロ版、十干気学より)

- ・田園の土が河の水に入り濁流になり悪い状態です。
- ・人よりも堅実な発想で真面目にコツコツとやろうとするが、時に大失敗する。
- ・発想があまり清くない(ワイロ、利益供与に関与しやすい) 干渉能力。
- ・予算や他人を正しく使う能力がなく、失敗しやすい。
- ・汗と努力によって利益を出すか何かのきっかけで信用を失いやすい。

*庚・乙

原書によると、力量が違いすぎなのだそうです。硬い庚の金属と、柔らかい乙の草花では、姿形もなく財がなくなります。苦しむためにある財です、と恐ろしいことが書いてあります。

庚は冷静に判断して行動して、合理的に利益を求めていきます。そこに乙の協調性や会話力が加わりますので、自分だけ儲かればいいといったシビアな利害損得の考え方がなくなります。人の話しを聞かずに暴走してしまう庚の行動力が、乙の話し好きな協調性によってやわらぎ、みんなはどう思うのだろう？といった周囲への気遣いができるようになってきます。タレントの石田純一さんがこの正財を持っています。

*庚・乙 (星平会海プロ版、十干気学より)

・斧で草花をばっさりと切つていきます。

・人よりも堅実な発想で真面目にコツコツと貯蓄を求めていく生き方。

・組織の上下関係を重要視しながら人に干渉してくる統率力。

・予算の使い方、失敗もうまく起動修正する指導的能力。

・汗と努力によって利益を出し、信用を第一に重んじる能力。

*辛・甲

どう頑張っても、辛の貴金属で隣にある大きな甲の大木は剋することができないので、よほど苦勞する財です。かえって、反剋されて、貴金属が大木に割られてしまうと、歯がボロボロにされてしまうというように、原書には書いてあります。

辛は、求道者、こだわりを貫くために努力を惜しまない人です。そこに甲の思考、権力、地位などが加わって、知的に道を極めていくようになります。また、甲の社会的地位や権力という面から、地位のある人、権威のある分野に、辛のこだわりは興味を抱くようになり、財を得ていきます。自民党の石原伸晃さんがこの正財を持っていきます。お父さんである石原慎太郎東京都知事の日干は甲です。尊敬している父親の甲の特徴をしつかり発動させて、政治家という仕事に反映させてほしいものですが、最近、少し顔つきが骨つぽくなつてしつかりしてきたように感じます。

*辛・甲 (星平会海フロ版、十五気学より)

・美しいガラスがこん棒で割られる財の悪さです。

・人よりも堅実な発想で財を求めていくことができない。無理に財を求めていく。

・純粋な面があるが、自分で組織や他人を主管し統率することができない。

・涉外能力や予算をダイナミックに使いビジネスを拡大する能力に欠ける。

*壬・丁

丁の人工の火です。薪の火は水で消されるので、失いやすい火。干合するので色情とも書いてあります。

壬は戦略的に物事を考えて勝ちに行きます。そこに丁の、善なる感性と、上品さと、丁寧さと、世話焼きな面が関与してくるので、壬の勝ち急ぐ心を一旦和らげることができます。ただ目の前の勝負に勝てばいいのではなく、正義の為に闘争心を燃やすことで、より大きな勝利を獲得できるという方向に、闘争心がシフトして、財を得ていきます。自民党の小池百合子議員がこの正財を持っていきます。勝負する場所は政治の世界で、トップを狙ってくるでしょう。その達成手段として、丁の善なる意識や知恵、世話焼きな面が、どれだけ発揮できるかが見ものでしょう。

*壬・丁 (星平太海プロ版、十干気学より)

- ・河の水が火を消しています。
- ・人よりも戦略的、堅実な発想で真面目にコツコツと貯蓄を求めていく生き方。
- ・人の意見を見無視し、ワンマン社長のような態度で干渉する統率力。
- ・独立独歩の姿勢で予算や人を使い、ビジネスを大きくしていく主管力。
- ・汗と努力によって利益を出し、信用を第一に重んじる能力。

*癸・丙

どんなに頑張っても、癸の雨は丙の太陽を剋することができないので、制じがたい財、逆に財に裏切られますと書いてあります。裏切られても太陽はまた朝になると、東から登ってくるので復活する財だとも書いてあります。

癸は、情報を蓄えていきます。その情報収集能力は丙の細かさ、しつこく、集中して集めるようになりますので、かなりマニアックな収集家になります。またその仕入れた情報やノウハウなどを、同じようなマニアな人たちに提供して商売を始め、財を得るようになります。霊能者に洗脳されてしまったオセロ中嶋さんが、この正財を持っています。癸の負けたくない気持ちから得た情報源が、丙の執着によって他が見えなくなり、深い洗脳に侵されてしまったといえるでしょう。癸には必ず張り合う相手がいいます。そして丙は、やるとなったら徹底的にのめり込みます。

***癸・丙**（皇平云海プロ版、十干気学より）

・雨が河に降り水の勢いが強くなっています。

人よりも優れた自己主張、闘争力で独立独歩を求めていく生き方。

・他人の言うことをあまり聞かない自分が強い普通の独立心。

・経済感覚はさほどないが、目的のために精根尽き果てるまで熱中する能力。

↓結果的には、損を出しやすい傾向にある。

◆財Ⅱ支配力

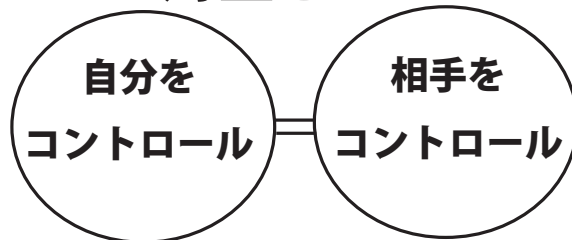
ここまでで、財星を説明してきましたが、最初に『財Ⅱマネー』と書いてある本が多いのですが、『財Ⅱ支配力』です。

相手を支配する力がどこから湧いてくるかというと、自分で自分を支配する力、自分で自分をコントロールする力がそのまま相手を支配する能力になるのです。自分で自分をコントロール出来ない人は、相手をコントロールできません。

そういう人は上司になってはいけません。自分で自分をコントロール出来ない人は、部下をコントロールすることはできません。自分で自分をコントロールできる人は結果としてマネーが儲かるのです。それができない人は、マネーも失うのです。

今の日本は、どちらが多いですか？自分で自分をコントロールできない人が多いでしょう。困難なこと、難しいことに当たった時に諦める人が多いでしょう。『私どうしたらいいのでしょうか？』

財星とは？



結果としてマネーを生む

そんな人が相談に来ることが多いでしょう。自分で考えなさいということなのです。自分の人生なのだから、自分の魂に聞いたらいいでしょう。でも自分の魂に触れることができないから、他人に聞くのです。そんな状態の人にいくらアドバイスしてもムダですよ。気がないのだから。『虚』なのだから。

もうちょっと言うと、仕事でうまくいかない、そんなのは命がけで仕事をしていない人の言い訳なのです。船井幸雄さんという方が言っています、命がけで仕事をしている人は、どんなに頭が悪くても成功していると言っているのです。勉強のできる頭の良い人よりも、頭が悪くてもいいから**命がけてやっている人が成功している**と言っているのです。お金持つのです。気があるし、エネルギーがたっぷり充填されているし、自分で自分をコントロールしているのです。

財星があるから財が持てるのではなく、星が発動しているから、結果的に財が入るのです。

◆ 偏官の象意

* 甲・庚

甲の大樹が生じすぎて、枝葉が張って、友人知人のために自己破壊をしやすい時に庚が役に立ちますと、原書には書いてあります。甲を大樹、庚をナタ、斧と置き換えているのでこのような理屈になるのです。

甲は、勇敢、勇気があります。権力を狙いに行きます。深く思考します。そういうタイプの人が、庚の合理的行動、損得をしつかり計算して結果を出していきます。

これは『実』の状態ですが、『虚』の状態になると、甲は勇気がない、深く考えない、権力だけを追いかける、庚であれば、目の前の利益だけを追いかける、となります。

官なので、作用が日干向きで、何者かにコントロールされる作

* 甲・庚 (星平翁海平口版、十干気学より)

- ・ 大樹が斧によって伐採されて木材になります。良い剋の関係。
- ・ 人よりも自分を厳しく自制しながら革新を求めていく生き方。
- ・ 忍耐力があり、奇抜な発想もできかつ自分を正しくコントロールする能力。
- ・ 分相応の発言と行動力ができて、自分の立場を保持する能力。
- ・ 部下の長所を誉め、良い面を生かし仕事を任せて育てることができる能力。

用です。この何者かというのは、自分の中にあるものなのですが、勇気、権力の求めすぎ、深く考えすぎて頭でつかちになってしまった場合、庚の合理的な行動力が、考え過ぎを押しさえつけて、コントロールしてくれると考えます。

*乙・辛

乙は、草花、辛はハサミのような鋭い刃物、古典でいうとこれは、『ビヤッコシヨウキョウ白虎昌狂』^{ビヤッコシヨウキョウ}とあって、虎がキチガイのように狂ってしまうということなのですが、これもおかしな理屈です。

乙は協調性があり、話し好きで、一生懸命人の話を聞きます。辛は、辛抱の辛で我慢強い性格で、道を極めます。

偏官のコントロールされるといふ面で言えば、乙の協調性は、

*乙・辛 (星平会海プロ版、十干気学より)

- ・草花がハサミでスツパリと切られる悪い状態。
- ・人よりも自分を厳しく自制しながら革新を求めていく生き方。
- ・上司や職場が苦手で対等な立場で接することができない。
- ・どちらからといえば、臆病気質のため自分を自制するといった行動をとる。

自分の欲求を押さえてみんなに合わせる性質をもっているので、そこに辛のこだわりが作用して、協調性を発揮しながら自分の意見を通していけるようになります。みんなに気を使いながらも、一つのことを我慢強く追求し続けるこだわりが、多少のことではくじけない芯の強さをもたらします。

*丙・壬

切っても切れない関係と、原書には書いてあります。それを維持すると非常に良い名式だとも書いてあります。丙は太陽、壬は大河、大海原に太陽の光がキラキラ反射して、とてもきれいな風景が描けるので、お互いに良いということですよ。

丙は、カリスマ性があり、物事に集中して粘り強いタイプです。

*丙・壬 (星平会海プロ版 十干気学より)

- ・ 太陽が湖に反射し輝いてる良い状態。
- ・ 人よりも自分を厳しく自制しながら革新を求めていく生き方。上司や先輩社員と対等に接することができ、かつ分相応をわきまえる能力。

壬は闘争心に燃え、先の先まで読んで、勝ちを求めていきます。勝負の世界では、対戦相手のデータを細かく、細密に研究し、コンピュータのように分析された頭脳で緻密な戦略を打ち出します。勝つために何時間でも研究に没頭するようなタイプで、壬のスピード感や勢いや迫力はあまり表面には出て来ません。しつこいまでの探究心で、粘り勝ちするようなタイプです。

* 丁・癸

癸の雨の水が、丁の人工の火を一瞬で消してしまうので、反発・激冲を伴うと原書には書いてあります。

・ 優れた職場や仕事内容に順応し、奇抜な発想、果敢な行動も可能な能力。
 ・ 部下の長所を誉め、良い面を生かし仕事を任せて育てることができる能力。

◆ちよつと一言

※こういう言葉は原書を読むといっぱい出てくるのですが、私も20年ほど前は、関西の鑑定士さんから、車一台分のお金を払って講義ノートを買いました。そのノートというのは、明治時代の先生の教室で作られたノートだったのですが、それをコピーして売っていたのです。そういうのを買いまくって、一生懸命勉強したことがあったのですが、みなさんはそんな無駄な努力をしないで、もっともっと合理的に使える四柱推命を、短期間でマスターして、開運につなげて行って欲しいと思います。どうしても市販の本を読むと惑わされやすいので、本書では、惑わされないように古典的な内容も載せているだけです。

丁は正義を求め情熱的です。その正義感を原動力に、癸の情報知識、学問を情熱的に求めるのです。偏官のコントロール作用を加えると、あまりにも正義、正義と、大義名分を掲げているのに、なかなか実行に移せませんが、癸の知識によってコントロール

*丁・癸（星平会海フロ版、十干気学より）

- ・火が雨の水によって消える無理がある状態。
- ・人よりも自分を厳しく自制しながら革新を求めていく生き方。
- ・上司や職場が苦手に対等な立場で接することができない。
- ・どちらからといえば、臆病気質のため自分を自制するといった行動をとる。

することができます。

*戊・甲

戊は岩石だから、硬い、硬いから大木の根で割ってもらって初めて良くなると、原書には書いてあります。甲の根っこが強すぎると、割れて割れて自分がなくなってしまうって、この時は仕事を失い、過労で倒れて、夫の死亡があると書いてあります。

戊は、情で人を支配するタイプです。たしかに頑固です。そういう人が甲の権力、出世を求めます。

偏官のコントロールするという作用を加えると、情で人を支配しますが、あまりに情だけのつながりでは、ただの仲良しグループで発展性がありません。そこに甲の深い思考力や正義感が加味

*戊・甲（皇平会論プロ版 十干気学より）

- ・山の岩石が樹木の根によって無理やり開墾されてます。
- ・人よりも自分を厳しく自制しながら革新を求めていく生き方。
- ・自分の考えがしつかりしており、上司や会社の方針に簡単には屈服しない。↓チャンスをつかえるのが巧みで奇抜な発想、果敢な行動も可能な能力。
- ・自分をコントロールする自制心はあるが、負けず嫌いで行動力がある。
- ・部下の長所を誉め、良い面を生かし仕事を任せて育てることができる能力。

されて、社会的地位の獲得につながります。

*己・乙

草花は力量が弱いので、己の田んぼの土を剋せない、だから飾りだけの象意になるということで、官星は仕事星です。飾りの仕事、飾りの犠牲心、飾りの夫になると、原書には書いてあります。

己は、感情優先の人で、自分が楽しいと感じることを追求したいタイプです。乙は協調性があり安定志向です。このタイプは、周囲へ気づかいによって愛情の絆を結んでいこうとします。決して回りに迷惑をかけるような行動はしません。また、人生を楽しむことに己は貪欲でもあるので、人の意見を尊重して、調和を乱さない範囲で楽しむ方法をよく心得ています。些細な日常を楽しむ

*己・乙 (星平会海ブ日版 十干気学より)

- ・ 田園の土に草花が生えています。
- ・ 人よりも自分を厳しく自制しながら革新を求めていく生き方。
- ・ 上司を大切に敬い、指示通りに業務を遂行する服務能力がある。 ↓ 奇抜な発想、果敢な行動も可能な能力。
- ・ 献身的に、組織や上司に対し忠実に服務する正義感のあるサラリーマン能力。
- ・ 部下の長所を誉め、良い面を生かし仕事を任せて育てることができる能力。

む天才でもあります。乙は話し好きなので、ほのぼのとした楽しい会話で人を笑わせ人気者になるような人です。

*庚・丙

原書では、庚は金属、金属に太陽の光が当たってもしよすがない、あてに出来ない仕事、あてに出来ない夫、あてに出来ない犠牲心となっています。

庚は合理的な行動、冷静で損得の計算が瞬時にできます。そういう人が丙の集中を求め、名声を求めていきます。

コントロールされるといふことでは、あまりにも合理的で目先の損得に翻弄されがちな庚を、注目を浴びて名声を得る能力によって、周囲から一目置かれるようなカリスマ性を発揮します。

*庚・丙 (星平会海プロ版、十干気学より)

- ・鉄の上から太陽が照っています。
- ・人よりも自分を厳しく自制しながら革新を求めていきますが、苦労が多い。
- ・組織や上司から何かと圧力をかけられて束縛される内容の自制心。
- ・分相応の発言と行動を行い、保身が巧みなサラリーマン能力。
- ・部下の長所を誉め、良い面を生かし仕事を任せて育てることができる能力。

丙のマニアックさが発動すれば、庚の収入はアップします。

*辛・丁

辛は宝石だから、本来水できれいに洗われたい、したがって冬生まれなら辛が凍っているの、この組み合わせは問題ないと、原書には書いてあります。場合によっては、貴金属が丁の火によってあふられて形を変えてしまうので、注意が必要だと書いてあります。もう無茶苦茶な、クレイジーな理論です。

辛は辛抱の辛なので努力家です。一途に道を極めていきます。丁は善なるものを求め、世話焼きです。道を極めたいという辛に、丁の善なる心が加わり、善なる道を極めるようになります。こだわりが強すぎる傾向があるので、丁の人の世話をすることによつ

*辛・丁 (星平会海プロ版 十干気学より)

- ・ 宝石が火によって汚れます。
- ・ 人よりも自分を厳しく自制しながら革新的に生きようとはしますがうまくいかず苦勞が多い。
- ・ 上司や職場が苦手に対等な立場で接することができない。
- ・ どちらからいえば、臆病気質のため自分を自制するといった行動をとる。

て、人当たりがやわらぎます。

*壬・戊

壬の大河の水を、暴走しないように戊の岩石が食い止める、しかし戊の力量が弱いと水が暴走してしまうと、原書には書いてありません。

これを気で解釈すると、壬は勝ちたい欲求が強いです。戦略的思考です。戊は人情家です。勝つことよりも人と情でつながり人脈を広げること意識が向かいます。この戊が壬と融合することによって、勝負勝負勝負と、勝てば何でもいいのだという荒っぽさがなくなります。戊の情動的な力でコントロールして、みんなで勝とうという気持ちが強くなるので、個人としてのスピード感

*壬・戊 (星平会編プロ版、十干気学より)

- ・大河が堤防によって湖になって良い状態です。
- ・人よりも自分を厳しく自制しながら革新を求めていく生き方。
- ・上司と対等に接し意見する能力もあるが、決して度を越えない自制心。
- ↓いざとなれば、奇抜な発想、果敢な行動も可能な能力。
- ・自分の地位や仕事内容に満足し、快適に無理なく職場生活を送る能力。
- ・部下の長所を誉め、良い面を生かし仕事を任せて育てることができる能力。

はなくなりますが、チームプレーには強くなります。

*癸・己

「癸は弱い水、それを己はどんどん吸い込んでしまうから、水が弱ってしまう。水を吸い過ぎるので良くないと、原書には書いてあります。」

癸は知の星で学問ずき、知識、情報収集が得意です。己は愛さ
れたいという情感です。仲間たちに喜んでもらうために、調べた
情報を提供することが楽しいと感じるようになります。知識ばかり
で頭でっかちになりがちな面を、人との情のふれあいを大切に
することで、偏りをコントロールしていきます。

*癸・己（星平会海プロ版、十干気学より）

- ・ 雨が田園の土に降り恵みを与えています。
 - ・ 人よりも自分を厳しく自制しながら革新を求めていく生き方。
 - ・ 上司を大切に敬い、指示通りに業務を遂行する服務能力がある。
- ↓ 奇抜な発想、果敢な行動も可能な能力。
- ・ 献身的に、組織や上司に対し忠実に服務する正義感のあるサラリーマン能力。
 - ・ 部下の長所を誉め、良い面を生かし仕事を任せて育てることができる能力。

官星の場合は、剋される作用です。人間関係では誰かに従う、コントロールされると言うことです。これは自分の中に持っている星なので、自分をコントロールする己も持っているということなのです。知識、情報を集める冷静なタイプじゃなくて人間味あふれる、大衆的な愛され要素も持っているということなのです。そういう要素も持っているので冷たい知識、冷たい学問、冷たい情報にならないということなのです。

全ての官星で、同じことが言えます。日干のいき過ぎてしまう面を、自分を剋してくる干によって、コントロールができるという並びです。

◆正官の象意

*甲・辛

ガラスが大樹を切り倒すのですが、どうしても剋することができない、役に立たない官星というようになります。官星は女性にとつては夫なので、役に立たない夫となるのです。特に冬月に生まれた場合、辛はますます冷えて害を及ぼしますと書いてあります。

正官があればいいというように、中国の原書も、今の市販の本も書かれているのですが、もともと千年前の中国というのは、華僑の試験に受かったら良い、華僑の試験に受かって中国の皇帝のスタッフとして天下を取るような仕事をすれば良い運と定義されていたのです。皇帝に従う能力というのが何かというと、これが官星になります。だから、折り目正しい正官がいいということだったのですが、今の時代どうですか？組織のトップに従う人、立派

*甲・辛（星平金海プロ版 十干気学より）

- ・丸太がガラスを割るような悪い状態です。
- ・人よりも自分を厳しく自制しながら品行方正な几帳面を求める生き方。
- ・上司や組織に対し何かと反抗し、組織を乱す発言・行動をしやすい反発能力。
- ・自分自身に対しては厳しく自制する心はある。

ですか？立派じゃないですよ。原発事故で大問題が起きたとしても、上司に従うだけの人は何もできないでしょう。大企業の幹部たちは、いざというとき何もできないでしょう。ただ人に従うだけの人だから、自分では何もできないのです。今は、小さくても自分でトップをやれる時代ですから、官星だからいいとか、人に従う服务能力が最もありがたいということはないです。

甲は勇気があって、深い思考ができます。そこに忍耐と求道の道を極める辛があるので、どんな困難にも屈しない精神力と、深い思考力がミックスされ、長い時間をかけてでも、大義を成し遂げる能力が生まれます。

・部下の長所を誉め、良い面を生かし仕事を任せて育てることができる能力。

*乙・庚

乙は草花です。それをナタでぶった切るのだから、徹底的に悪い官星だと、原書には書いてあります。徹底的に夫からいじめられる女性の命式になってしまうのです。

乙というのは、安定を求め、協調性があります。そこに庚の合理的な行動力や、利害損得の計算の速さが、乙をコントロールする形で働きかけます。乙の安定は、合理的に行動して利益を得ることので得られるようになります。また、乙の中にもともと潜んでいる冒険心が、庚の行動力によって刺激されます。大阪市長の橋下徹さんがこの正官を持っています。もともとは日干乙で平和主義者でしょう。日本という国を安定させるために、庚の星を豪快に発動させているといえるでしょう。

*乙・庚 (星平会海プロ版、十干気学より)

- ・草花が鎌でバツサリと刈り取られ整理される良い状態。
- ・人よりも自分を厳しく自制しながら品行方正な几帳面を求める生き方。
- ・自分を正しくコントロールすることができ品行方正な礼儀をわきまえた能力。
- ・与えられた制約の中で環境に適応し、適度の改革力と実行力を持ったバランス。
- ↓ 純真にて繁栄と福をもたらす能力。
- ・部下の長所を誉め、良い面を生かし仕事を任せて育てることができる能力。

*丙・癸

熱い太陽が出ている時には雨がほしい、だから良い癸の働きがある、と書いてある原書もあれば、せつかくの太陽を雨雲が曇らせてしまうので、良くない官星だという原書もあり、『黒雲遮日（こくうんしゃじつ）』というのですが、だから悪い官星、悪い夫となるのです。

丙は能動的で、物事に集中します。癸は冷静な知識、情報収集能力です。丙の一つのことにのめり込んで、集中しすぎるあまり、狭くなりがちな視野を、癸の情報収集アンテナが発動することによって、常に外部との接点を持てるよう、コントロールしていきます。歌手の米良美一さんが、この正官を持っています。癸の音感や秘めた闘争本能、豊富な情報によって、丙の名声が得られたと考えることができます。

*丙・癸（星平会海プロ版、十干気学より）

- ・太陽が暗雲によって遮られている悪い状態。
- ・人よりも自分を厳しく自制しながら品行方正にやろうとするがうまくいかず苦勞が多い。
- ・表面上は上司や組織に服従し、忍耐力を兼ね備えた品行方正な活動能力。
- ・実際は、自分の主義主張をまったく変えず誰にも服従しない行動能力。
- ・部下の長所を誉め、良い面を生かし仕事を任せて育てることができる能力。

*丁・壬

丁は燃える火、それを水で消されるので苦しめる官、苦しめる夫、苦しめる仕事と、原書には書いてあります。もしくはこの干合は、特殊な色情の事件を起こしますと書いてあります。

丁は善なるものを求めます、正義を求めます、人の世話をするのが好きです。そこに壬の勝負が入ってくるのです。壬は勝つために、自らを訓練することを怠りません。正義を勝ち取るために、日々修行に励み、心身を鍛えあげていきます。政治家の石破茂議員がこの正官を持っています。日干丁で口調は控えめですが、丁の善なる大義を達成するために、壬の戦略や、勝負魂を使ってきます。

*丁・壬 (星平金海プロ版、十干気学より)

- ・火が河の水によって消えます。
- ・人よりも自分を厳しく自制しながら品行方正な几帳面を求める生き方。
- ・上司、組織や社会に対し絶対的に忠実に服従し任務を遂行する能力。
- ・与えられた環境の中で、比較的楽しく快適に業務を遂行できる心。
- ↓ 純真にて繁栄と福をもたらす能力。
- ・部下の長所を誉め、良い面を生かし仕事を任せて育てることができる能力。

* 戊・乙

乙は草花、雑草、戊は岩石、どんなに頑張っても岩石が草花によつてやつつけられることはない、だから役に立たない官星、役に立たない夫、役に立たない仕事、飾りの官星というように書いてあります。ひどいものです。劣等感を植え付ける道具としては、四柱推命はよくできています。

戊は頑固で情で人を支配する、人の組織力がありますが、感情に左右される面があります。そこに乙の協調性とか話し好きな面がコントロール能力として働くので、情の通じない人でも、楽しく会話しながら、相手の心を和ませ、情のつながりを徐々に深めていくことができます。

* 戊・乙 (星平会海平口版、十干気学より)

- ・山の岩石に草花が生えています。
- ・人よりも自分を厳しく自制しながら品行方正な几帳面を求める生き方。
- ・表面上は上司や組織に服従し、忍耐力を兼ね備えた品行方正な活動能力。
- ・実際は、自分の主義主張をまったく変えず誰にも服従しない行動能力。
- ・部下の長所を誉め、良い面を生かし仕事を任せて育てることができる能力。

*己・甲

田んぼの土が大樹を育成するので、良い剋の関係だと書いてあります。しかし甲が大きすぎて大木が大きくなりすぎると、己に害を及ぼすと、原書には書いてあります。

己は愛されたい、情感豊かなタイプです。甲は感情よりも、考えることを優先しますので、己の乱れやすい感情やヒステリーになりやすい面をコントロールしていきます。深い思考で、嫉妬心なども、理論的に頭で整理するので、ちよつと固さはありますが、安定した感情を維持することができます。俳優の石坂浩二さんがこの正官を持っています。また女優の高畑淳子さんもこの正官です。

*己・甲 (星平天海プロ版、十干気学より)

- ・ 田園の土に大樹が生えている良い状態です。
- ・ 人よりも自分を厳しく自制しながら品行方正な几帳面を求める生き方。
- ・ 上司、組織や社会に対し絶対的に忠実に服従し任務を遂行する能力。
- ・ 与えられた環境の中で、比較的楽しく快適に業務を遂行できる心。
↓ 純真にて繁栄と福をもたらす能力。
- ・ 部下の長所を誉め、良い面を生かし仕事を任せて育てることができる能力。

*庚・丁

庚は硬い金属です。その金属を人工の火であぶって鍛錬する、だからいい組み合わせだと、原書には書いてあります。

庚は合理的な行動、損得の計算によつては、ムダがありません。丁は物資的損得よりも、善なるもの推し進めたい気があります。庚の合理的すぎて目先の損得に走り過ぎる面を、丁の世の中の不正を正したいという心がコントロールして、善なる行いをするために利益を得て、それを還元するようになります。ゴルフの石川遼さんや、腹話術のいっこく堂さんがこの正官を持っています。丁の丁寧な面が、ゴルフにしても、腹話術にしても、隙のない技術という形で作用しています。

*庚・丁 (星平会海プロ版 十干気学より)

- ・金属が火によつて焼き入れされます。
- ・人よりも自分を厳しく自制しながら品行方正な几帳面を求める生き方。
- ・適度に自分を押さえる能力と、礼儀と恥じをわきまえた行動をする能力。
- ・適度の反発心もあり、ビジネスを大きく発展させていく能力もある。
- ・部下の長所を誉め、良い面を生かし仕事を任せて育てることができる能力。

*辛・丙

寒い冬に限り、鏡に太陽が反射するのでとてもいい官星だと、原書には書いてあります。しかし本来辛は弱々しいので、官星は役に立たないとも書いてあります。

辛はガマン強く忍耐力があります。職人氣質で道を極めます。丙は緻密で集中力と粘りがあり、名声を求めます。辛のストイックなまでに道を極めようとするこだわりを、丙の強い集中力でさらに追い込んで、確かなる技術に磨きがかかり名声が高まります。田中角栄さん、作家の山田詠美さんがこの正官を持っています。

*辛・丙（星平会海プロ版、十干気学より）

- ・宝石が太陽によってキラキラと輝きます。
- ・人よりも自分を厳しく自制しながら品行方正な几帳面を求める生き方。
- ・上司、組織や社会に対し絶対的に忠実に服従し任務を遂行する能力。
- ・与えられた環境の中で、比較的楽しく快適に業務を遂行できる心。
- ↓ 純真にて繁栄と福をもたらす能力。
- ・部下の長所を誉め、良い面を生かし仕事を任せて育てることができきる能力。

*壬・己

原書では、大凶とされています。『己土濁壬』キドダクジンといつて、田んぼの土が小川のきれいな水を濁らせてダメにしてしまう命式。役に立たない夫、役に立たない仕事、役に立たない官星となります。

災難を発生すると書いてありますが、壬は勝負好きで、断定的に物事を判断し、勝つためには手段を選ばないといった面が、行き過ぎると出てきます。そこを、己の情感でコントロールしていきます。人を出し抜いてまでも勝とうとする壬の闘争心を情で押さえ、勝利をみんな喜んでるように周囲との絆を大切にします。女優の綾瀬はるかさんがこの正官を持っていますが、女優さんの場合は、生年月日はたしかではありません。

*壬・己（皇平会海アロ版、十干気学より）

- ・水が泥によつて濁流になります。
- ・人よりも自分を厳しく自制し品行方正に生きようとしますが、うまくいかず苦勞が多い。
- ・上司や組織を完全に馬鹿にし、なめきつた発言や行動や心がある。
- ・自分に対しては厳しく自制し、正義感もあり実務能力はある。
- ↳ 奇抜な発想をし冒険もできる能力があり、機を見るのが得意。
- ・部下の長所を誉め、良い面を生かし仕事を任せて育てることができる能力。

*癸・戊

雨が岩石の上に降っているが、雨は弱い水なので、たいていは、苦しみにつながりやすいと、原書には書いてあります。

癸には旺盛な知識欲と、内に秘めた強い意志力がありませんが、あまりにも、知に走りすぎると、理屈っぽい頭でつかちになってしまいます。戊の義理人情が人との絆を深め、癸の知識が、人の世話に役立つようになります。落語家の立川談志さんが、この正官を持っていました。戊の情や信頼を重んじる心によって、癸の知識や情報を、より大きな体制に歯向かう形で活用していたようです。戊の情だけではなく、癸のしらみ潰しに情報を集めことによる確かなる根拠があったので、一目置かれていたのでしょうか。

*癸・戊 (星平大海プロ版、十干気学より)

- ・雨が山岳の岩に降っています。
- ・人よりも自分を厳しく自制しながら品行方正な几帳面を求める生き方。

- ・上司、組織や社会に対し絶対的に忠実に服従し任務を遂行する能力。

- ・与えられた環境の中で、比較的楽しく快適に業務を遂行できる心。

- ↓ 純真にて繁栄と福をもたらす能力。

- ・部下の長所を誉め、良い面を生かし仕事を任せて育てることができる能力。

◆ 偏印の象意

* 甲・壬

水がないと大樹は枯れてしまうので、夏生まれの場合、この壬はありがたい。ただ壬が強すぎると木の根が腐る、もしくは、洪水で木が倒されて浮いてしまうと、原書には書いてあります。

甲は勇敢で、深い思考力がありますが、行動力が伴わないところがあります。そこに壬の闘争本能が刺激を与えて、勝つために頭をフル回転させて、勝負に挑む勇氣と勝つためのスピードをもたらしめます。

これが『虚』のエネルギーがない状態の場合、甲には勇氣がなくなり、また甲の陰的な面では、深く考える思考が浅くなり、言動も借り物になっていきます。

壬の『虚』の状態は、勝ちたいのだけど恐れが強く、何もでき

* 甲・壬 (星平会海プロ版 十干気学より)

- ・大樹の根が河の水によって腐っている悪い状態。
- ・人よりも優れた探求心を用いながら創造・応用を求めていく生き方。
- ・要領が悪く、なかなか効率良く物事の処理ができず、応用発展力に欠ける。
- ・他の人を当てにし依頼心が強く、努力の割には報われない。

ずに、焦りばかりが高まり、空回りします。

自分の思い通りにならないとグチが発生し、グチをためこむと怒りに変わっていきます。甲の肝、壬の腎、肝臓と腎臓、が弱い場合は、怖がるばかりで行動できないので、ますますグズグズいうようになります。

*乙・癸

雨が草花に降り注いで、常時、発展することができて幸福ですと、原書には書いてあります。しかし雨が多いと草花も腐ってしまいますと書いてあります。

乙は安定志向で協調性があり、人とコミュニケーションを取るのが上手です。そこに癸の知識や情報が加わるので、とても物

*乙・癸 (『星平大海プロ版、十干気学より』)

- ・草花に恵みの雨が降り注ぐ良い状態。
- ・人よりも優れた探求心を用いながら創造・応用を求めていく生き方。
- ・みずから積極的にチャンスを探し切れ味良く効率的な利用をする能力。

知りな人になります。政治家の鈴木宗男さんやジャーナリストの田勢康弘さんが、この偏印を持っています。鈴木宗男さんはけたたましく喋り、田勢さんは語り口調は穏やかですがペンで饒舌さを発揮しています。

*丙・甲

印星がたくさんあるときには、迷いが多くて先見の明を失い、まずと、原書には書いてあります。

丙は能動的で、集中力と粘りがあり、自分が注目されることで輝きます。そこに甲の深い思考力や社会的常識感覚が加わり、丙のカリスマ性をサポートします。甲はリーダーの星でもありますが、印星の丙は、組織全体の責任を負って取りまとめるタイプで

↓ 臨機応変にチャンスを活かみに
捉える能力。
・ 真心よりも秩序と効率を優先させる対応処理能力。物質運は案外ない。

*丙・甲 (星平金海プロ版 十干気学より)

・ 太陽がさんさんと大樹に降り注ぐ良い状態。
・ 人よりも優れた探求心を用いながら創造・応用を求めていく生き方。
・ 自分はチャンスの逃してしまいが、他人には利益を与えてしまうタイプ。

はないので、自分が輝くことに甲の思考力を使います。歌手の八代亜紀さんがこの偏印を持っています。歌以外に、絵も書かれています。凝り性の丙に甲の社会性などが影響して、歌同様、たくさん賞をとっているようです。

*丁・乙

人工の火に、乙の草花を燃料として使いますが、枯れ草はすぐに燃え尽きてしまいます。頼つても裏切られやすい現象となると、原書には書いてあります。

丁は善なるものを求めます。人の世話をするのが大好きで頼りたいといった性質を持っています。そこに乙の協調性やコミュニケーション力が加わり、善なる行いをみんなで行えるように計

・真心よりも秩序と効率を優先させる対応処理能力。物質運は案外ない。

*丁・乙（星平益海プロ版、十干気学より）

・火が草花の助けによってめらめらと燃える良い状態。
・人よりも優れた探求心を用いながら創造・応用を求めていく生き方。
・みずから積極的にチャンスを探し切れ味良く効率的な利用をする能力。

らいます。多くの人と交流を持って、その中で自分の善なる行いの協力者を作っていきます。マラソンの高橋尚子さんがこの偏印を持っていますが、引退したあとの今のほうが、社交性を発揮してとても忙しそうにしています。また、お騒がせ政治家の小沢一郎さんも、この偏印を持っています。選挙で票を集めることに大いにこの星が発揮されているようです。

* 戊・丙

岩石の上に太陽なので、岩石も暖かくなって喜ぶと、原書には書いてあります。

戊は義理人情に厚く、人との信頼関係を大切にして、情で人脈を形成していきます。そこに丙の、集中力、粘り、緻密さ、カリ

↓ 臨機応変にチャンスを巧みに捉える能力。

・真心よりも秩序と効率を優先させる対応処理能力。物質運は案外ない。

* 戊・丙 (星平至海プロ版 十干気学より)

・山の上に太陽が昇っている朝日の光景です。

・人よりも優れた探求心を用いながら創造・応用を求めていく生き方。

スマ性が加わり、集団の中において俄然人気者になっていきます。丙はカリスマ性がありますが、戊にその影響があつたとしても、丙のようなスター性を發揮することはなく、あくまでもみんなの目線に合わせてくるので、その庶民感覚に人望が集まります。ユニクロの柳井社長がこの偏印を持っていますが、カジュアルな洋服にこだわっています。

*己・丁

丁の火が燃えて、己の田んぼの土になりますが、丁は弱いので、己の期待通りに動かない、頼っていると裏切られると、原書には書いてあります。

己は情に厚く、人と人とのふれ合いを大切に、愛されたい

・チャンスが訪れるのをじつと待っていて、チャンス到来で一気に動く能力。

↓ 臨機応変にチャンスを巧みに捉え、駆け引きもできる能力。

・真心よりも秩序と効率を優先させる対応処理能力。物質運は案外ない。

*己・丁 (『平凡な論』プロ版、十干気学より)

・仮の炬が火を調整しています。

・人よりも優れた探求心を用いながら創造・応用を求めていく生き方。

タイプです。そこに丁の善なるものを求める心と、世話焼きな面が加わり、人情味あふれる親分肌なタイプになります。自分を頼ってくる人は、みんな家族のように扱い、どんどん大所帯になっていって、大家族の大親分のようになっている人も多くいます。面倒見の良さは抜群です。演歌歌手の北島三郎さんが、みんなにオヤジと呼ばれているのも、この偏印の親分肌な面が大いに発動しているといえるでしょう。

*庚・戌

庚は硬い金属だから、丁の火で錬金されるのを喜びます。その丁の火を生じる戌があるので、丁がある場合、良い作用だと、原書には書いてあります。

・自分はチャンスの逃してしまいが、他人には利益を与えてしまうタイプ。

・真心よりも秩序と効率を優先させる対応処理能力。物質運は案外ない。

*庚・戌 (自平会海プロ版 十干気学より)

・金属が山岳から生成されます。

・人よりも優れた探求心を用いながら創造・応用を求めていく生き方。

庚は沈着冷静に行動して利益を求めます。そこに義理人情に厚く、人との信頼関係から人脈を構築していく戊の気が加わって、人との信頼関係を通じて利益を得るようになっていきます。庚独特の現実感覚で、バリバリ実業界でのし上がっていく暴走機関車のような勢いは、人の気持ちを優先する戊によって、みんなの協力を取り付けるのが上手なタイプです。ゴルフのタイガー・ウッズがこの偏印を持っています。

*辛・己

貴金属や宝石が、田んぼのどろどろした土で汚されて、良くないと、原書には書いてあります。

辛は、忍耐強く道を極めることにこだわる求道者です。そこに

・みずから積極的にチャンスを探し切れ味良く効率的な探求をする能力。 ↓ 臨機応変にチャンスを活かす能力。巧みに捉え、駆け引きもできる能力。

・真心よりも秩序と効率を優先させる対応処理能力。物質運は案外ない。

*辛・己(星平会海プロ版、十干気学より)

・宝石が泥にまみれています。

・人よりも優れた探求心を用いながら創造・応用を求めていく生き方。

己の情感豊かな、愛されキャラが加わります。辛は道を極めることにこだわらぬあまり、人間関係を器用に結べない人が多くいます。ところがそこに、人好きのする己の愛されキャラが加わることで、逆に、愛嬌のある求道者となって、人気者になっていきます。そのまんま東さんが、この偏印を持っています。

*壬・庚

庚の金が水を生じるので、とても心強いが、両方共強すぎると知力でやりたい放題になってしまうと、原書には書いてあります。

壬は闘争心が強く、勝ちにこだわります。そこに庚の冷静さ、計算が加わって、壬の先を読む力と、庚の合理的な行動で、勝利を手にするスピードが早くなります。その勝利というのは、いか

- ・要領が悪く、なかなか効率良く物事の処理ができず、応用発展力に欠ける。
- ・他人や組織を当てにし依頼心が強く、努力の割には報われない。

*壬・庚（星平金海プロ版、十干気学より）

- ・河の水が金属が冷えて生じられます。
- ・人よりも優れた探求心を用いながら創造・応用を求めていく生き方。
- ・みずから積極的にチャンスを探し切れ味良く効率的な探求をする能力。

に実利を得るかにかかっています。スタイルとして特に多いのが、素早い決断力を要する分野です。また時代を読み、先を予測して先行投資し、大きな利益をえるような方面にも鼻を利かせ、勝ちを狙ってきます。野末陳平さんがこの偏印を持っています。

*癸・辛

宝石の貴金属は、どうやっても雨を生じることではできないので、期待すると裏切られると、原書には書いてあります。

癸は、頑固で自分のスタイルを変えません。知識欲が旺盛で、情報収集家です。そこに辛の忍耐力と、職人技的な高度な技術力が加わって、完璧な作品を仕上げていきます。この癸は、辛のストイックな美意識が作用しているので、人当たりは柔らかいので

↓ 臨機応変にチャンスを巧みに捉え、駆け引きもできる能力。
・ 真心よりも秩序と効率を優先させる対応処理能力。物質運は案外ない。

*癸・辛 (星平空海プロ版 十干気学より)

・ 雨が宝石に降り、錆付かせています。
・ 人よりも優れた探求心を用いながら創造・応用を求めていく生き方。
・ 要領が悪く、なかなか効率良く物事の処理ができず、応用発展力に欠ける。

ですが、独特の自分の世界観を頑固に持っています。15才で家を出て、19才で去勢手術をし、30過ぎてモロッコで性転換手術をしたカルーセル麻紀さんが、この偏印を持っています。

◆用神・体神・格局について

この用神・体神は、いくら市販の本を読んでもわからないようになっていきます。なぜかというと書いている人が、ちっともわかっていないからです。

- ・用とは何か・・・作用する側です。
 - ・体とは何か・・・作用を受ける側です。
 - ・格局とは、用神か体神のいずれかです。
- 例えば、

・他人に害を与えてしまい、自分も損をする自滅害悪の傾向がある。

丁 己

の並びの場合、火が土を生じるので、作用する『丁』のほうが用神、作用される『己』のほうが体神となります。

・体神というのは、人生上の目標。

・用神は、それを達成するための手段、行動です。

・格局とは、人生目標か手段かのどちらかです。

例えばこの場合、日干の己が体神になります。つまり、愛されたい、情感豊かに生きることが人生の目的となります。その人生の目標を達成するためにどうするかという行動手段が丁です。善なる思いで人の世話をすることで、愛し、愛されるといった目標を達成します。

でも、こんな単語を知らなくても、ここまで読んできた人は、もうこのレベルを越えた脳に進化しています。

それでは、格局とは何でしょう。通変星を使うので、偏印の場合は、偏印格でいいでしょう。実際の用神・体神、格局というのはこういうことなのです。私はこういうことに、ムダなお金を随分投資してきました。皆さんにはこんなことに無駄金を使って欲しくない、そう思います。

◆印綬の象意

*甲・癸

甲の大木にとつて癸の雨は絶対に必要ですと、原書には書いてあります。しかし冬生まれは、寒さによつて大木を腐らせてしまいますとも書いてあります。

甲は、社会常識が発達していて、地位や権力を目指します。癸は知識欲が旺盛で、情報を集めるのが得意です。

これを体用論を使つて説明してみると、明らかに気は水から木へと流れます。癸のほうが用神で作用をする方です。体神は作用される方なので、甲になります。

体神は人生目的です。人生目的は甲の出世する、地位・権力を持つこと、深く思考することです。その達成手段は癸の情報、知識を使つてとなります。これを単純に印綬だから知恵があります

***甲・癸** (星平会海プロ版 十干気学より)
 ・自ら積極的にチャンスを探すよりも、チャンス到来まで待つているタイプ。
 大樹に恵みの雨が降り注ぐ良い状態。

・人よりも優れた聡明さ、素直さで学問、研究を求めていく生き方。
 ・常に考えは深く、行動は善良で自己の利益だけを求めることはしない。
 ・プライドがあるのでへ理屈が出やすいが、落ち着いて物事を処理する能力。

とやっってしまうと、応用がきかず、判断が浅くなってしまうので
す。松田優作さんがこの印綬を持っていました。

*乙・壬

乙の草花に、壬の小川の水が流れるので、暑い夏はよくて、寒い冬はダメだと、原書には書いてあります。別な原書には、小川の流れにスイレンが浮かんで美しい状態という流派もあります。

乙は、協調性があり、人と人とのコミュニケーションを大切に
します。ところが壬はそれと正反対で、対立意識が強く、勝つか
負けるかの勝負を仕掛けてきます。乙本人は、協調性があり安定
を求めますが、その安定を勝ち取るといった形で勝負に挑むよう
になります。人に合わせる協調性と、闘争心の二面性を持ってい

*乙・壬 (星平念海プロ版 十干気学より)

- ・水蓮のような草花が河・湖に咲いている良い状態。
- ・人よりも優れた聡明さ、素直さで学問、研究を求めていく生き方。
- ・自ら積極的にチャンスを探すよりも、チャンス到来まで待つているタイプ。
- ・常に考えは深く、行動は善良で自己の利益だけを求めることはしない。

ます。作家の村上龍がこの印綬を持っています。ペンでは過激な発言をしても、実際対面すると、穏やかに振る舞う人が多くいます。

*丙・乙

悪い作用はしませんが、丙が頼るものとして乙はあまりにも頼りないとなります。期待すると裏切られると、原書には書いてあります。

丙は能動的で、集中します。乙は協調性、調和を図りながら、目指すものは組織のトップに君臨して名声を得ること、といったようになります。しかし、草花が太陽を生じるというのも変ですね。むしろ太陽が草花を育成するというほうが自然でしょう。干

・物事に対してオープンであり、人から好かれるので援助がある。

*丙・乙 (皇平会論プロ版 十干気学より)

- ・太陽がさんさんと草花に降り注ぐ良い状態。
- ・人よりも優れた聡明さ、素直さで学問、研究を求めていく生き方。
- ・自分はチャンスの逃してしまいが、他人には利益を与えてしまうタイプ。

関係としては、日干丙が用神となり、乙が受ける側の体神となります。なので丙が用神で、乙が体神としてみていきます。人生目的は乙の協調性とか、人の和です。どうやって達成するのは、丙の集中力を持つて能動的になります。

こんな風に用神と体神が逆転することもよくあります。なので、分けて考えないほうがいいのです。もつと言えば、用神・体神・格局、こんな単語は脳から消し去りましょう。

*丁・甲

古典的な四柱推命が得意な人は、丁の火が最も喜ぶ燃料の甲があるので、頼りになると判断するでしょう。

丁は情熱的で人の世話をよく焼きます。甲は深い思考力があり

-
- ・行動は善良で人を愛し、自己の利益だけを求めることはしない。
 - ・真(心)よりも秩序と効率を優先させる対応処理能力。物質運は案外ない。

*丁・甲 (星平玄海プロ版 十干気学より)

- ・火が樹木の助けによってめらめらと燃える良い状態。

ますが、どちらも正義感の強さが特徴です。強い正義感をもって、善なる行いをするために、この思考力を発揮します。丁は、自分から積極的に出るタイプではないので、甲のリーダーシップ能力が加わることで、知恵の指導者として丁の正義感を存分に発揮することができません。フィギアスケートの村上佳菜子選手がこの印綬を持っています。丁の愛嬌と、甲の権威、地位、思考などを融合させた演技といえるでしょう。時に考えすぎてしまうとこのようなようになりますが、丁の善なる正義のために深く考える時間というのは、とても大切でしょう。

-
- ・人よりも優れた聡明さ、素直さで学問、研究を求めていく生き方。
 - ・自ら積極的にチャンスを探し、切れ味良く効率的な探求をする能力。
 - ・常に考えは深く、行動は善良で自己の利益だけを求めることはしない。
 - ・真・心よりも秩序と効率を優先させる対応処理能力。人に好かれ援助がある。

* 戊・丁

これは『有火有炉』ユウカユウロ といつて、丁の薪の火を。戊の岩石が炉の役割をして、火を守る組み合わせと、原書には書いてあります。

戊は、信頼関係を大切にし、情で人とつながる社交性があります。丁の善なる行いをしたいという欲求を、戊の信頼で結ばれた人脈が引き継ぎ、丁の知恵を多くの人に伝えることができます。また逆に、丁の正義感が、戊の信頼を強めることにもなります。割腹自殺した三島由紀夫がこの印綬を持っていました。今でも三島由紀夫の意志を継ぐ楯の会は活動しているようですが、善なる行いを目指して、戊の信頼を重んじる心が、今でも継承されているでしょう。

* 戊・丁 (星平大空海プロ版、十干気学より)

・ 炉が火の勢いを調整する良い状態です。

- ・ 人よりも優れた聡明さ、素直さで学問、研究を求めていく生き方。
- ・ 自分はチャンスの逃してしまいが、他人には利益を与えてしまうタイプ。
- ・ 行動は善良で人を愛し、自己の利益だけを求めることはしない。
- ・ 真心よりも秩序と効率を優先させる対応処理能力。物質運は案外ない。

*己・丙

己の田んぼの土に、丙の太陽が輝いているので、役に立つものが横にあると書いてあります。ただ太陽が強すぎると、自信過剰になって失敗すると、原書には書いてあります。

己は情感豊かで、愛情を中心に人生を楽しむことがテーマです。そこに丙の集中力や、粘り強さ、そして名声を求める気が作用してきます。丙の名声をもとめて集中することで、己は豊かな愛情に囲まれた形でカリスマ性を発揮します。池波正太郎の時代劇で活躍していた藤田まことさんが、この印綬を持っていました。己らしい情の深い演技が印象的ですが、それには丙の粘りや集中力が演技に深みを与えていたのでしょう。

*己・丙（皇平云海プロ版、十干気学より）

- ・ 田園の土地に太陽が照っています。
- ・ 人よりも優れた聡明さ、素直さ
- ・ 学問、研究を求めていく生き方。
- ・ 自ら積極的にチャンスを探し、切れ味良く効率的な探求をする能力。
- ・ 常に考えは深く、行動は善良で自己の利益だけを求めることはしない。
- ・ 真心よりも秩序と効率を優先させる対応処理能力。人に好かれ援助がある。

*庚・己

庚の金は、己の田んぼの土からどうやっても生じないので、まったく役に立たない印綬だと書いてあります。これを埋金といって、金が埋もれてしまうと、原書にはひどいことが書いてあります。また逆に、己は水を含んだ湿土なので、金を生じることが出来るという理論もあります。

庚は、損得実利の冷静な判断力と、合理的な行動が特徴です。そこに己の情感豊かに人生を楽しみたいという気が作用してくるので、合理性と情の深さの、相反する二面性を使いこなすことが出来る人となります。己は育成能力を高く持っています。愛情をかけて育成することで、庚の実利も増えていきます。民主党の枝野議員がこの印綬を持っています。

*庚・己 (星平金海プロ版、十干気学より)

・田園の土地から金属が生成されています。

・人よりも優れた聡明さ、素直さで学問、研究を求めていく生き方。

・自ら積極的にチャンスを探し、切れ味良く効率的な探求をする能力。

・常に考えは深く、行動は善良で自己の利益だけを求めることはしない。

・真心よりも秩序と効率を優先させる対応処理能力。人に好かれ援助がある。

*辛・戌

これも原書によると、埋金といって、貴金属が土に埋められるようになります。また逆に、戌は乾いた土なので、金を生じることとはできません。きないともあります。

辛は辛抱して、コツコツ努力して、道を極める求道者です。その辛のこだわりを、戌の信頼で築き上げた人間関係が後押しする形で作用してきます。辛は美意識が高すぎて、周囲に理解されにくいこだわりを持つていますが、それが人付き合いにも影響を与えていました。そこに戌の社交性が加わることで、辛の繊細さが、戌の面の皮で守られて、尖った雰囲気は丸くなります。ちよつと変わっているけど親しみやすい人という印象を持たれやすくなります。デーブ・スペクターさんがこの印綬を持っています。

*辛・戌（星平会海プロ版 十干気学より）

・宝石が山岳の岩石から生々されます。

・人よりも優れた聡明さ、素直さで学問、研究を求めていく生き方。
・自ら積極的にチャンスを探し、切れ味良く効率的な探求をする能力。

・常に考えは深く、行動は善良で自己の利益だけを求めることはない。

・真心よりも秩序と効率を優先させる対応処理能力。人に好かれ援助がある。

*壬・辛

原書には『淘洗』トウセンと書いて、壬の小川の水で、辛の寶石をきれいに洗うという、どちらにも気持ちいい作用をもたらす並びとなっています。

壬は闘争心旺盛で、勝ちを狙ってきます。体用論で、日干の壬が辛のほうに作用を仕掛けるとした場合、目的は、辛の求道、美意識、高い職人技術を求めます。勝ち負けを競う武道のような世界や、その道のトップを目指すことが目的達成手段となります。

体用論に囚われなければ、壬の闘争本能に、辛の忍耐強さが作用して、コツコツと勝利の道を極めていくようになります。うつみ宮土理さんが、この印綬を持っています。

*壬・辛 (星平会海プロ版、十干気学より)

- ・河の水が宝石を洗い輝かします。
- ・人よりも優れた聡明さ、素直さ
- ・学問、研究を求めていく生き方。
- ・自分はチャンスの逃してしまいが、他人には利益を与えてしまうタイプ。
- ・常に考えは深く、平和を求め、自己の利益だけを求めることはしない。
- ・真心よりも秩序と効率を優先させる対応処理能力。物質運は案外ない。

*癸・庚

雨の水が足りない暑い夏の時は、水源の金があるので、とてもいい庚ですが、癸の雨で、庚を錆びさせてしまうので、錆だらけの知恵と、原書には書いてあります。

癸は、完璧主義で自分のスタイルを変えません。そして最後まであきらめません。そこに庚の合理性や、損得実利の気が作用してくるので、ただ知識を広げたり情報収集をするのではなく、利益を上げることを中心に行動します。癸は行動力があまりなく、知に偏りがちですが、庚があることによつてよく動いて情報を集めるようになります。その集め方も損か得かの計算が働くので、無駄がなくコストも安く抑えます。子役で有名な芦田愛菜ちゃんや、元大リーガー投手の野茂選手がこの印綬を持っています。

*癸・庚（皇平大益アロ版、十干気学より）

- ・雨が金属に降り錆付き悪い状態です。
- ・人よりも優れた聡明さ、素直さで学問、研究を求めていく生き方。
- ・要領が悪く、なかなか効率良く物事の処理ができず、努力が報われにくい。
- ・自己主張が強く、他人に害を与え、自分も損をする自滅害悪の傾向がある。

◆『実』に生きる

これで通変星を終わりにしますが、くれぐれも印綬だから知恵がある、比肩だから独立運といったような丸暗記ではなく、その人を観察して、まずは星の発動具合を確かめて下さい。

例えば、日干が乙だとすれば、その人の陽的な部分、陰的な部分がどのように表面に出ているのかを、問診で判断していきます。

そして次に、エネルギーが充実している『実』なのか、枯れてしまっている『虚』なのかを、やはり問診を中心に判断していきます。

1. 陽で実⇨陽実
2. 陰で実⇨陰実
3. 陽で虚⇨陽虚
4. 陰で虚⇨陰虚

*実であれば、陰陽どちらでもいいでしょう。

*虚であれば、陰陽どちらも問題があります。

■東洋医学では3種類のバイオリズムがあります。

- ① 23日周期…身体周期(男性周期)
- ② 28日周期…感情周期(女性周期)
- ③ 33日周期…知性周期(中性)

本人の意志とは無関係に身体が一定のリズムを持っているとされています。